

目 次

香川大学医学部の基本理念・教育目標・人材養成上の目的	(1)
香川大学医学部履修要項	(2)
香川大学医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取扱いに関する要項	(17)
気象警報の発令等における休講措置の基準	(27)
平成23年度 看護学科行事予定表	(28)
平成23年度 授業時間割表(1～4年次生用)	(30)

平成21年度以降入学生対象授業科目

01 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR演習 I N	4
英語コミュニケーションSW演習 I N(1)	5
英語コミュニケーションSW演習 I N(2)	6
英語コミュニケーションLR演習 II N(1)	7
英語コミュニケーションLR演習 II N(2)	8
英語コミュニケーションSW演習 II N	9
上級英語	10

02 基礎・臨床科学

形態・生理学A(生命維持の基本構造)・B(環境適応と行動)	12
生化学	16
分子生物学・栄養学	18
微生物学A(細菌学・原虫学)・B(ウイルス学・真菌学)	20
薬剤療養学	23
免疫学	26
機能再生医療学	28

03 社会保健学

疫学	32
公衆衛生学	34
保健政策論	36
看護と法規	39
社会福祉・社会保障論	41
保健統計論	43
基礎保健学	45

04 基礎看護学

看護学概論	48
看護理論	50
基礎看護方法論	52
基本援助技術論	54
生活援助技術論	59
基礎看護技術論	64
基礎看護学早期体験実習	68
基礎看護学実習	69

05 成人看護学

成人看護学概論	72
成人疾病論	74
成人慢性期援助論	77
成人急性期援助論	80
成人リハビリテーション期援助論	82
成人終末期援助論	85
成人看護学演習	87
成人看護学基本実習	89
成人看護学急性期・リハビリテーション期実習	91
成人看護学慢性期・終末期実習	93
成人看護学継続看護実習	95

06 老年看護学

老年看護学概論	98
老年疾病論	101
老年援助論	103
認知症高齢者のケア	106
老年生活援助実習	108
老年看護学実習	110

07 小児看護学

小児看護学概論	114
小児疾病論	116
小児保健対象論	118
小児援助論	120
子どもを持つ家族の看護	122
小児看護学実習	123

08 母性看護学

母性看護学概論	126
母性疾病論	129
母性保健対象論	131
母性援助論	135
子どもが産まれる家族の看護	139
母性看護学実習	140

09 精神看護学

精神看護学概論	144
精神疾病論	146
精神援助論	148
精神障害者のリハビリテーション	150
精神看護学実習	152

10 在宅看護学

在宅看護学概論	156
在宅援助論	158

11 地域看護学

地域看護学概論	162
地域看護対象論	164
地域援助論	166
地域ケースワーク論	169
産業保健・看護論	171
離島保健・看護論	174
学校保健 I	176

12 統合実践看護学

看護入門セミナー	180
看護とコミュニケーション	181
ヘルスアセスメント	183
家族看護学	185
看護と国際社会	188
看護クリティカルシンキング	190
看護研究ゼミナール	192
看護研究基礎論	193
看護研究	195

13 教職科目

学校保健 II	198
養護原論	200

(目 次)

平成 20 年度以前入学生対象
授業科目

平成20年度以前入学生対象授業科目

14 成人看護学

成人看護学実習	206
---------------	-----

15 老年看護学

老年看護学実習Ⅱ	210
----------------	-----

16 小児看護学

小児看護学実習Ⅱ	214
----------------	-----

17 母性看護学

母性看護学実習Ⅱ	218
----------------	-----

18 地域看護学

地域看護学特論	222
---------------	-----

地域看護学実習	224
---------------	-----

19 精神看護学

精神看護学実習Ⅱ	228
----------------	-----

20 看護管理・教育学

看護管理学	232
-------------	-----

21 総合看護学

看護クリティカルシンキングⅡ	236
----------------------	-----

看護研究Ⅱ	238
-------------	-----

原著講読	240
------------	-----

22 教職科目

養護実習	244
------------	-----

年間時間割カレンダー

1年生	248
-----------	-----

2年生	252
-----------	-----

3年生	267
-----------	-----

4年生	282
-----------	-----

香川大学医学部の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域医療の充実発展に寄与する。

教 育 目 標

- 1 看護の対象である人間としての権利と自由を尊重し、思考力、判断力、行動力を高めることができる能力を養う。
- 2 看護の問題を総合的に判断し、解決できる基本的な知識及び看護実践能力を養う。
- 3 生涯を通じて自己啓発し、看護を批判的に分析し、建設的・創造的に発展させることができる基礎的能力を養う。
- 4 看護活動を通して教育、研究、管理を担い、及び国際貢献ができる能力を養う。

人 材 養 成 上 の 目 的

- 1 生命の尊重を基本として、人間に対する高い倫理性と深い思索力をもった看護職者を育成する。
- 2 保健・医療・福祉の進展に柔軟に対応できる科学的判断力と専門技術を備えた看護職者を育成する。
- 3 幅広い視野を持ち、地域保健医療や国際貢献の発展に寄与する看護職者を育成する。

香川大学医学部履修要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学学則(以下「学則」という。)、香川大学医学部規程及び香川大学追試験及び再試験に関する規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2 開設する授業科目、単位数及び履修年次は、医学科にあつては別表1、看護学科にあつては別表2のとおりとする。ただし、必要がある場合には教授会の議を経て、各年次配当及び単位数を変更することがある。

(授業科目の履修)

第3 授業科目は、原則として別表1及び別表2に定める年次配当順に履修するものとする。

2 学生は、別表1又は別表2に掲げる授業科目を履修しようとするときは、履修届を所定の期日までに総務課学務室(以下「学務室」という。)に提出しなければならない。

3 前項の履修届を提出したのち、履修すべき授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに学務室に提出しなければならない。

(単位の認定)

第4 履修した授業科目については、試験又はその他の審査を行い、合格した科目について所定の単位を認定する。また、2学年以上にまたがる科目については、それぞれ履修途中における学年末に履修段階判定を行うことがある。

(試験)

第5 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、原則として学期末に一定の期間を定めて行う。

3 追試験は、定期試験終了後に、再試験は、定期試験及び追試験終了後に期間を定めて行う。

4 前2項に定める試験のほか、担当教員は学習成果の評価を随時に行うことができる。

5 医学科の学生は、授業科目の講義、実験、実習及び実技のそれぞれの時間数の3分の2以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

6 看護学科の学生は、学内の講義、実験、実習及び実技については3分の2以上、臨地実習については5分の4以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

7 次の各号のいずれかの事由により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行う。

(1) 天災その他の非常災害(事由書添付)

(2) 交通機関の突発事故(事由書添付)

(3) 負傷又は疾病(医師の診断書添付)

(4) 3親等内の親族の死亡による忌引き(事由書添付)

(5) 就職試験の受験(事由書添付)

(6) その他学部長が相当と認める事由(事由書添付)

8 前項による追試験の許可を受けようとする者は、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して7日以内に、前項各号に掲げる書類を添えて医学部長に願い出なければならない。

9 再試験は、定期試験又は追試験を受験し、不合格になった場合、願い出により科目担当教員の承認を得て受けることができる。

(成績の評価)

第6 成績の評価は、次表のとおりの評点及び評語をもって表し、秀、優、良又は可を合格、不可を不合格とする。

評 点	評 語
90 点以上	秀
80 点以上 90 点未満	優
70 点以上 80 点未満	良
60 点以上 70 点未満	可
60 点未満	不可

ただし、医学実習Ⅱはこれらの評点及び評語によらずと評価することができる。

- 2 再試験の評価は、可を限度とする。
- 3 2 年以上の年次にわたって開講する科目については、その途中の各年次ごとに合又は否の履修段階判定を行うことができる。

(医学科の履修段階判定及び進級判定)

第 7 2 年次末において、1 年次及び 2 年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、3 年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

2 3 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、4 年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

3 4 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、5 年次に進級できない。全学共通科目についても、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

4 臨床実習開始前の学生評価のための共用試験(CBT 及び OSCE)に不合格となった場合は、医学実習 I を履修できない。

5 5 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合又は医学実習 I を履修していない場合は、6 年次に進級できない。

(看護学科の進級判定)

第 8 各学年次末において、該当学年次末までに履修しなければならない必修科目について、不合格となった授業科目がある場合は進級できない。

ただし、1 年次末において、全学共通科目は進級判定から除くものとし、2 年次末までに修得しなければならない。

2 3 年次末において、1 年次から 3 年次までに履修しなければならない選択科目について、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

3 3 年次編入学生については、前 2 項の規定は適用しない。

(成績の認定)

第 9 成績の総合認定は、教授会において審議する。

(再履修)

第 10 2、3、4、5 年次に留め置かれた場合は、不合格又は否となった授業科目(実習を含む。)を再履修するものとする。ただし、選択科目については該当する授業科目のうちから再履修するものとする。

2 前項の再履修の方法は、担当教員の指示による。

(聴講)

第 11 既に合格となった授業科目の聴講を希望する者は、当該授業科目担当教員に聴講願を出して、許可を得た上で講義を聴講することができる。

なお、聴講できる授業科目は、聴講する学生の該当する学年次以下において開講されている授業科目とする。

(試験における不正行為)

第 12 試験において不正行為があったときは、教授会の議を経て次のとおり措置する。

- (1) 不正行為があった学期のすべての授業科目の成績を無効とし、原級に留め置く。
- (2) 不正行為について反省が認められない場合は、(1)の措置に加えて、学則第 84 条により懲戒する。

(特例措置)

第 13 平成 16 年度に医学科 3 年次に在籍していた学生のうち、平成 17 年度以降 2 年次に履修することに変更になった授業科目を履修する者については、学則第 26 条の規定にかかわらず、3 年次及び 4 年次の在学期間は 5 年を、それぞれ超えることができないものとする。

(その他)

第 14 その他この履修要項の定めにより処理し難い事項及び不合理な事例が生じた場合は、学務委員会の議を経て処理する。

附 則

1 この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 15 年 9 月 30 日に香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に在学し、かつ平成 16 年 3 月 31 日に旧香川医科大学に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間、旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他教育に必要な事項は、旧香川医科大学の履修要項等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成 17 年 3 月 1 日から施行する。ただし、改正後の要項第 14 及び別表 1 については、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 10 月 21 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

別表 2 (平成23年度～)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考			
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次				
全 学 共 通 科 目	主題科目 A	2			2				2 単位修得	20 単位 以上修 得	28 単位 以上修 得	
	主題科目 B	6			6				6 単位以上修得			
	教養ゼミナール		2		2				選択			
	学問基礎科目		8		8				8 単位以上修得			
	看護学	2			2				2 単位修得			
	コミュニケーション科目	既修外国語 (英語)	6			4	1	1				6 単位以上修得
		初修外国語			2	2						
健康・スポーツ実技		2			2				2 単位修得			
専 門 基 礎 科 学	基 礎 ・ 臨 床 科 学	形態・生理学 A (生命維持の基本構造)	2			2				10 単位以上修得 (選択 1 単位含む)		
		形態・生理学 B (環境適応と行動)	2			2						
		生化学	1			1						
		分子生物学・栄養学	1			1						
		微生物学 A (細菌学・原虫学)	1				1					
		微生物学 B (ウイルス学・真菌学)	1				1					
		薬剤療養学	1			1						
		免疫学		1			1					
	社 会 保 健 学	機能再生医療学		1			1					
		疫学	2					2			8 単位以上修得	
		公衆衛生学	1					1				
		保健政策論	2					2				
		看護と法規	1				1					
		社会福祉・社会保障論	1				1					
保健統計論	1					1						
基 礎 看 護 学	基 礎 看 護 学	基礎保健学			1	1						
		看護学概論	1			1				12 単位修得		
		看護理論	1			1						
		基礎看護方法論	1				1					
		基本援助技術論	2			2						
		生活援助技術論	2				2					
		基礎看護技術論	2				2					
		基礎看護学早期体験実習	1			1						
基礎看護学実習	2				2							

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
生 涯	成 人 看 護 学	成人看護学概論	1			1				14 単位修得
		成人疾病論	2				2			
		成人慢性期援助論	1				1			
		成人急性期援助論	1				1			
		成人リハビリテーション期援助論	1				1			
		成人終末期援助論	1				1			
		成人看護学演習	1					1		
		成人看護学基本実習	1					1		
		成人急性期・リハビリテーション期実習	2						2	
		成人慢性期・終末期実習	2						2	
		成人看護学継続看護実習	1						1	
発 達	老 年 看 護 学	老年看護学概論	2				2			8 単位修得
		老年疾病論	1				1			
		老年援助論	1				1			
		認知症高齢者のケア			1			1		
		老年生活援助実習	2						2	
		老年看護学実習	2						2	
看 護 学	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1				1			6 単位修得
		小児疾病論	1				1			
		小児保健対象論	1				1			
		小児援助論	1				1			
		子どもを持つ家族の看護			1			1		
		小児看護学実習	2						2	
学	母 性 看 護 学	母性看護学概論	1			1				6 単位修得
		母性疾病論	1				1			
		母性保健対象論	1					1		
		母性援助論	1					1		
		子どもが産まれる家族の看護			1			1		
		母性看護学実習	2						2	
精 神 看 護 学	精 神 看 護 学	精神看護学概論	2				2			6 単位修得
		精神疾病論	1				1			
		精神援助論	1				1			
		精神障害者のリハビリテーション			1			1		
		精神看護学実習	2						2	

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考	
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
在宅看護学	在宅看護学	在宅看護学概論	2				2			5 単位必修	
		在宅援助論	1					1			
		在宅看護学実習	2						2		
	地域生活看護学	地域看護学	地域看護学概論	2				2			14 単位必修
			地域看護対象論	1					1		
			地域援助論	2					2		
			地域ケースワーク論	1					1		
			産業保健・看護論	1					1		
			離島保健・看護論	1					1		
			学校保健 I	1					1		
地域看護管理論	1						1				
地域看護学実習	4						4				
統合実践看護学	統合実践看護学	看護入門セミナー			1	1				12 単位以上 (選択 1 単位含む)	
		看護とコミュニケーション	1				1				
		ヘルスアセスメント	1				1				
		家族看護学	1				1				
		看護と国際社会		1				1			
		看護マネジメント学	2						2		
		看護クリティカルシンキング		1				1			
		看護研究セミナー		1			1				
		看護研究基礎論	2					2			
		看護研究	2						2		
統合実習	2						2				
教職科目		学校保健 II			1			1		その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること	
		養護原論			1			1			
		養護実習			4				4		
計			117	15	14	146				129 単位以上修得	

(平成21年度～)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得 看護学必修 (共通科目)	
	主題科目		8		8					
	共通科目		8		8					
	看護学	2			2					
	外国語	既修外国語 (英語)	6			4	1	1		
		初修外国語			2	2				
	健康・スポーツ科目	2			2					
専 門 基 礎 科 学	基礎・臨床科学	形態・生理学A (生命維持の基本構造)	2			2			10 単位以上修得 (選択 1 単位含む)	
		形態・生理学B (環境適応と行動)	2			2				
		生化学	1			1				
		分子生物学・栄養学	1			1				
		微生物学A (細菌学・原虫学)	1				1			
		微生物学B (ウイルス学・真菌学)	1				1			
		薬剤療養学	1			1				
		免疫学		1			1			
	機能再生医療学		1			1				
	社会保健学	疫学	2					2	8 単位以上修得	
		公衆衛生学	1					1		
		保健政策論	2					2		
		看護と法規	1				1			
		社会福祉・社会保障論	1				1			
保健統計論		1					1			
基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	1			1			12 単位修得	
		看護理論	1			1				
		基礎看護方法論	1				1			
		基本援助技術論	2			2				
		生活援助技術論	2				2			
		基礎看護技術論	2				2			
		基礎看護学早期体験実習	1			1				
		基礎看護学実習	2				2			

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
生 涯	成 人 看 護 学	成人看護学概論	1			1				14 単位修得
		成人疾病論	2				2			
		成人慢性期援助論	1				1			
		成人急性期援助論	1				1			
		成人リハビリテーション期援助論	1				1			
		成人終末期援助論	1				1			
		成人看護学演習	1					1		
		成人看護学基本実習	1					1		
		成人急性期・リハビリテーション期実習	2						2	
		成人慢性期・終末期実習	2						2	
		成人看護学継続看護実習	1						1	
発 達	老 年 看 護 学	老年看護学概論	2				2			8 単位修得
		老年疾病論	1				1			
		老年援助論	1				1			
		認知症高齢者のケア			1			1		
		老年生活援助実習	2						2	
		老年看護学実習	2						2	
看 護 学	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1				1			6 単位修得
		小児疾病論	1				1			
		小児保健対象論	1				1			
		小児援助論	1				1			
		子どもを持つ家族の看護			1			1		
		小児看護学実習	2						2	
学	母 性 看 護 学	母性看護学概論	1			1				6 単位修得
		母性疾病論	1				1			
		母性保健対象論	1					1		
		母性援助論	1					1		
		子どもが産まれる家族の看護			1			1		
		母性看護学実習	2						2	
精 神 看 護 学	精 神 看 護 学	精神看護学概論	2				2			6 単位修得
		精神疾病論	1				1			
		精神援助論	1				1			
		精神障害者のリハビリテーション			1			1		
		精神看護学実習	2						2	

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考	
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
在宅看護学	在宅看護学	在宅看護学概論	2				2			5 単位必修	
		在宅援助論	1					1			
		在宅看護学実習	2						2		
	地域生活看護学	地域看護学	地域看護学概論	2				2			14 単位必修
			地域看護対象論	1					1		
			地域援助論	2					2		
			地域ケースワーク論	1					1		
			産業保健・看護論	1					1		
			離島保健・看護論	1					1		
			学校保健 I	1					1		
地域看護管理論			1						1		
地域看護学実習	4						4				
統合実践看護学	統合実践看護学	看護入門セミナー			1	1				12 単位以上 (選択 1 単位含む)	
		看護とコミュニケーション	1				1				
		ヘルスアセスメント	1				1				
		家族看護学	1				1				
		看護と国際社会		1				1			
		看護マネジメント学	2						2		
		看護クリティカルシンキング		1				1			
		看護研究ゼミナール		1			1				
		看護研究基礎論	2					2			
		看護研究	2						2		
統合実習	2						2				
教職科目		学校保健 II			1			1		その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること	
		養護原論			1			1			
		養護実習			4				4		
計			109	23	14	146			129 単位以上修得		

(平成20年度～)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得
	主題科目		8		8				
	共通科目		10		10				
	外国語	既修外国語 (英語)	6			4	1	1	
		初修外国語			2	2			
	健康・スポーツ科目	2			2				
専 門 基 礎 科 目	健 康 科 学	形態・生理学A	2			2			9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			2			
		生化学・栄養学A	1			1			
		生化学・栄養学B	1			1			
		薬剤療養学	1			1			
		基礎保健学	1					1	
		死生学		1		1			
		免疫学		1			1		
		リハビリテーション学		1			1		
		国際保健医療		1				1	
環 境 保 健 科 学	環 境 保 健 科 学	微生物学A	1				1		9 単位修得
		微生物学B	1				1		
		疫学	1					1	
		保健政策論A	1					1	
		保健政策論B	1					1	
		看護と法規	1				1		
		社会福祉・社会保障論A	1					1	
		社会福祉・社会保障論B	1					1	
保健統計論	1					1			
専 門 科 目	基 礎 看 護 学	看護学概論	1			1			12 単位修得
		看護理論	1			1			
		基礎看護方法論	1				1		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1			
		基礎看護援助論Ⅱ	3				3		
		基礎看護援助論Ⅲ	2				2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1			
		基礎看護学実習Ⅱ	2				2		

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1			17 単位以上修得
		成人疾病論	2				2		
		成人援助論Ⅰ	2				2		
		成人援助論Ⅱ	2				2		
		成人援助論Ⅲ	1				1		
		成人援助論Ⅳ			1		1		
		成人看護学演習	1				1		
	成人看護学実習	8						8	
	老年看護学	老年看護学概論	2				2		8 単位修得
		老年疾病論	1				1		
		老年援助論	2				2		
		老年看護学実習Ⅰ	2					2	
		老年看護学実習Ⅱ	1						
	小児看護学	小児看護学概論	1				1		8 単位修得
		小児疾病論	1				1		
		小児援助論Ⅰ	2				2		
		小児援助論Ⅱ	1				1		
		小児看護学実習Ⅰ	1					1	
		小児看護学実習Ⅱ	2						
	母性看護学	母性看護学概論	1			1			8 単位修得
		母性疾病論	1				1		
		母性援助論Ⅰ	2				2		
		母性援助論Ⅱ	1				1		
		母性看護学実習Ⅰ	1					1	
		母性看護学実習Ⅱ	2						
	地域看護学	地域看護学概論	1					1	11 単位以上修得
		地域看護対象論	1					1	
		地域援助論	2					2	
家族援助論		1					1		
地域看護学特論				1				1	
産業保健・看護論		1					1		
離島保健・看護論		1					1		
学校保健Ⅰ		1					1		
学校保健Ⅱ				1			1		
地域看護学実習		3						3	

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	精神看護学	精神看護学概論	2				2		8 単位取得	
		精神疾病論	1				1			
		精神援助論	2					2		
		精神看護学実習Ⅰ	1					1		
		精神看護学実習Ⅱ	2							2
	在宅・家族看護学	在宅看護学	1					1	3 単位以上修得	
		家族看護学	1					1		
		子どもが産まれる家族の看護		1				1		
		子どもを持つ家族の看護		1				1		
		高齢者福祉サービスと看護		1				1		
	看護管理・教育学	精神障害者のリハビリテーション		1				1	1 単位以上修得	
		看護管理学	1					1		
		看護教育学			1			1		
	総合看護学	国際看護比較論			1			1	7 単位以上修得	
		ヘルスアセスメント	1				1			
		看護クリティカルシンキングⅠ	1					1		
		看護クリティカルシンキングⅡ		1				1		
		コミュニケーション・カウンセリング			1			1		
		看護研究Ⅰ	2					2		
		看護研究Ⅱ	2					2		
	教職科目	原著講読		1				1	その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること	
養護原論				1			1			
		養護実習			4			4		
計			106	30	13	149		129 単位以上修得		

(平成19年度入学生)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得	
	主題科目		8		8					
	共通科目		10		10					
	外 国 語	既修外国語（英語）	6			4	1	1		
		初修外国語			2	2				
	健康・スポーツ科目	2			2					
専 門 基 礎 科 目	健 康 科 学	形態・生理学A	2			2			9 単位以上修得	
		形態・生理学B	2			2				
		生化学・栄養学A	1			1				
		生化学・栄養学B	1			1				
		薬剤療養学	1			1				
		基礎保健学	1					1		
		死生学		1		1				
		免疫学		1			1			
		リハビリテーション学		1			1			
		国際保健医療		1				1		
環 境 保 健 科 学	環 境 保 健 科 学	微生物学A	1				1		9 単位修得	
		微生物学B	1				1			
		疫学	1					1		
		保健政策論A	1					1		
		保健政策論B	1					1		
		看護と法規	1				1			
		社会福祉・社会保障論A	1					1		
		社会福祉・社会保障論B	1					1		
		保健統計論	1					1		
専 門 科 目	基 礎 看 護 学	看護学概論	1			1			12 単位修得	
		看護理論	1			1				
		基礎看護方法論	1				1			
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1				
		基礎看護援助論Ⅱ	3				3			
		基礎看護援助論Ⅲ	2				2			
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1				
		基礎看護学実習Ⅱ	2				2			

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1			17 単位以上修得
		成人疾病論	2				2		
		成人援助論Ⅰ	2				2		
		成人援助論Ⅱ	2				2		
		成人援助論Ⅲ	1				1		
		成人援助論Ⅳ			1		1		
		成人看護学演習	1				1		
	成人看護学実習	8						8	
	老年看護学	老年看護学概論	2				2		8 単位修得
		老年疾病論	1				1		
		老年援助論	2				2		
		老年看護学実習Ⅰ	2					2	
		老年看護学実習Ⅱ	1						
	小児看護学	小児看護学概論	1				1		8 単位修得
		小児疾病論	1				1		
		小児援助論Ⅰ	2				2		
		小児援助論Ⅱ	1				1		
		小児看護学実習Ⅰ	1					1	
		小児看護学実習Ⅱ	2						
	母性看護学	母性看護学概論	1			1			8 単位修得
		母性疾病論	1				1		
		母性援助論Ⅰ	2				2		
		母性援助論Ⅱ	1				1		
		母性看護学実習Ⅰ	1					1	
		母性看護学実習Ⅱ	2						
	地域看護学	地域看護学概論	1					1	11 単位以上修得
		地域看護対象論	1					1	
		地域援助論	2					2	
家族援助論		1					1		
地域看護学特論				1				1	
産業保健・看護論		1					1		
離島保健・看護論		1					1		
学校保健		1					1		
地域看護学実習		3						3	
精神看護学	精神看護学概論	2				2		8 単位修得	
	精神疾病論	1				1			
	精神援助論	2					2		
	精神看護学実習Ⅰ	1					1		
	精神看護学実習Ⅱ	2							2

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
専 門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1				1		3 単位以上修得	
		家族看護学	1				1			
		子どもが産まれる家族の看護		1			1			
		子どもを持つ家族の看護		1			1			
		高齢者福祉サービスと看護		1			1			
		精神障害者のリハビリテーション		1			1			
科	看護管理 ・ 教育学	看護管理学	1				1		1 単位以上修得	
		看護教育学			1		1			
		国際看護比較論			1		1			
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			1			7 単位以上修得	
		看護クリティカルシンキングⅠ	1				1			
		看護クリティカルシンキングⅡ		1						1
		コミュニケーション・カウンセリング			1		1			
		看護研究Ⅰ	2				2			
		看護研究Ⅱ	2							2
		原著講読		1				1		
計		104	32	7	143			129 単位以上修得		

香川大学医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取り扱いに関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部看護学科における3年次編入学生(以下「編入学生」という。)の既修得単位、在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則(以下「学則」という。)第25条の規定にかかわらず2年とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず4年を超えることができない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、編入学した学年次の入学年度によるものとする。

(既修得単位の認定)

第5 入学前の短期大学等において修得した単位は、本学が開設している授業科目と照合し、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定する。

2 認定する授業科目の単位数については、別表に定めるとおりとする。

(認定手続)

第6 第5に規定する既修得単位の取扱いについては、学務委員会で原案を作成し、教授会が本学の単位として認定する。

(認定の通知)

第7 認定の結果については、速やかに当該学生に通知する。

(成績の標語)

第8 第6の規定により認定された授業科目の成績は、「認定」の標語をもって表すものとする。

(修得単位)

第9 編入学生は、第6の規定により認定された単位と合わせて、別表の卒業要件として定められた単位を修得しなければならない。

(履修指導)

第10 認定を行った場合は、学習内容の豊富化を図るよう適切な指導を行うものとする。

附 則

1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成15年9月30日までに香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に編入学し、かつ平成16年3月31日に在学する者の旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他の教育に必要な事項は、旧香川医科大学の医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取扱いに関する要項等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月16日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

別表

医学部看護学科3年次編入学卒業要件単位（平成23年度入学者）

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位数	
		必修	選択	自由				
全学 共通 科目	教養ゼミナール		2		1	20 単位	28 単位以上修得	
	主題科目		8		1・2			
	学問基礎科目		8		1・2			
	看護学	2			1・2			
	外国語	既修外国語（英語）	6					1・2・3
		初修外国語			2			1・2・3・4
健康・スポーツ科目	2			1・2				
専 門 基 礎 科 学	基礎・ 臨床 科学	形態・生理学A（生命維持の基本構造）	2			1	9 単位	10 単位以上修得
		形態・生理学B（環境適応と行動）	2			1		
		生化学	1			1		
		分子生物学・栄養学	1			1		
		微生物学A（細菌学・原虫学）	1			2		
		微生物学B（ウイルス学・真菌学）	1			2		
		薬剤療養学	1			1		
		免疫学		1		2		
		機能再生医療学		1		2		
	社会 保健 学	疫学	2			3	2 単位	8 単位以上修得
		公衆衛生学	1			3		
		保健政策論	2			3		
		看護と法規	1			2		
		社会福祉・社会保障論	1			2		
		保健統計論	1			3		
基礎保健学				1	1			
基礎 看護 学	基礎 看護 学	看護学概論	1			1	12 単位	12 単位修得
		看護理論	1			1		
		基礎看護方法論	1			2		
		基本援助技術論	2			1		
		生活援助技術論	2			2		
		基礎看護技術論	2			2		
		基礎看護学早期体験実習	1			1		
		基礎看護学実習	2			2		

授 業 科 目 等		単 位 数			配 当 年 次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位数	
		必 修	選 択	自 由				
生 涯	成 人 看 護 学	成人看護学概論	1			1	14 単位	14 単位修得
		成人疾病論	2			2		
		成人慢性期援助論	1			2		
		成人急性期援助論	1			2		
		成人リハビリテーション期援助論	1			2		
		成人終末期援助論	1			2		
		成人看護学演習	1			3		
		成人看護学基本実習	1			3		
		成人急性期・リハビリテーション期実習	2			4		
		成人慢性期・終末期実習	2			4		
		成人看護学継続看護実習	1			4		
		発 達	老 年 看 護 学	老年看護学概論	2			
老年疾病論	1					2		
老年援助論	1					2		
認知症高齢者のケア					1	3		
老年生活援助実習	2					3・4		
老年看護学実習	2					3・4		
看 護 学	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1			2	6 単位	6 単位修得
		小児疾病論	1			2		
		小児保健対象論	1			2		
		小児援助論	1			2		
		子どもを持つ家族の看護			1	3		
		小児看護学実習	2			3・4		
学	母 性 看 護 学	母性看護学概論	1			1	6 単位	6 単位修得
		母性疾病論	1			2		
		母性保健対象論	1			3		
		母性援助論	1			3		
		子どもが産まれる家族の看護			1	3		
		母性看護学実習	2			3・4		
精 神 看 護 学	精 神 看 護 学	精神看護学概論	2			2	6 単位	6 単位修得
		精神疾病論	1			2		
		精神援助論	1			2		
		精神障害者のリハビリテーション			1	3		
		精神看護学実習	2			3・4		

授 業 科 目 等			単 位 数			配 当 年 次	編入学生 認定単位	卒業要件単位数	
			必 修	選 択	自 由				
在宅看護学	在宅看護学	在宅看護学概論	2			2	上限 5単位	5単位修得	
		在宅援助論	1			3			
		在宅看護学実習	2			4			
	地域生活看護学	地域看護学	地域看護学概論	2			2	—	14単位修得
			地域看護対象論	1			3		
			地域援助論	2			3		
			地域ケースワーク論	1			3		
			産業保健・看護論	1			3		
			離島保健・看護論	1			3		
			学校保健Ⅰ	1			3		
地域看護管理論			1			4			
地域看護学実習	4			4					
統合実践看護学	統合実践看護学	看護入門セミナー			1	1	5単位	12単位以上	
		看護とコミュニケーション	1			2			
		ヘルスアセスメント	1			2			
		家族看護学	1			2			
		看護と国際社会		1		3			
		看護マネジメント学	2			4			
		看護クリティカルシンキング		1		3			
		看護研究ゼミナール		1		2			
		看護研究基礎論	2			3			
		看護研究	2			3・4			
		統合実習	2			4			
教職科目	学校保健Ⅱ			1	3		その他, 教職に必要な 科目は, 教育学部で開 設している科目を履 修すること		
	養護原論			1	3				
	養護実習			4	4				
計			109	23	14		93単位	129単位以上修得	

別表

医学部看護学科3年次編入学卒業要件単位（平成22年度入学者）

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
		必修	選択	自由				
全学 共通科目	教養ゼミナール		2		1	20 単位	28 単位以上 修得	
	主題科目		8		1			
	共通科目		10		1			
	外国語	既習外国語（英語）	6					1・2・3
		初習外国語			2			1
	健康・スポーツ科目	2			1			
専門基礎科目	健康科学	形態・生理学A	2			1	7 単位	9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			1		
		生化学・栄養学A	1			1		
		生化学・栄養学B	1			1		
		薬剤療養学	1			1		
		基礎保健学	1			3		
		死生学		1		1		
		免疫学		1		2		
		リハビリテーション学		1		2		
		国際保健医療		1		3		
	環境保健科学	微生物学A	1			2	3 単位	9 単位修得
		微生物学B	1			2		
		疫学	1			3		
		保健政策論A	1			3		
		保健政策論B	1			3		
		看護と法規	1			2		
		社会福祉・社会保障論A	1			3		
		社会福祉・社会保障論B	1			3		
		保健統計論	1			3		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1			1	12 単位	12 単位修得
		看護理論	1			1		
		基礎看護方法論	1			2		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1		
		基礎看護援助論Ⅱ	3			2		
		基礎看護援助論Ⅲ	2			2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1	17 単位 17 単位以上 修得
		成人疾病論	2			2	
		成人援助論Ⅰ	2			2	
		成人援助論Ⅱ	2			2	
		成人援助論Ⅲ	1			2	
		成人援助論Ⅳ			1	2	
		成人看護学演習	1			2	
		成人看護学実習	8			4	
	老年看護学	老年看護学概論	2			2	8 単位 8 単位修得
		老年疾病論	1			2	
老年援助論		2			2		
老年看護学実習Ⅰ		2			3		
老年看護学実習Ⅱ		1			4		
小児看護学	小児看護学概論	1			2	8 単位 8 単位修得	
	小児疾病論	1			2		
	小児援助論Ⅰ	2			2		
	小児援助論Ⅱ	1			2		
	小児看護学実習Ⅰ	1			3		
	小児看護学実習Ⅱ	2			4		
母性看護学	母性看護学概論	1			1	8 単位 8 単位修得	
	母性疾病論	1			2		
	母性援助論Ⅰ	2			2		
	母性援助論Ⅱ	1			2		
	母性看護学実習Ⅰ	1			3		
	母性看護学実習Ⅱ	2			4		
地域看護学	地域看護学概論	1			3	— 11 単位以上 修得	
	地域看護対象論	1			3		
	地域援助論	2			3		
	家族援助論	1			3		
	地域看護学特論			1	4		
	産業保健・看護論	1			3		
	離島保健・看護論	1			3		
	学校保健Ⅰ	1			3		
	学校保健Ⅱ			1	3		
	地域看護学実習	3			4		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
専	精神看護学	精神看護学概論	2			2	8 単位	8 単位修得
		精神疾病論	1			2		
		精神援助論	2			3		
		精神看護学実習 I	1			3		
		精神看護学実習 II	2			4		
門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1			3	—	3 単位以上修得
		家族看護学	1			3		
		子どもが産まれる家族の看護		1		3		
		子どもを持つ家族の看護		1		3		
		高齢者福祉サービスと看護		1		3		
		精神障害者のリハビリテーション		1		3		
科	看護管理・教育学	看護管理学	1			3	1 単位	1 単位以上修得
		看護教育学			1	3		
		国際看護比較論			1	3		
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			2	—	7 単位以上修得
		看護クリティカルシンキング I	1			3		
		看護クリティカルシンキング II		1		4		
		コミュニケーション・カウンセリング			1	3		
		看護研究 I	2			3		
		看護研究 II	2			4		
		原著講読		1		3		
教職科目	養護原論			1	3	—	その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること	
	養護実習			4	4			
計		106	30	13		92 単位	129 単位以上修得	

医学部看護学科3年次編入学卒業要件単位（平成21年度入学者）

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
		必修	選択	自由				
全学 共通科目	教養ゼミナール		2		1	20 単位	28 単位以上 修得	
	主題科目		8		1			
	共通科目		10		1			
	外国語	既習外国語（英語）	6					1・2・3
		初習外国語			2			1
	健康・スポーツ科目	2			1			
専門基礎科目	健康科学	形態・生理学A	2			1	7 単位	9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			1		
		生化学・栄養学A	1			1		
		生化学・栄養学B	1			1		
		薬剤療養学	1			1		
		基礎保健学	1			3		
		死生学		1		1		
		免疫学		1		2		
		リハビリテーション学		1		2		
		国際保健医療		1		3		
	環境保健科学	微生物学A	1			2	3 単位	9 単位修得
		微生物学B	1			2		
		疫学	1			3		
		保健政策論A	1			3		
		保健政策論B	1			3		
		看護と法規	1			2		
		社会福祉・社会保障論A	1			3		
		社会福祉・社会保障論B	1			3		
		保健統計論	1			3		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1			1	12 単位	12 単位修得
		看護理論	1			1		
		基礎看護方法論	1			2		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1		
		基礎看護援助論Ⅱ	3			2		
		基礎看護援助論Ⅲ	2			2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1	17 単位 17 単位以上 修得
		成人疾病論	2			2	
		成人援助論Ⅰ	2			2	
		成人援助論Ⅱ	2			2	
		成人援助論Ⅲ	1			2	
		成人援助論Ⅳ			1	2	
		成人看護学演習	1			2	
		成人看護学実習	8			4	
	老年看護学	老年看護学概論	2			2	8 単位 8 単位修得
		老年疾病論	1			2	
		老年援助論	2			2	
		老年看護学実習Ⅰ	2			3	
		老年看護学実習Ⅱ	1			4	
	小児看護学	小児看護学概論	1			2	8 単位 8 単位修得
		小児疾病論	1			2	
		小児援助論Ⅰ	2			2	
		小児援助論Ⅱ	1			2	
		小児看護学実習Ⅰ	1			3	
		小児看護学実習Ⅱ	2			4	
	母性看護学	母性看護学概論	1			1	8 単位 8 単位修得
		母性疾病論	1			2	
		母性援助論Ⅰ	2			2	
		母性援助論Ⅱ	1			2	
		母性看護学実習Ⅰ	1			3	
		母性看護学実習Ⅱ	2			4	
	地域看護学	地域看護学概論	1			3	— 11 単位以上 修得
		地域看護対象論	1			3	
		地域援助論	2			3	
家族援助論		1			3		
地域看護学特論				1	4		
産業保健・看護論		1			3		
離島保健・看護論		1			3		
学校保健		1			3		
地域看護学実習		3			4		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
専	精神看護学	精神看護学概論	2			2	8 単位	8 単位修得
		精神疾病論	1			2		
		精神援助論	2			3		
		精神看護学実習 I	1			3		
		精神看護学実習 II	2			4		
門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1			3	—	3 単位以上修得
		家族看護学	1			3		
		子どもが産まれる家族の看護		1		3		
		子どもを持つ家族の看護		1		3		
		高齢者福祉サービスと看護		1		3		
		精神障害者のリハビリテーション		1		3		
科	看護管理 ・教育学	看護管理学	1			3	1 単位	1 単位以上修得
		看護教育学			1	3		
		国際看護比較論			1	3		
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			2	—	7 単位以上修得
		看護クリティカルシンキング I	1			3		
		看護クリティカルシンキング II		1		4		
		コミュニケーション・カウンセリング			1	3		
		看護研究 I	2			3		
		看護研究 II	2			4		
		原著講読		1		3		
計		106	30	7		92 単位	129 単位以上修得	

気象警報の発令等における休講措置の基準

平成22年1月6日（全学）教務委員会申合せ

全ての学部及び研究科の開講科目並びに全学共通教育の開講科目に関して、気象警報の発令等の場合における休講の措置は、次の基準による。

なお、その措置については、その都度掲示する。

1. 気象警報の発令による場合

(1) 午前8時30分以降午後6時前の間に開始される授業について、香川県の全域又は一部地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午前6時に既に発令中又はそれ以降に発令された場合は、休講とする。

ただし、午前9時の時点で警報が解除されている場合で、かつ、それ以降に発令されないときは、午後1時以降に開始される授業を実施する。

(2) 午後6時以降に開始される授業（夜間主コースの授業を含む。）については、前号の「午前6時」とあるのは「午後3時」に読み替えるものとし、ただし書きは適用しない。

(3) 教育実習、臨床実習、臨地実習等の授業で前各号によりがたい場合は、その都度、その授業を開講する部局の長が判断し措置する。

2. その他非常時の場合

学部の開講科目については学部長が、研究科の開講科目については研究科長が、全学共通教育の開講科目については大学教育開発センター長が判断し措置する。

この申合せは、平成22年4月1日から施行する。

平成23年度行事予定表(看護学科)

学期 学年	1	2			
前期	4	1 金 学年始 前期開始 4 月 入学式 新入生ガイダンス 5 火 新入生ガイダンス(全学) 6 水 定期健康診断 7 木 前期授業開始 9 土 新入生研修 16 土 医学部新入生歓迎行事	4	1 金 学年始 前期開始 6 水 授業ガイダンス 7 木 前期授業開始 8 金 定期健康診断 (午後休講)	
	5		5		
	6		6		
	7		7		
	8	28 木 28～3日第1学期末試験 4日～10日補講・予備日 10 水 11 木 夏季休業開始	8	28 木 28～3日第1学期末試験 4日～10日補講・予備日 10 水 11 木 夏季休業開始	
	9		9	1 木 補講期間	
	23	23 金 3年次編入入試 30 金 夏季休業終了 前期終了	23	23 金 3年次編入入試 30 金 夏季休業終了 前期終了	
	後期	10	1 土 大学記念日(休業) 後期開始 3 月 後期授業開始 8 土 医学部祭 9 日 28 金 香大祭(臨時休業)	10	1 土 大学記念日(休業) 後期開始 3 月 後期授業開始 7 金 前夜祭(午後休講) 8 土 医学部祭 9 日 28 金 香大祭
		11	1 火 月曜日授業振替日 26 土 推薦入試	11	26 土 推薦入試
		12	21 水 金曜日授業振替日 25 日 冬季休業	12	21 水 金曜日授業振替日 25 日 冬季休業
1		7 土 10 火 金曜日授業振替日 13 金 センター試験準備(臨時休業) 14 土 大学入試センター試験 15 日	1	7 土 10 火 金曜日授業振替日 13 金 午後入試準備 14 土 大学入試センター試験 15 日	
2		9 木 9～15日第2学期末試験 22 水 16～22日補講・予備日 24 金 午後入試準備 25 土 前期入試 26 日	2	1 水 補講期間開始 9 木 9～15日第2学期末試験 22 水 16～22日補講・予備日 24 金 午後入試準備 25 土 前期入試 26 日	
3		11 日 春季休業開始 12 月 後期入試 13 火 31 土 後期終了 学年終	3	9 金 補講期間終了 11 日 春季休業開始 12 月 後期入試 13 火 31 土 後期終了 学年終	

平成23年度行事予定表(看護学科)

学期 学年	3			4		
前期	4	1 金	学年始 前期開始	4	1 金	学年始 第1学期開始
		6 水	授業ガイダンス		6 水	授業ガイダンス
		7 木	前期授業開始		7 木	オリエンテーション開始
		8 金	定期健康診断 (午後休講)		7 木	前期授業開始
					8 金	定期健康診断 (午後休講)
	5			5		
	6			6		
	7			7		
	8	28 木	28～3日第1学期末試験 4日～10日補講・予備日	8	30 土	夏季休業開始
	9	10 水	夏季休業開始			
後期		11 木	補講期間		28 日	夏季休業終了
					1 木	補講期間
		23 金	3年次編入入試		9 金	
		30 金	夏季休業終了 前期終了		23 金	3年次編入入試
	10			10	30 金	前期終了
		1 土	大学記念日(休業) 後期開始		1 土	大学記念日(休業) 後期開始
		3 月	後期授業開始		8 土	医学部祭
		7 金	前夜祭(午後休講)		9 日	
		8 土	医学部祭		28 金	香大祭
		9 日			30 日	
11			11			
	26 土	推薦入試		26 土	推薦入試	
12			12			
	21 水	金曜日授業振替日		21 水	金曜日授業振替日	
	25 日	冬季休業		25 日	冬季休業	
1	7 土		1	7 土		
	10 火	金曜日授業振替日		10 火	金曜日授業振替日	
	13 金	午後入試準備		13 金	午後入試準備	
	14 土	大学入試センター試験		14 土	大学入試センター試験	
	15 日			15 日		
2			2			
	24 金	午後入試準備		24 金	午後入試準備	
	25 土	前期入試		25 土	前期入試	
	26 日			26 日		
3			3			
	11 日	春季休業開始		1 木	卒業認定日	
	12 月	後期入試				
	13 火			24 土	卒業式	
	31 土	後期終了 学年終				

平成23年度 授業時間割表

(1年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:50)
月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井)209	生化学 (田中)209		
火	幸町キャンパス				
水	教養ゼミナール (峠, 大西, 他) 301,303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井)209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
木	幸町キャンパス				
金	幸町キャンパス				

後期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:50)
月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井)209	分子生物学・栄養学 (田中)209	母性看護学概論 (内藤)209	成人看護学概論 (清水)209 基礎保健学 (大西)209
火	幸町キャンパス				
水	看護理論 (名越)209	薬剤療養学 (筒井, 他)209	形態・生理学B (峠, 筒井)209	基本援助技術論 (南)209	
			基本援助技術論 (南)209		
木	幸町キャンパス				
金	幸町キャンパス				

(備 考)

1. 教室名

209…209講義室 (看護棟2F)	301…301講義室 (看護棟3F)
303…303講義室 (看護棟3F)	312…312セミナー室 (看護棟3F)
マルチ…マルチメディア実習室(看護棟2F)	臨2…臨床講義棟2階

2. 実習期間

基礎看護学早期体験実習 9月20日(火),21日(水),22日(木),26日(月)

3. 注意事項

(1) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

(2) 母性看護学概論は11月7日～12月19日

(3) 看護学概論は4月20, 27日, 5月11, 18日水曜日2限に三大学連携授業として
医学科と合同授業(科目:医学概論)を行う。

(4) 水曜日2限の形態・生理学Aは、4月20, 27日, 5月11, 18日は水曜日3限に開講

(5) 看護入門セミナーは平成23年度休講

平成23年度 授業時間割表

(2年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:50)
月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日(I～V時限)・全学共通科目開講日)				
火	生活援助技術論 (南)209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中)209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他)301
	基礎看護技術論 (南)209				
水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江)301	成人急性期援助論 (當日) 301	小児疾病論 8コマ (伊藤, 他)301 成人疾病論予備日 (田中, 他)209	
木	精神看護学概論 (越智)305	免疫学 (筒井)305	老年看護学概論 (大森)305	成人疾病論予備日 (田中, 他)209 老年疾病論 8コマ (峠, 他)305	小児看護学概論 (祖父江)209
金	基礎看護方法論 (名越, 他)209	成人慢性期援助論 (清水)209	生活援助技術論 (南)209		
			基礎看護技術論 (南)209		

後期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:50)
月		基礎看護技術論 (南)305	母性疾病論 4週 (※秦, 内藤)305	母性疾病論 4週 (※秦, 内藤)305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本)305
			成人終末期援助論 (金正)305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本)305	基礎保健学 (大西)305
火	精神援助論 (越智)301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中)209	老年援助論 (大森)209	家族看護学 (内藤, 松井)209	
水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井)301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他)301	
木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日(I～V時限)・全学共通科目開講日)				
金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey, 長井, 他) 209,301,305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日)209	地域看護学概論 (大西)209	

(備 考)

1. 教室名

209…209講義室 (看護棟2F) 301…301講義室 (看護棟3 F)
303…303講義室 (看護棟3F) 305…305講義室 (看護棟3 F)

2. 補講期間

9月 1日(木)～ 9月30日(金)

2月 1日(水)～ 3月9日(金)

3. 実習期間

基礎看護学実習:9月5日(月)～9月16日(金)

4. 注意事項

(1) 4月8日(金)午後健康診断のため休講

(2) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

(3) ※は非常勤講師を示す。

(4) 集中講義について

○ 看護とコミュニケーション(必修・15h)

藪添・竹森 :8月4日(木)～8月5日(金)に集中講義にて開講予定。

○ 社会福祉・社会保障論(必修・30h)

9月21日(水)～ 9月30日(金)に集中講義にて開講予定。

○ ヘルスアセスメント(必修・30h)

後期2月補講期間に集中講義にて開講予定。

○母性疾病論(必修15h)

秦幸吉、内藤直子:10月3日(月)～10月31日(月)に集中講義にて開講予定。

(5) 看護研究ゼミナールは平成23年度休講

平成23年度 授業時間割表

(3年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:50)
月			在宅援助論 (松井)305 成人看護学演習 (清水・當日・金正)305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305 保健統計論・疫学 (※真鍋)305, マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋)305, マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋)305 離島保健・看護論 (大西, 他)305	学校保健 I (松井)305
水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他)305	看護クリティカルシンキング(清水)305		
木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習 II N」 (Willey, 長井, 他) 301, 303, 305	看護研究基礎論 (當日・谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他)301 学校保健 II (※中西)303	
					養護原論 (※中西)303

後期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:05)
月		臨	地	実	習
火		臨	地	実	習
水		臨	地	実	習
木		臨	地	実	習
金		臨	地	実	習

(備 考)

1. 教室名

301…301講義室(看護棟3F) 303…303講義室(看護棟3F) 305…305講義室(看護棟3F)
大B…大講義室B(講義棟1F) マルチ…マルチメディア実習室(看護棟2F)

2. 補講期間

9月1日(木)～9月30日(金)
2月27日(月)～3月9日(金)

3. 実習期間

「2011～2012 看護学実習の手引」を参照すること。

4. 注意事項

(1) 4月8日(金)午後健康診断のため休講

(2) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

(3) ※は非常勤講師を示す。

(4) 「学校保健Ⅰ」の詳細は後日。

(5) 3年次編入生のみ受講科目

○2年次後期開講科目の「地域看護学概論」(後期金曜日4限), 「家族看護学」(後期前半期火曜日4限), 「看護とコミュニケーション」(8月集中講義)を必ず受講すること

○「看護と国際社会」または「看護クリティカルシンキング」のいずれかを必ず受講すること

(6) 集中講義について

○ 公衆衛生学(必修・15h)

※加藤: 4/12(火)8:50～17:00, 4/13(水)8:50～14:30 に集中講義で開講する。

ただし、3年次編入学生で養教課程希望者は、別に指示する。

○看護と国際社会(選択・15h)

※4月19日(火)、3・4限 4月26日(火)の4限

他の授業の日程は4月15日、22日、5月6日、13日(金)の4・5限

○看護研究は、1/16(月)～2/10(金)に開講

○精神障害者のリハビリテーションは11月11日、18日、25日(金)9時35分～14時30分の集中で開講

○認知症高齢者のケアは11月10日、17日、24日(木)3・4・5限の集中で開講

(7) 子どもを持つ家族の看護・子どもが産まれる家族の看護は平成23年度は休講

(8)母性保健対象論 4月6日は4月8日(金)Ⅰ限に変更。4月13日は4月15日(金)Ⅰ限に変更。

平成23年度 授業時間割表

(4年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20~17:05)
月	臨	地	実	習	
火	臨	地	実	習	
水	臨	地	実	習	
木	臨	地	実	習	
金	臨	地	実	習	

後期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20~17:05)
月	看護研究Ⅱ				
火			看護クリティカルシンキングⅡ (精神)(越智) 301		
水					
木		看護クリティカルシンキングⅡ (地域)(大西・松井他) 301		原著講読 (田中, 越田)301	
金					

(備 考)

1. 教室名

301…301講義室 (看護棟3F)

2. 補講期間

9月1日(木)～ 9月9日(金)

3. 実習期間

「2010～2011 看護学実習の手引」を参照すること。

4. 注意事項

(1) 4月8日(金)午後健康診断のため休講

(2) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

(3) 看護クリティカルシンキングⅡ(地域:11月10日～12月1日, 精神:11月8日～11月22日)で開講

(4) 原著講読は11月10日から開講。

(5) 集中講義について

○ 看護研究Ⅱ: 4月11日(月)～10月31日(月)

○ 地域看護学特論(自由・15h): 12月12日(月)～12月16日(金)に開講。

○ 看護管理学(必修・15h): 11月22日(火)1,2限 24日(木)1～4限, 11月29日(火)2～4限に開講

(6) 看護教育学は平成23年度は休講

平成 21 年度以降入学生対象
授業科目

01 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR 演習 I N(1)

授業科目名	英語コミュニケーションLR 演習 I N (1) English(Listening & Reading) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041801
講義題目		単位数	1	時間割	後期 金 2
教員名	長尾 明子 (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>LR 演習は、英語コミュニケーション能力のうち、特に受信能力を高めるための、リスニングおよびリーディング活動を中心とする演習科目です。聴解、速読、語彙・文法、総合、ニュース英語、検定演習、音声学習のいずれかをテーマに、要点把握力と速読・速聴力および語彙力の向上に努めながら、リスニングおよびリーディング演習を行います。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>テーマ (総合)</p> <p>(1) Students will be able to increase their ability to communicate in spoken English.</p> <p>(2) Students will be able to develop their ability to use communication strategies by listening and speaking.</p> <p>(3) Students will be able to increase their ability to evaluate their language to be autonomous learners.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>This course aims to improve students' s communication skills with particular focus on listening and speaking. First, at the beginning of every class, students will listen and talk about familiar topics to warm-up. Then, students will have opportunities to express their opinion about the topics. Students communicate in English with a lecturer and 3 or 4 classmates.</p>					
成績評価の方法と基準					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Attendance /participation in English 20% 2. Writing assignment 20% 3. Transcription or Scrapbook 30% 4. Group Interview or Presentation Test 30% 					
授業計画					
<p>WK1: Review of first semester.</p> <p>WK2 ~ WK14: Topics: Friends, School, Dating, Travel, New Year' s Resolutions for 2012 に関するグループまたはペアアクティビティを実施する。プレゼンテーション有。</p> <p>WK15: Summary for Group Interview/ Presentation Text</p> <p>WK16: Group Interview/ Presentation Final Examination</p>					
教科書					
Kenny, T., & Woo, L. (2004). Nice Talking with You. Macmillan Language House. (こちらで準備します)					
参考書					
Kluge, D., & Taylor, M. (2011). In My Life. Macmillan Language House.					
オフィスアワー					
授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。					
履修上の注意					
<p>自分の英語力を高めようという強い意欲と意志を持って、諸活動に積極的に臨んで下さい。第1回目の授業で行われるガイダンスで、授業の進め方、予習・復習・宿題の方法等を、しっかり確認して下さい。なお、英語の授業では、単に椅子に座っているだけで活動に参加しない(不参加出席)学生を欠席扱いとすることになっているので、注意して下さい。4回以上の欠席回数の場合は単位は与えられません。遅刻3回で欠席1回の扱いとします(遅刻は10分程度まで)。授業中の睡眠および携帯電話の使用は厳禁です。また、外国語自習室を有効利用しましょう。</p>					

英語コミュニケーションSW 演習 I N(1)

授業科目名	英語コミュニケーションSW 演習 I N(1) English(Speaking & Writing) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041802
講義題目	Presentation, Writing and Vocabulary	単位数	1	時間割	後期 金 2
教員名	ウィリアム・イアン・デビッド (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this combined Presentation and Writing-themed course, students will become able to 1) deliver presentations in English; 2) type papers in English using word processing software; and 3) use basic Nursing English vocabulary and communicative expressions.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Handouts and class activities will focus on basic typing and presentation skills. Typed homework will be assigned regularly, and will be used as material for discussion and presentation practice. The textbook will be used in class to develop students' Nursing English vocabulary, and will connect to discussion and presentation exercises. Students will often perform role plays involving nursing situations. There will be weekly vocabulary quizzes, as well as a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>S Students' grades will be based on the following: 20%: Participation (in-class effort) 40%: Typed homework and quizzes 40%: Presentation projects (Mid-term and Final)</p>					
授業計画					
<p>(1) Introductions (2) What is a presentation? Begin textbook work (3~5) Textbook and presentation skills (6) Presentation Project 1 (Mid-term) (7~11) Textbook and presentation skills (12) Presentation Project 2 assigned (13) Presentation 2 workshop (14) Presentation 2 (part 1) (15) Presentation 2 (part 2); Wrap-up</p>					
教科書					
<p>看単! Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan, and S. Shibata. Nanzando Publishers, 2009.</p>					
参考書					
オフィスアワー					
<p>Wednesdays 14:00~16:00 (Saiwai-cho campus only). Students may contact the teacher by e-mail : ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。 Please remember to bring your textbook to class on the first class! Late homework will receive one-half credit. Quizzes cannot be made up.</p>					

英語コミュニケーションSW 演習 I N(2)

授業科目名	英語コミュニケーションSW 演習 I N(2) English(Speaking & Writing) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041803
講義題目	Presentation, Writing and Vocabulary	単位数	1	時間割	後期 金 2
教員名	マクラン ジェフティーン (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this combined Presentation and Writing-themed course, students will become able to 1) deliver presentations in English; 2) type papers in English using word processing software; and 3) use basic Nursing English vocabulary and communicative expressions.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Handouts and class activities will focus on basic typing and presentation skills. Typed homework will be assigned regularly, and will be used as material for discussion and presentation practice. The textbook will be used in class to develop students' Nursing English vocabulary, and will connect to discussion and presentation exercises. Students will often perform role plays involving nursing situations. There will be weekly vocabulary quizzes, as well as a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students' grades will be based on the following: 20%: Participation (in-class effort) 40%: Typed homework and quizzes 40%: Presentation projects (Mid-term and Final)</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) What is a presentation? Begin textbook work (3~5) Textbook and presentation skills (6) Presentation Project 1 (Mid-term) (7~11) Textbook and presentation skills (12) Presentation Project 2 assigned (13) Presentation 2 workshop (14) Presentation 2 (part 1) (15) Presentation 2 (part 2); Wrap-up 					
教科書					
<p>看単! Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan, and S. Shibata. Nanzando Publishers, 2009.</p>					
参考書					
オフィスアワー					
<p>Wednesday & Thursday 12:00-1:00pm (Saiwai Campus only)</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。 Please remember to bring your textbook to class on the first class! Late homework will receive one-half credit. Quizzes cannot be made up.</p>					

英語コミュニケーションLR 演習ⅡN(1)

授業科目名	英語コミュニケーションLR 演習Ⅱ N (1) English(Listening & Reading)Ⅱ	科目区分	外国語科目	授業コード	041811
講義題目		単位数	1	時間割	前期 金 2
教員名	長井 克己 (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3年次 医学部看護学科		
授業の概要 一般教養レベルから看護英語の学習へのスムーズな移行を目指す。新聞記事のリーディングにより語彙と文法の復習を行うと同時に、CDつき教材によりリスニングと発音の練習を行う。					
授業の目的・達成目標 After taking this course, students should become enabled to do the following: (a) use essential words and phrases in English; (b) use basic medical and lay terms in English.					
授業及び学習の方法 前半は教科書を用いてリスニングと発音の練習を行うと同時に、看護現場で用いられる語彙を習得する。 後半は新聞記事を用いてリーディング練習を行い、英語の語法・文法を復習する。					
成績評価の方法と基準 The assessment consists of an assignment/presentation (40%) and two exams, each weighted equally (30%+30%)					
授業計画 Wk 1 Introduction to the course Wk 2-7 Textbook work (Chap 1-9) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 8 Tutorial / Mid term exam Wk 9-14 Textbook work (Chap 10-17) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 15 Tutorial / Term exam					
教科書 リーディング：新聞記事を1回目の授業で配布。 リスニング：山中マーガレット. 2008. 看護・医療スタッフの英語. 朝日出版社. ISBN978-4-255-00452-5					
参考書					
オフィスアワー 研究室は幸町（北5号館5階）なので、医学部ではメールでアポイントをとってください。					
履修上の注意 TOEFL や TOEIC を受験することは望ましいが、本講義の成績判定には関係しない。					

英語コミュニケーションLR 演習 II N(2)

授業科目名	英語コミュニケーションLR 演習 II N (2) English(Listening & Reading) II	科目区分	外国語科目	授業コード	041812
講義題目		単位数	1	時間割	前期 金 2
教員名	長尾 明子 (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>LR 演習は、英語コミュニケーション能力のうち、特に受信能力を高めるための、リスニングおよびリーディング活動を中心とする演習科目です。聴解、速読、語彙・文法、総合、ニュース英語、検定演習、音声学習のいずれかをテーマに、要点把握力と速読・速聴力および語彙力の向上に努めながら、リスニングおよびリーディング演習を行います。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>テーマ (総合)</p> <p>(1) Students will be able to increase their ability to communicate in spoken English.</p> <p>(2) Students will be able to develop their ability to use communication strategies by listening and speaking.</p> <p>(3) Students will be able to increase their ability to evaluate their language to be autonomous learners.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>This course aims to improve students' s communication skills with particular focus on listening and speaking. First, at the beginning of every class, students will listen and talk about familiar topics to warm-up. Then, students will have opportunities to express their opinion about the topics. Students communicate in English with a lecturer and 3 or 4 classmates.</p>					
成績評価の方法と基準					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Attendance /participation in English 20% 2. Writing assignment 20% 3. Transcription or Scrapbook 30% 4. Group Interview or Presentation Test 30% 					
授業計画					
<p>WK1: Self-introduction, Introduction and questioner</p> <p>WK2: Self-introduction and Why do you study English for?</p> <p>WK3~WK14: Topics: Family, Sports, Food, Part-time Jobs, My Past 等グループでのアクティビティを実施する。</p> <p>WK15: Summary for Group Interview or Presentation,</p> <p>WK16: Final Examination (Group/Pair interview or Presentation)</p>					
教科書					
Kenny, T., & Woo, L. (2004). Nice Talking with You. Macmillan Language House. (こちらで準備します)					
参考書					
Kluge, D., & Taylor, M. (2011). In My Life. Macmillan Language House.					
オフィスアワー					
授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。					
履修上の注意					
<p>自分の英語力を高めようという強い意欲と意志を持って、諸活動に積極的に臨んで下さい。第1回目の授業で行われるガイダンスで、授業の進め方、予習・復習・宿題の方法等を、しっかり確認して下さい。なお、英語の授業では、単に椅子に座っているだけで活動に参加しない(不参加出席)学生を欠席扱いとすることになっているので、注意して下さい。4回以上の欠席回数の場合は単位は与えられません。遅刻3回で欠席1回の扱いとします(遅刻は10分程度まで)。授業中の睡眠および携帯電話の使用は厳禁です。また、外国語自習室を有効利用しましょう。</p>					

英語コミュニケーションSW 演習Ⅱ N

授業科目名	英語コミュニケーションSW 演習Ⅱ N English(Speaking & Writing)Ⅱ	科目区分	外国語科目	授業コード	041813
講義題目	Presentation, Writing and Vocabulary	単位数	1	時間割	前期 金 2
教員名	ウィリー・イアン・デビット(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this combined Presentation and Writing-themed course, students will become able to 1) deliver presentations in English; 2) type papers in English using word processing software; and 3) use basic Nursing English vocabulary and communicative expressions.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Handouts and class activities will focus on basic typing and presentation skills. Typed homework will be assigned regularly, and will be used as material for discussion and presentation practice. The textbook will be used in class to develop students' Nursing English vocabulary, and will connect to discussion and presentation exercises. Students will often perform role plays involving nursing situations. There will be weekly vocabulary quizzes, as well as a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students' grades will be based on the following: 20%: Participation (in-class effort) 40%: Typed homework and quizzes 40%: Presentation projects (Mid-term and Final)</p>					
授業計画					
<p>(1) Introductions (2) What is a presentation? Begin textbook work (3~5) Textbook and presentation skills (6) Presentation Project 1 (Mid-term) (7~11) Textbook and presentation skills (12) Presentation Project 2 assigned (13) Presentation 2 workshop (14) Presentation 2 (part 1) (15) Presentation 2 (part 2); Wrap-up</p>					
教科書					
<p>看単! Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan, and S. Shibata. Nanzando Publishers, 2009.</p>					
参考書					
オフィスアワー					
<p>Wednesdays 14:00~16:00 (Saiwai-cho campus only). Students may contact the teacher by e-mail : ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp.</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与られません。 Please remember to bring your textbook to class on the first class! Late homework will receive one-half credit. Quizzes cannot be made up.</p>					

上 級 英 語

授業科目名	上級英語 I (2) English (Advanced English) I	科目区分	外国語科目	授業コード	050402
講義題目	Formal Presentation	単位数	2	時間割	前期 月5
教員名	ウイラー・イアン・デビッド(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3～4年 全学部		
授業の概要					
This course is for students who wish to sharpen their formal English communication skills. Students will have many opportunities to discuss and debate topics with classmates in English, as well as give presentations. Students aiming for advanced level English skills are welcome to join this class.					
授業の目的・達成目標					
Through this course, students will become able to: 1) speak actively in English in group and class discussions; 2) prepare and deliver multi-media presentations in English					
授業及び学習の方法					
In the first few weeks, effective techniques in presentation and discussion will be covered. During class we will discuss and debate readings and other materials (for example, newspaper articles and films) and engage in group work and short presentation activities. Useful techniques and practice for English interview tests, such as TOEFL and IELTS, will form a regular part of class. Students will give at least three formal presentations during the semester: a personal presentation, an informative presentation, and a persuasive presentation.					
成績評価の方法と基準					
Students' grades will be based on the following: 30%: Participation (in-class effort) 30%: Homework 40%: Presentations					
授業計画					
<ul style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) Discussion skills (3) Presentation skills (4) Presentation skills (5) Presentation 1: Show and Tell (6) PowerPoint: Dos and Don'ts (7) Film (8) Film part 2 and discussion (9) Presentation 2: An ethical issue (10) Presentation 2: An ethical issue (part 2) (11) Topics and discussion (12) Presentation workshop (13) Presentation 3: Persuasive presentations (14) Presentation 3: Persuasive presentations (part 2) (15) Wrap-up 					
教科書					
A textbook is not required for this course. Readings will be provided by the instructor, and students will regularly be asked to find readings on their own.					
参考書					
オフィスアワー					
Wednesdays, 14:00～16:00, at Saiwai-cho campus only. Students may contact the instructor via this e-mail address :ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp.					
履修上の注意					
4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。					

02 基礎・臨床科学

形態・生理学A(生命維持の基本構造)・B(環境適応と行動)

担当教員

教授	峠	哲	男
准教授	筒	井	邦彦
兼担教員	竹	内	義喜(教授, 医学科神経機能形態学)
	三	木	崇範(准教授, 同)

授業概要

看護とは、健康上のあらゆる問題、すなわち健康の増進、維持、回復に関する人間の反応に対処し、個人ないし集団が自立してゆくことを援助することにある。そのための基礎として、まず人間の生命の誕生から死に至るまでの生命現象を、生物学的立場から科学的に理解しうる知識が必要とされる。また、看護の対象者となる患者を理解するためには、正常な人体の構造と機能に対する知識を深め、健康とはなにか、さらには人間が病むとはどういうことかが理解できるようにならなければならない。

人体の形態や構造と機能には密接な関係があるといえる。例えば骨では、上下に可動する関節は左右に動くような構造にはなっていない。すなわち、形態や構造はその器官の機能を規定しているのであり、さらには形態と機能は表裏一体の関係であると言えることができるかもしれない。このような観点から、人体の構造と機能をよりよく理解するためには、構造と機能を同時に学習し、その有機的な関係について理解することが重要と考えられる。

この授業においては、まず生命を維持するための基本構造とその機能についての知識を習得してもらい(形態・生理A)、そのあとで、外界に対する適応能力や刺激に対する反応系に関する講義を行う(形態・生理B)。そのような生命現象としての人体を理解したうえで、疾病による形態の変化(病理学的変化)と機能の異常について学習し、身体状態の正常と異常の判別が行えるような基礎的知識を習得する。

一般目標

適切な臨床看護を行うことが出来るようになるために、まず人体の形態と構造に関する基礎知識を身につける。その上で、人体の諸器官の機能が正常に営まれている健康な状態とはいかなるものであるかを把握し、その上で疾病による身体的変化を理解できるようにする。さらには、将来必要とされる臨床看護上の問題や疾病を理解した上で、研究としての展開が行えるような科学的思考能力を身につける。

行動目標

1. 正常な人体諸器官の形態、構造、機能を理解する。
2. 人体諸器官の形態、構造および機能の関連性について、おおそ理解することができる。
3. 正常な人体器官の形態と構造およびそれらの機能が障害された場合、どのような病的状態が引き起こされるかを推察できるようにする。
4. 代表的疾患における病理学的変化と機能異常についてある程度理解できる。
5. 疾病により招来される身体の変化を推察することができ、身体状態の正常と異常の判別が行えるような基礎的知識を習得する。

授業内容

1年次 前期・必修 (A) 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序 論	1	人体の大要と解剖学用語	人体の大要、解剖学用語、人体各部の名称	峠
細胞・組織・外皮系	2	細胞	細胞の構造と機能、細胞周期、染色体、ゲノム	峠
	3	組織	上皮組織、結合組織、血液、筋組織、神経組織	峠
	4	外皮系	皮膚と膜	筒井
	5	ホメオスタシス	フィードバック機構、体温、体温の調節と異常、発汗	筒井
エネルギー代謝	6	エネルギー代謝	基礎代謝、肥満、やせ、飢餓	筒井
血液	7	血液の成分と造血	血液の一般的性質、成分、造血・造血因子	峠
	8	血液の機能	凝固と線溶、血液型、輸血	峠
体液と電解質	9	体液	体液の組成と pH、酸・塩基平衡、体液の循環と移動、脱水、浮腫	筒井
	10	電解質	体液中の電解質、電解質異常の臨床	峠
リンパ系	11	リンパ組織	リンパ・リンパ管、リンパ節・扁桃・脾臓・胸腺	筒井
	12	免疫	生体防御機構	筒井
循環器系	13	血管系・循環系	毛細血管、動脈、静脈、肺循環、体循環、胎児の血液循環	峠
	14	心臓	心臓の構造、心臓壁と刺激伝達系、拍動、心電図	峠
	15	循環動態	血圧、血圧の異常、脈拍、静脈圧	峠
	16	循環調節	局所性調節、神経性調節、内分泌性調節	峠
泌尿器系	17	腎臓の構造	髄質と皮質、腎小体、尿細管、ネフロン	筒井
	18	尿の生成と腎臓	尿の生成、腎臓の機能、腎疾患	筒井
	19	排尿	尿管・膀胱・尿道、排尿の機序、排尿の障害	筒井
内分泌系	20	内分泌器官の構造	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、松果体	筒井
	21	ホルモン	ホルモンの種類と産生機構・調節	筒井
	22		各種ホルモンの作用機序	筒井
生殖器系	23		ホルモンの分泌異常	筒井
	24	男性生殖器系 女性生殖器系	精巣、精路、付属生殖腺など 卵巣、卵管、子宮、性周期、乳腺	筒井
発生学	25	人体の発生	生殖細胞、性染色体と性の決定、胎児の栄養と胎盤、妊娠と分娩、染色体異常と奇形	筒井
骨格系	26	骨の構造と機能	骨の生理作用、骨の形状と構造、骨の化学成分、骨の発生と成長、骨の病気	峠
	27	骨格	頭蓋、脊柱、胸郭、上肢骨、下肢骨	峠
	28	骨の連結	関節の一般構造、関節の運動、関節運動の障害	峠
筋系	29	骨格筋の形状と機能	骨格筋の形状と機能、筋収縮のメカニズム、筋の神経支配	峠
	30	全身の骨格筋	頭蓋の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、横隔膜、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋	峠

1 年次 後期・必修 (B) 2 単位 (45 時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者	
呼 吸 器 系	1	気道系の構造	鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支	峠	
	2	肺・胸部内臓器	肺葉、肺胞、胸膜、縦隔、胸郭	峠	
	3	呼吸の生理	呼吸の調節、呼吸運動、呼吸困難、ガス交換、運動時の酸素摂取	峠	
消 化 器 系	4	口, 歯, 唾液腺	口蓋、舌、乳歯と永久歯、耳下腺、顎下腺、舌下腺	筒井	
	5	食道, 胃 小腸, 大腸	食道、胃の形、胃の粘膜、胃の筋層 十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸	筒井	
	6	肝臓, 胆嚢 膵臓, 腹膜	肝葉、肝小葉、肝血管系、肝障害、胆嚢 膵外分泌部、ランゲルハンス島、腹膜、後腹膜器官	筒井	
	7	消化と吸収	唾液の分泌、嚥下、消化液の分泌、消化管の運動	筒井	
	8		消化管の吸収、嘔吐、下痢、腸閉塞、排便、便秘	筒井	
	神 経 系	9	神経系の構造	神経系の区分と発生、灰白質、核ならびに神経節、白質と根、髄膜	峠
		10	中枢神経系	脊髄、延髄、橋	峠
		11		中脳、小脳、間脳	峠
12			終脳、伝導路	峠	
13		末梢神経系	脊髄神経、脳神経	峠	
14			自律神経系、交感神経、副交感神経	峠	
15		運動機能	運動ニューロン、脊髄、脳幹	峠	
16			大脳皮質と大脳基底核、小脳	峠	
17		感覚機能	感覚の神経生理学、体性感覚、深部感覚、内臓感覚	峠	
18			味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚、視覚	峠	
19		自律神経機能と本能	自律神経系、視床下部と辺縁系、摂食行動、飲水行動	峠	
20		性行動、サーカディアンリズム	峠		
21	意識・高次神経機能	意識とは、睡眠、学習、記憶、連合野、前頭葉機能	峠		
感 覚 器 系	22	味覚器・嗅覚器	味覚器、嗅覚器	峠	
	23	聴器・平衡器 視器	外耳、中耳、内耳 眼球、眼底、水晶体、硝子体、眼球の付属器	峠	

1 年後期 解剖学実習見学：田中輝和教授、竹内義喜教授、筒井邦彦准教授、三木崇範准教授の指導のもとに行う。

学習方法

人体器官の形態、構造、位置及びそれぞれの名称を覚えるだけでなく、常に生理機能と関連づけて学習すること。又、出来る限り臨床看護に必要な臨床上の問題や疾病とのかかわり合いの中で、生化学、病理学（疾病論）をも含めた総合的な学習を心掛けること。

また時間があれば、課題提示によるグループでの自己学習と学習成果の発表時間を設ける。

評価方法

1年前期末及び後期末授業終了後に筆記試験を行ない、理解度を評価する。自己学習課題についてはレポートの提出により評価する。

教科書及び参考文献

教科書

人体の構造と機能 第2版 佐藤照夫、佐伯由香 編集 (医歯薬出版, 2005)

カラーで学べる病理学 第3版 渡辺照男 編集 (ヌーヴェル・ヒロカワ, 2005)

参考書

人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第8版 坂井建雄、岡田隆夫 著 (医学書院, 2009)

ビジュアル解剖生理学 藤本 淳 監修 (ヌーベル・ヒロカワ, 2007)

ナーシング・グラフィカ1 解剖生理学 林正健二 編集 (メディカ出版, 2006)

トータル人体の構造と機能 大野忠雄 他、共訳 第2版 (丸善, 2007)

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後4時～午後6時

生 化 学

担当教員

教 授 田 中 輝 和

授業概要

生命とは何か。L. ポーリングは「生命は定義するよりも研究する方がやさしい。」と言った。生命というものはあることは万人が知っているが、「生命とは何か」の質問に答えることは非常に難しい。生化学は、その生命の物質的側面である生体を、主として化学的方法を用いて研究する学問である。看護における生化学は、人体の構成成分である化学物質の性状、人体における分布及び代謝を学び、看護に役立てようとするものであるから「人体生化学」がその中心となるものである。生化学は医学の中でも絶え間なく、しかも急速に進歩を遂げている領域であり、従ってその知識の量は膨大であって、学習には多大な努力が要求される。そこで本講義では、看護の現場を念頭に置き、特に臨床医学の理解の為に必要な部分を詳しくしかも理解しやすいように努めるつもりである。

一般目標

人体を構成している物質と、その生成と分解の反応機構を理解し、その異常及び変動によって生ずる疾患の発症機序を考える基礎知識を身につける。

行動目標

1. 人体構成成分の化学的性質、人体における分布及び生理機能を把握し、その関連性と意義について理解し、説明できるようにする。
2. 人体構成成分の合成と分解及びエネルギー代謝とそれらの調節機構を理解し、代表的な代謝性疾患の病態生理についても説明できるようにする。

授業内容

1 年次 前期・必修 (A) 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項 目	内 容	担当者
糖 質	1	糖質の種類と役割	単糖、オリゴ糖、多糖	田 中
脂 質	2	脂 質	脂肪酸、必須脂肪酸、中性脂肪、ステロイド	田 中
タンパク質	3	タンパク質とアミノ酸	タンパク質の構造と性質、アミノ酸、必須アミノ酸	田 中
酵 素	4	酵 素	酵素の役割、酵素の反応様式	田 中
糖 質 代 謝	5	糖質の消化と吸収	糖質の消化、糖質の吸収	田 中
	6	解糖系	解糖系	田 中
	7	TCA サイクル	TCA サイクル、電子伝達系、糖新生	田 中
脂 質 代 謝	8	血糖の調節と糖尿病	グリコーゲンの合成、グリコーゲンの分解、血糖値の上昇と低下のメカニズム、糖尿病の病態、糖尿病の診断	田 中
	9	脂質の消化と吸収	脂質の消化、胆汁酸の働き、脂質の吸収	田 中
	10	血液中の脂質	リポタンパク質の種類と役割、高脂血症、キロミクロン、VLDL、LDL、HDL、動脈硬化	田 中

タンパク質代謝	11	脂肪酸の代謝	β 酸化、 β 酸化の調節とケトン体、コレステロールの代謝、プロスタグランジン	田 中
	12	タンパク質の消化と吸収	タンパク質の消化、アミノ酸の吸収	田 中
代謝調節	13	アミノ酸の代謝	アミノ基転移、脱アミノ基反応、脱カルボキシル基反応、尿素回路、窒素平衡、クレアチニン	田 中
	14	代謝の調節	細胞内の調節、臓器の代謝の特徴	田 中
	15	〃	食事直後と空腹時、全身の代謝調節 I、全身の代謝調節 II	

学習方法

現代医学・看護学を学ぶ上で、生化学・分子生物学の知識と理解があらゆる面で必要である。それなくして人体の健康な状態、疾患の病態、治療とそれに対する生体の反応を正確に理解することは不可能である。その際、例えば、ある疾患に罹患した患者の体内で、どのような生化学的・分子生物学的異常事態が惹き起こされているかを頭の中でイメージしていただくことが大切である。

その訓練を、本講義を通じてぜひ行なってもらいたい。そうすれば、ある患者に対して食事療法をも含め、どのような治療、どのような処置を施すべきかの展望が自ら開けてくると確信するからである。

評価方法

1年前期末及び後期末に筆記試験を行ない理解度、判断力及び科学的、論理的な思考力を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

臨床生化学 メディカ出版

参考書

栄養・健康科学シリーズ 生化学 奥 恒行 ら編 南江堂

ハーパー生化学 上代淑人監訳 丸善

からだの生化学 田川邦夫 タカラバイオ (丸善)

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後5時15分～午後7時

担当教員

教授 田中輝和

授業概要

細菌やウイルスを対象にした分子生物学は、今や人間の遺伝子を取り出し、そこに書きこまれているすべての暗号を解読することに成功した。それをもとに、遺伝疾患や腫瘍の早期診断やさらにそれらの治療（遺伝子治療）も行うようになってきた。本講義では、遺伝子の構造、複製及びタンパク質合成における働きについて解説する。そして、遺伝子の変化が病気を惹き起こす仕組みについて、遺伝子病や癌の発生を例に考えてみる。

一方、栄養学は、食事療法及び栄養指導を通して疾病の治療に重要な役割を演じている。食事の適正化によってかなりの疾患が治療可能であり、しかも食事療法は薬物とは異なり副作用がない等の利点を有している。殊に糖尿病、高脂血症、痛風、動脈硬化などの生活習慣病は、現在、臨床上非常に大きな問題になっているが、これらの疾患では食事療法は最も大切な治療法であると言っても過言ではない。又、健康保持、疾病予防に対しても栄養学は重要な役割を果たしている。そこで本講義では、臨床各科で学ぶ食事療法、栄養指導の学習に資する為に、栄養学の一般的な知識と、病態栄養に対する基本的な考え方、そして、その理解の為に必要な生化学を一体として分かりやすく解説するつもりである。

一般目標

遺伝子の構造、DNAの複製、転写及びタンパク質の合成の仕組みを理解し、遺伝子の異常が遺伝疾患、先天性代謝異常や癌の発生を惹き起こす機序を考える基礎知識を身につける。又、栄養学においては、栄養素の種類と、その体内での役割と代謝、摂取すべき量とそれを含む飲食物について明らかにし、疾病の治療と予防さらに健康保持に関する基本的考え方を、生化学と関連づけて身につける。

行動目標

1. DNA、RNAの構造を理解し、その構造の中に細胞が分裂・増殖し、またタンパク質を合成するための設計図として働く仕組みが秘められていることを理解し、説明できるようにする。
2. 遺伝子の複製、転写、翻訳の具体的なメカニズムを理解し、説明できるようにする。
3. 遺伝子の異常によって、遺伝子病や癌が発生する仕組みを理解し、説明できるようにする。
4. 食物摂取とその消化吸收のメカニズムを理解する。
5. 各種栄養素の栄養学的意義を把握する。
6. 各ライフステージにおける栄養所要量を把握し、健康を維持し、疾病を予防するためにどのような食生活をすればよいか説明できるようにする。
7. 代表的な生活習慣病を含む各種疾患の病態と身体機能障害に至る過程を理解した上で、それぞれの食事療法、栄養指導を行なう根拠を説明できるようにする。

授業内容

1年次 後期・必修（B） 1単位（30時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者
ヌクレオチドと核酸	1	ヌクレオチド	ヌクレオチドの構造、役割及び代謝	田 中
	2	DNAの代謝	DNAの構造、DNAの変性と再生 DNAの複製、DNAの傷害と修復	田 中
転写と翻訳	3	転写とその翻訳	mRNA、rRNA、tRNA 遺伝暗号、遺伝情報の翻訳、ポリペプチド合成	田 中
遺伝子の異常と分子医学	4	遺伝性代謝疾患 がん遺伝子異常	分子病、遺伝性タンパク質及び酵素異常に基づく疾患、 遺伝子異常の形式、染色体異常、がん遺伝子、がん抑制 遺伝子	田 中
ビ タ ミ ン	5	脂溶性ビタミン	ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンK、	田 中
	6	水溶性ビタミン	ビタミンB群、ビオチン、葉酸、ビタミンC、ビタミン の作用、ビタミン欠乏症と過剰症	田 中
栄養所要量とエネルギー所要量 ライフステージと栄養	7	栄養所要量、エネルギー 所要量	タンパク質、脂質、無機質及びビタミン類の所要量、エ ネルギー所要量の算定	田 中
	8	成人の生活活動と栄養	生活活動強度別の栄養、妊婦、授乳婦の栄養	田 中
	9	成長期、老年期におけ る栄養	成長期における栄養、老年期における栄養	田 中
臨 床 栄 養	10	臨床栄養概論	臨床栄養の意義	田 中
	11	〃	食事療法の生化学的基礎	田 中
	12	栄養療法の分類	調乳、離乳食、治療食、経管栄養法、経静脈栄養法	田 中
	13	食事療法の実際	消化器疾患、循環器疾患	田 中
	14	〃	代謝性疾患、糖尿病	田 中
	15	〃	腎疾患、血液疾患、妊娠高血圧症候群	田 中

学習方法

現代医学・看護学を学ぶ上で、生化学・分子生物学の知識と理解があらゆる面で必要である。それなくして人体の健康な状態、疾患の病態、治療とそれに対する生体の反応を正確に理解することは不可能である。その際、例えば、ある疾患に罹患した患者の体内で、どのような生化学的・分子生物学的異常事態が惹き起こされているかを頭の中でイメージしてやるのが大切である。

その訓練を、本講義を通じてぜひ行なってもらいたい。そうすれば、ある患者に対して食事療法をも含め、どのような治療、どのような処置を施すべきかの展望が自ら開けてくると確信するからである。

評価方法

1年前期末及び後期末に筆記試験を行ない理解度、判断力及び科学的、論理的な思考力を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

臨床生化学 メディカ出版
系統看護学講座 栄養学 医学書院

参考書

分子細胞生物学 G.Karp 山本正行・渡辺雄一郎・児玉有希 訳 東京化学同人

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後5時15分～午後7時

微生物学A(細菌学・原虫学)・B(ウイルス学・真菌学)

担当教員

教授	田中輝和
兼担教員	新井明治(准教授、医学科 国際医動物学)
非常勤講師	田中恭子

授業概要

我々を取りまく環境には、多くの種類の生物が無数に存在しており、我々は、これらの生物と相互にかかわり合いを持ちながら生活している。これら多種類の生物の中で我々の健康や疾病と深くかかわっているが、肉眼では見えない程小さな一群の生物があり、病原微生物と呼ばれている。それには、ウイルス、リケッチア、細菌、真菌(カビ)、原虫(原生動物)などが含まれ、これらの病原微生物によって惹き起こされる疾患が感染症である。

感染症の成り立ちを考える場合、最も重要なことは、微生物側の要因と宿主生体側の要因とを総合的に考察することである。

まず、病原微生物に対する十分な知識をもち、それに基づいて患者の看護に当たることは、感染症患者に対しても、又、自らの感染予防のためにも必須の事柄である。一方、感染症は病原微生物と生体側の感染防御機構との相対的な力関係のもとに規定されるものであるから、感染症以外の患者であっても、その全身的な感染防御力が低下し、病原微生物による感染を受け易い状態にあることが多く、これらの患者を感染から守ることも、また重要である。即ち、今日、臨床上大きな問題となっている院内感染、日和見感染などを正しく認識し、医療従事者が無益な感染の拡大に関与し、患者の *quality of life* を損うことのないように注意しなければならない。感染症の予防、防止に努める方法としてのワクチン、化学療法、消毒、滅菌などの理論的根拠と、その応用を習得することも看護に携る者として必須の事柄である。

一般目標

病原微生物についての十分な基礎知識を身につけ、病原微生物によって惹き起こされる感染症の成り立ちを、微生物側の要因と宿主生体側の要因との関連性の中で考える能力を身につける。それを通じて、感染症の予防、殊に院内感染の予防と感染症の治療に関する基礎知識を、臨床看護の場に生かすことができる能力を身につける。

行動目標

1. 病原微生物の種類と、それぞれの性質及び特徴(形態、生理、生化学的な性質、生態など)を理解する。
2. 病原微生物に対する宿主側の反応(生体防御機構、感染症の発症機構)とを体系的に理解する。
3. 感染予防の方法、殊に滅菌、消毒、無菌操作の方法の特徴、欠点、限界を把握した上で、これらの感染制御方法を通して、院内感染、日和見感染を正しく理解し、その防止のために対処できる。
4. 病原微生物を不活化し、その増殖を抑制する為の方法としての化学療法の基礎を理解する。

授業内容

2年次 前期・必修 (A) 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
微生物学総論	1	微生物の種類と分類及び形態、微生物の増殖	微生物の分類法、微生物の形態、微生物の増殖の仕方の相違	田 中
	2	滅菌と消毒	滅菌、消毒の原理、目的、方法	田 中
	3	無菌操作	無菌操作の方法	田 中
	4	化学療法	抗生物質の作用機序	田 中
	5		薬剤耐性	田 中
	6	感染と生体防御	生体感染防御機構	田 中
	7		日和見感染、院内感染	田 中
病原細菌学	8	グラム陽性菌	ブドウ球菌	田 中
	9		連鎖球菌	田 中
	10	グラム陰性菌	グラム陰性球菌、グラム陰性杆菌	田 中
	11		腸内細菌、ビブリオ	田 中
	12	抗酸菌	結核菌、非定型抗酸菌、癩菌	田 中
	13	嫌気性菌	破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、常在細菌叢	田 中
	14	スピロヘータ	梅毒トレポネーマ、レプトスピラ、STD	田 中
病原真菌学	15	マイコプラズマ リケッチア クラミジア	マイコプラズマ、リケッチア及びクラミジアの生物学的特性、病原マイコプラズマ リケッチア感染症 クラミジア感染症	田 中
		真菌学総論	分類、生物学的特性	田 中
		真菌学各論	深在性真菌症と表在性真菌症	田 中

2年次 後期・必修 (B) 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ウイルス学総論	16	分類と性状	ウイルスとは、分類、特性、生態	田 中
	17	感染と増殖	細胞への感染、細胞内増殖機構、ウイルス感染の型、日和見感染、診断法、抗ウイルス剤	田 中
	18		腫瘍ウイルス、エマージングウイルスとリエマージングウイルス、プリオン	田 中
ウイルス学各論	19	DNAウイルス	ポックスウイルス、ヘルペスウイルス	田 中
	20		アデノウイルス、パピローマウイルス、パルボウイルス	田 中
	21	RNAウイルス	オルトミクソウイルス、パラミクソウイルス	田 中

原 虫 学	22		ピコルナウイルス、トガウイルス、フラビウイルス、コロナウイルス	田 中 田 中
	23		カリシウイルス、レトロウイルス	田 中
	24		肝炎ウイルス	田 中
	25		肝炎ウイルス	田 中
	26	原虫学総論・根足虫類	原虫の定義、分類、形態、赤痢アメーバ、大腸アメーバ、病原性自由生活アメーバ	新 井
	27	鞭毛虫類	トリコモナス、トリパノソーマ、リーシュマニア	新 井
	28	孢子虫類	マラリア、トキソプラズマ	新 井
	29	繊毛虫類、その他	バランチジウム、ニューモシスチス	新 井
	30	原虫学実習	各種原虫標本の観察	新 井

学習方法

病原微生物のそれぞれの性質と特徴を十分に理解し、常に宿主の生体反応との関連の中で、その病原微生物による感染症を理解する習慣を身につける。病原微生物の感染経路を正確に把握し、その上での確かつ有効な感染予防対策を講ずる為には、どのようにすれば良いかを常に考えると共に、病院等での看護実習の場において反復し、確実に実践出来るようにすること。

滅菌、消毒及び無菌操作の方法について、その施行方法、特長や欠点、限界を正確に把握し、医療材料、医療用器具及び対象となる病原微生物に対して適切な処理を行ない得るようにすること。

日和見感染、コンプロマイズドホスト（易感染性宿主）、院内感染の実態について正確な認識を持ち、的確な判断と対応が行なえるよう理解を深めること。

評価方法

2年前期末及び2年後期講義終了後に筆記試験を行ない理解度を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

系統看護学講座、微生物学 医学書院

参考書

戸田新細菌学 南山堂

オフィスアワー

毎週 火曜日 午後5時50分～午後7時

担当教員

准教授	筒井 邦彦
非常勤講師	小西 史朗（徳島文理大学香川薬学部 教授）
非常勤講師	宮澤 宏（徳島文理大学香川薬学部 教授）
非常勤講師	飯原 なおみ（徳島文理大学香川薬学部 准教授）

授業概要

医療の中で重要な位置を占めている薬物療法における看護の基本は、年齢、性、感受性等を異にする個々の患者に薬物療法が最も有効かつ安全に行われるよう、医師・薬剤師と協力してそれぞれの専門性を生かしながら患者の治療、援助を行っていくことにある。看護の領域においても治療中の患者が、薬剤を指示通りに正しい方法で納得して服薬し、健康回復に努めることを援助することが求められている。あるいは薬物に対する患者の身体的・精神的反応および病態の変化を観察し、患者の訴えを聞き、薬物の効果と有害作用を総合的に把握することによって、薬害防止と高度の薬物療法への看護の側からの貢献が期待されている。そのためには生体の生理機能および病態、その異常を理解した上で、各種薬物の生物活性と適切な使用法について体系的に学ぶことが必要である。さらに、今後次々に開発される医薬品の進歩に柔軟に対処し得る基礎的学力と思考力、並びに倫理性を持ち続けることが重要であり、その基本を学ぶ。

一般目標

薬物療法が有効かつ安全に行われるよう、さらに患者が安心して積極的に薬物療法を受けられるよう援助するために、人体の生理機能とその異常を理解した上で、薬物および薬物療法の基礎知識を身に付ける。さらに、薬物の有害作用を認識し、薬物の薬効と有害作用を総合的に評価でき、将来臨床現場において早期の有害作用発見ができるような基礎学力を身につける。

行動目標

1. 薬物の性質、作用機序、生体内動態、血中薬物濃度および薬効に影響を及ぼす要因について説明し、薬物療法の意義を述べることができる。
2. 生体にとって異物である薬の負の側面である有害作用、および薬物依存を理解し、安全性を念頭において薬物療法を評価できるようになる。
3. 薬物を生体に与える際の剤形と適用方法について理解できる。。
4. 医薬品の分類、名称、法令、処方箋、調剤、薬品の取り扱い方について具体的に述べるができる。
5. 各種疾患に対して使用される薬物の薬効と副作用を体系的に述べるができる。
6. 薬物療法に伴う薬害と医療倫理について常に関心を持ち続ける。

授業内容

1 年次 後期・必修 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
総 論	1~2	薬の基本的性質 薬理作用の基本形式 薬の投与経路 体内動態 影響要因 薬の有害作用 薬の適用方法 薬の管理	薬の性質, 使用目的, 看護師の役割 作用, 副作用, 有害作用, 薬物受容体, 刺激薬, 遮断薬 投与経路, 治療域 吸収, 分布, 代謝, 排泄, 血中濃度モニタリング 年齢, 薬物アレルギー, 耐性, 依存, 相互作用 中毒, 妊婦への薬物 全身投与, 局所投与 法令, 毒薬, 劇薬, 新薬, プラセボ	飯原
各 論			各論の講義順は変更することがある。	
免疫治療薬, 抗 アレルギー薬, 抗炎症薬	3~4	免疫反応のしくみ 免疫治療薬各論 抗アレルギー薬 炎症 抗炎症薬 その他	細胞性免疫, 液性免疫 免疫抑制薬, 免疫増強薬, 予防接種薬 抗ヒスタミン薬, 抗アレルギー薬 炎症の機序 非ステロイド系とステロイド系抗炎症薬 関節リウマチ治療薬, 痛風治療薬	宮澤
末梢神経作用薬	5~6	神経による情報伝達 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	自律神経系の基礎 アドレナリン作動薬, 抗アドレナリン作動薬 副交感神経作動薬, 副交感神経遮断薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	筒井
中枢神経作用薬	7~8	全身麻酔薬 催眠薬, 抗不安薬 抗精神病薬 抗うつ薬 パーキンソン症候群治療 薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬	吸入麻酔薬, 静脈内麻酔薬 催眠薬, 抗不安薬 抗精神病薬 うつ状態, 躁状態に用いられる薬物 パーキンソン症候群治療薬 てんかんの病態, 抗てんかん薬 アヘンアルカロイド, 合成麻薬, 非麻薬性合成鎮痛薬, 麻薬拮抗性呼吸促進薬	小西
心臓, 血管系作用 薬	9~11	抗高血圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬 高脂血症治療薬 血液に作用する薬物	種類, 使用法 狭心症治療薬 強心薬, その他 種類, 使用法 腎臓の利尿機構, 利尿薬の種類 高脂血症治療薬 血液悪性腫瘍治療薬, 抗血液凝固薬, 血栓溶解薬, 抗 血小板薬, 止血薬	筒井
物質代謝作用薬	12	ホルモン, ホルモン拮抗 薬 ビタミン製剤	糖尿病治療薬, 甲状腺疾患治療薬, 下垂体ホルモン, 骨粗鬆症治療薬 脂溶性ビタミン, 水溶性ビタミン	筒井

抗がん薬	13	がん治療総論 抗がん薬	作用, 有害作用, 耐性 アルキル化薬, 代謝拮抗薬, 抗生物質, 植物アルカロイド, 性ホルモン薬、分子標的治療薬	筒井
呼吸器, 消化器, 生殖器系作用薬, 外用薬, 救急薬, 漢方薬	14~15	呼吸器系作用薬 消化器系作用薬 生殖器系作用薬 漢方薬	気管支喘息作用薬, 鎮咳薬, 去たん薬, 呼吸促進薬 消化性潰瘍治療薬, 健胃消化薬, 消化管運動促進薬, 制吐薬, 止痢薬, 性ホルモン, 子宮収縮薬, 生活改善薬 西洋薬との違い, 有害作用	筒井

学習方法

単に物質としての薬について学ぶのではなく、薬物によって生体側がどのように反応するのかを、生体の生理機能および病態の基礎的理解の上に立って学んでほしい。断片的な知識の暗記に終始することなく、基本概念をしっかりと身に付け、論理に裏づけられた知識として体系的に学習するよう心掛けてほしい。

評価方法

筆記試験を行い、授業態度等、総合的に判断する。

教科書及び参考文献

教科書 安原一ほか. わかりやすい薬理学. 第2版, ニューヴェルヒロカワ, 2008.

オフィスアワー

随時。

担当教員

准教授 筒井邦彦

授業概要

“疫”とは“疫病”，致死的な伝染病のことを示していた。そしてこの伝染病から免れる仕組みを解明することが免疫学のはじまりであった。しかし現在では，免疫学は単なる机上の学問や実験室での研究に留まらず，感染症の予防や治療，検査手技への応用，がん治療から臓器移植にいたるまで実際の臨床の現場において広く応用されている。

看護の場においても，基本的な免疫学の知識なくして疾患や手技，治療の理解は不可能である。例えば，なぜワクチンは感染予防に効果があるか，なぜ異なる血液型が輸血できないのか，なぜ臓器移植は簡単に行えないのか，あるいは花粉症や気管支喘息はどのようにして発症するのか，がん細胞はどのように体の免疫機構から逃れるのか等，臨床現場において問われることは決して少なくないと思われる。

医療の進歩により，免疫学が関与する検査，病態，治療等はより広く，より複雑になってきている。免疫学の基礎的な知識を身につけることにより，臨床で求められる免疫学的な考え方の基本を身につけてほしい。

一般目標

生体の防御機構，免疫関係疾患の発症機構と自己治癒力および免疫療法，臓器移植など医療の基礎となる免疫反応のしくみを理解するために，免疫学の基礎知識を習得する。

行動目標

1. 抗体の構造と機能，抗体の多様性，抗体産生とその調節機構を説明できる。
2. 輸血を例とした血液型の基本を理解し，その抗原抗体反応の原理が説明できる。
3. 補体の活性化経路，補体の機能を説明できる。
4. 免疫系各臓器の構造と機能を述べるができる。
5. 免疫担当細胞の種類と機能，産生される種々の生理活性因子の作用が理解できる。
6. ヒトの主要組織適合抗原である HLA (MHC) 抗原について理解できる。
7. 感染に対する生体防御機構について具体的に述べるができる。
8. アレルギー，自己免疫疾患の種類と疾患，その発現機序を説明できる。
9. 腫瘍抗原，腫瘍と宿主の免疫学的相互関係について説明できる。
10. 抗原抗体反応を応用した臨床検査が説明できる。
11. 免疫学的に HIV 感染症，AIDS の発症を説明できる。

授業内容

2年次 前期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序論	1	はじめに	免疫学の基礎, 輸血	筒井
各論	2	自己と非自己	非特異的生態防御機構, MHC	
		細胞性免疫	マクロファージ, キラーT細胞, ヘルパーT細胞	
	3	遺伝子	遺伝子の再構成と抗体の多様性	
		抗体	B細胞, 形質細胞, 抗体	
	4	免疫の記憶	中和抗体, オブソニン化, 補体	
		自己寛容	胸腺の働き, 免疫学的寛容	
	5	アレルギー	IgE, 肥満細胞, 好酸球	
		アレルギーと疾患	花粉症, 気管支喘息	
		自己免疫疾患	関節リウマチ	
	6	がんと免疫	がん遺伝子, がん抑制遺伝子	
		癌免疫療法	がん免疫療法	
	7	免疫不全	HIV感染とAIDS	
	8	試験		

学習方法

花粉アレルギー, AIDS, 臓器移植等, 免疫に関係のある話題が日常的になっている現在, 免疫学は難解な学問であるという先入観を持たずに, 身近な学問として親しみを持ち, 生命を維持してきた免疫のしくみの神秘に触れる喜びを味わって頂きたい。免疫学を構成する基本的事実や原理を理解するだけでなく, 免疫系全体として把握できるように心掛けてほしい。

評価方法

筆記試験を行う。授業態度等で総合的に判断する。

教科書及び参考文献

教科書 (というより副読本的に使用するので購入のこと)

萩原清文. 好きになる免疫学. 講談社, 2007.

参考書

今西二郎. 免疫学の入門. 第6版, 金芳堂, 2004.

渡辺照男. カラーで学べる病理学. 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2009.

矢田純一. 医系免疫学. 改訂11版, 中外医学社, 2009.

谷口克. 免疫、その驚異のメカニズム. ウェッジ, 2000.

オフィスアワー

随時。

機能再生医療学

担当教員

教 授	峠 哲 男	非常勤講師	森 田 伸
教 授	山 本 哲 司	非常勤講師	内 田 茂 博
病院准教授	有 馬 信 男	非常勤講師	田 中 聡
非常勤講師	森 川 健一郎		(県立広島大学保健福祉学部教授)

授業概要

昨今の医療技術の進歩は誠にめざましく、看護や介護の分野においても、そのような医療技術の進歩と密接に関連しています。そのため、現在どのような最先端医療が行われようとしているかに注目し、さらにはそのような医療に適合して行かねばより良い医療を行うことはできません。このような現状から機能再生医療学では、学生諸君に最新の医療技術に基づく神経・運動器障害や呼吸器障害の機能再生を目指した最先端医療やリハビリテーション技術の一端に触れてもらい、将来の医療従事者としての知識を備えてもらうことが目的です。香川大学医学部附属病院は、香川県内では唯一の高度先進医療を提供できる病院として認定されており、当病院の整形外科、病院リハビリテーション部、さらには外部の講師の先生方の御協力によりこの授業を行います。

一般目標

運動機能異常症（パーキンソン病や不随意運動症）の治療法、脊髄損傷の病態と治療、悪性骨軟部腫瘍の治療法に関する最新の治療法についての講義を通じて、今後どのような最先端医療が行われようとしているかの概要を少しでも理解してもらえれば良いと思います。また将来、ベッドサイドや在宅看護において応用ができるように、リハビリテーション技術の理論と疾患への応用に関して学習してもらいます。

行動目標

1. 運動機能異常症の病態と治療について理解できる。
2. 脊髄損傷の病態と治療について理解できる。
3. 悪性骨軟部腫瘍の最先端の治療法について理解できる。
4. 運動疾患の症状や障害の評価法について解説することができる。
5. 中枢神経障害、呼吸機能障害のリハビリテーションについて解説することができる。
6. 看護におけるリハビリテーションの意義について理解できる。

授業内容

3年次 後期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	ガイダンス	講義の目的と概要、その意義、評価方法について説明する。	峠
	2	疾患の総論と各論	運動機能異常症の病態と治療	峠
	3		脊髄損傷の病態と治療	有馬
	4		関節疾患の診断と治療	山本 森川
	5		リハビリテーション学総論	森田
	6		小児・呼吸器・切除後のリハビリテーション	森田
	7		脳血管障害・脊髄損傷のリハビリテーション	内田
	8		リハビリテーション学と学習理論	田中
	9		レポートの提出	峠

学習方法

1. 学生は、次の授業までに前回の授業内容について、教科書や参考書を用いて復習する。
2. 授業と関連する事項について、インターネットなどにより文献検索を行う。
3. 課題に対するレポートの内容については教員の指導を受ける。

評価方法

1. 出席と授業の準備、参加態度などにより総合的に評価する。
2. レポートの提出により評価する。

教科書及び参考文献

1. 病態生理で切った内科学 Part 5 神経疾患、医学教育出版社、五幸 恵著
 2. 成人看護学 (9) 運動器疾患、医学書院
 3. 目で見えるリハビリテーション (第2版)、東京大学出版、上田 敏著
 4. エッセンシャル整形外科学、医歯薬出版
- その他、適時資料を提示する。

オフィスアワー

峠 : 毎週月曜日 午後4-6時

03 社会保健学

疫 学

担当教員

教 授 真 鍋 芳 樹 (アドミッションセンター)

授業概要

疫学 (epidemiology) とは、人間集団を対象として、人間の健康および異常の原因を宿主、病因、環境の各方面から包括的に考究し、その増進と予防をはかる学問である。過去の悲惨な健康障害を引き起こした公害として有名な水俣病 (有機水銀) やイタイイタイ病 (カドミウム)、カネミ油症 (PCB) などの原因究明、また肺癌と喫煙の関係の解明などには疫学が重要な研究手段となった。

また、疫学は生活習慣病をはじめとする各種の疾病や、不健康状態を集団的に把握し、必要な対策を考えていく上での情報を得るための重要な手段であり、そのため疫学は公衆衛生の診断学ともいわれるが、臨床においても Evidence Based Medicine (EBM) や Evidence Based nursing (EBN) の普及に伴い今日重要な手段となりつつある。本科目ではこれらの重要な概念と手法である疫学について学ぶ。

一般目標

1. 疫学が研究対象とするのは人間集団の健康集団であることを習得する。
2. 疾病、障害などの健康事象について、個人毎に取り扱っても得られない情報が、ある大きさの集団として取り扱った場合には得られるようになり、そこから原因究明や予防につながる可能性が生まれてくることを習得する。
3. 対象集団の種類は多種多様であり、空間別集団、時間別集団、限定集団などがあることを知る。
4. ある健康事象に関して 5W1H、すなわち What, Who, Where, When, Why, How の関連を明らかにし、それぞれについて記述する方法を習得する。
5. 仮説に基づいて、分析疫学調査をデザインし、実証的に健康事象の成立過程を明らかにしていく過程を習得する。
6. 疫学演習を通じてデータ処理方法を習得する。
7. 疫学の倫理問題、個人情報の保護について理解する。

行動目標

1. 疫学の概念、疫学的考え方、疫学的アプローチについて述べる。
2. 疫学の意義と定義、疫学的3要因 (病因、宿因要因、環境要因) と多要因疾病観について述べる。
3. 公衆衛生における疫学の有用性について述べる。
4. 分母・分子、スクリーニング、敏感度、特異度について述べる。
5. 相対頻度、罹患率、発生率、死亡率、致命率、有病率、人年法について述べる。
6. 疫学調査、記述疫学、分析疫学、実験疫学、介入研究について述べる。
7. Case-Control Study, Cohort Study, RCT (Randomized Controlled Trial) について述べる。
8. Risk Factor, Risk の尺度、罹患率比 (相対危険)、罹患率差 (寄与危険)、その他の risk を表す尺度 (Odds 比、ハザード比) について述べる。
9. 偏りと交絡因子、交絡因子の制御方法 (層化、標準化、多変量解析など) について述べる。
10. 暴露効果、因果関係について述べる。スクリーニングについて述べる。
11. 簡単な疫学解析ができる。
12. 疫学の倫理問題について述べる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位（15回、30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
疫学総論	1	概論	疫学概念、発祥、J. Snow のコレラの疫学、近代疫学の確立、疫学の対象	真鍋
	2	疾病の成立過程	疫学の意義と定義、疫学的考え方、疫学的アプローチ、多要因疾病観、医学的生態学、Leavell and Clark の説	
	3	疫学的要因 疫学と公衆衛生	疫学的3要因、病因、宿主要因、環境要因、相互作用 集団に対する健康管理と疫学 疫学的見地からみた疾病対策 疫学の倫理問題、個人情報保護	
疫学各論	4	疾病異常の測定・ 疫学指標	率と比、スクリーニング、敏感度、特異度、相対頻度、罹患率、有病率、死亡率、致命率、人年法、標準化死亡比、年齢調整死亡率	
	5			
	6	疫学方法論1	疫学調査、サンプリング、記述疫学	
	7	疫学方法論2	分析疫学、Retrospective study, Case-control study, Prospective study, Cohort study, RCT (Randomized Controlled Trial)、	
	8		実験疫学、介入研究	
	9			
	10	Risk	リスク要因、Risk の尺度、Relative Risk, Attributable Risk、Attributable Risk Percent、オッズ比	
	11	相互比較と因果関係	率の標準化、交絡因子（攪乱因子）、マッチング、関連性、因果関係の推定、因果関係の判断条件、調査票の作成	
12				
演習	13	演習	国家試験問題等を利用した演習	
	14			
	15			

学習方法

【社会】は具体的に手に取って見ることの出来る物質ではないが、厳然として存在しており、各種疫学データや各種統計データの分析や見聞で実感していく必要がある。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、疫学的捉え方の上で有用である。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

「国民衛生の動向」を用意しておくこと。

教科書・参考書については、追って連絡する。

オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 18:30

公衆衛生学

担当教員

非常勤講師 加藤 匡宏 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター准教授

授業概要

公衆衛生は、人々の健康を守り、増進し、また回復させるために社会により組織された活動の総体であり、具体的には公衆衛生学に立脚した社会的な実践活動である。公衆衛生の目的は、全ての人々があらゆる生活の場で健康を享受できる公正な社会の創造であるとされている。保健師として公衆衛生活動の一翼を担うためには、健康と社会・環境の関係や、自然科学と人文・社会科学の両者の基盤の上に立つ総合的・学際的な学問である公衆衛生を基盤として、まずそれらがコミュニティで展開される時の基本的方法論と地域保健活動について学ぶ必要がある。そこで本科目では、公衆衛生の歴史やシステム、方法論など公衆衛生の基本的事項を学ぶ。

一般目標

1. 公衆衛生学に立脚した社会的な実践活動である公衆衛生について理解する。
2. 公衆衛生の基本的方法論および地域保健活動を理解する。
3. 人々が健康な生活を送るために必要な保健対策（政策）を包括的・体系的に修得する

行動目標

1. 健康と社会・環境の関係について説明できる。
2. 保健政策の基盤となる公衆衛生について説明できるとともに、公衆衛生活動の基本的方法論について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
公衆衛生総論	1	公衆衛生の意義・定義と歴史	公衆衛生とは何か、公衆衛生の目標、公衆衛生の歴史、公衆衛生を学ぶ意義	加藤
	2	公衆衛生システムと政策	公衆衛生関係法規、公衆衛生システムの特徴と行政の役割、公衆衛生活動の場、公衆衛生専門職の役割とその変化	
	3	諸外国の公衆衛生政策	諸外国の医療制度と予防対策、諸外国の公衆衛生活動	
	4	これからの公衆衛生	ヘルスプロモーションと公衆衛生活動、公衆衛生・地域保健サービスと公的責任	
公衆衛生の方法論	5	公衆衛生の活動方法	集団の見方と健康指標、リスクファクター、スクリーニング、公衆衛生活動における疫学	
	6	統計情報の収集と見方	さまざまな統計情報と見方・扱い方、情報収集の方法	
	7	公衆衛生活動のプロセス	ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ、Plan-Do-Check-Act	
	8	まとめ		

学習方法

講義を中心として授業を展開するが、看護・保健・医療の社会的側面を理解したり、今現在起きている社会的事象を理解するためには、常に政治、経済などの社会的動向に気配りできる態度を養うことが要求される。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、保健政策・保健活動のダイナミックな理解の上で有用である。積極的に活用することを希望する。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書 平野加代子他編：ナーシング・グラフィカ⑧ 公衆衛生，MC メディカ出版，最新版。
厚生統計協会：国民衛生の動向，最新版。

オフィスアワー

授業終了時に対応する

保 健 政 策 論

担当教員

教授 大西美智恵

非常勤講師 丸山保夫 香川県中讃保健福祉事務所次長・保健所長

須那 滋 香川県立保健医療大学准教授

起 弘 美 香川県健康福祉部健康福祉総務課・主幹

星 川 洋 一 香川県健康福祉部健康福祉総務課・副主幹

松 原 文 子 高松市地域包括支援センター・センター長

授業概要

法律や制度は、よりよい社会を形成するための社会の仕組みである。私たちの生活は、多くの法律や制度によって保護され、一方で規制されている。保健医療福祉に関する数多くの法律も例外ではなく、保健医療福祉の充実と具体的なサービス提供の基盤をなしている。地域保健に携わる保健師として、直接的な保健指導や組織活動、政策の企画・立案、関係機関との連携を行うためには、それらに関する仕組みや法律・制度・政策について理解を深める必要がある。そこで本科目では、総合的・学際的な学問である公衆衛生の基本的な方法論と地域保健活動の具体として、健康増進対策や環境保健衛生・感染症対策を取り上げながら、まず行政の仕組みを学び、保健医療福祉制度の概要と財政制度、行政が立案する計画について教授する。

一般目標

1. 保健医療福祉行政の発展過程について理解する。
2. 保健医療福祉活動の基盤となる保健医療福祉制度について理解する。
3. 保健医療福祉行政の仕組みについて理解する。
4. 公衆衛生の基本的な方法論および地域保健活動を理解する。
5. 国や地方自治体の保健医療福祉計画の基本的な考え方や策定過程・推進管理と評価について理解する。
6. 人々が健康な生活を送るために必要な保健対策（政策）を包括的・体系的に修得する。

行動目標

1. 戦後の保健医療福祉行政の変遷について概観することができる
2. 社会保障・地域保健・社会福祉・医療制度・介護保険制度と行政そして保健師の役割と機能について理解できる
3. 保健政策の基盤となる公衆衛生について説明できるとともに、公衆衛生活動の基本的な方法論（保健計画を含む）について説明できる。
4. 保健医療福祉行政の理念や仕組み、そして財政について理解できる。
5. 保健医療福祉計画の必要性、そして計画策定から評価までを理解できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
保健医療福祉 行政の歴史と 制度	1	保健医療福祉行政の 変遷	公衆衛生政策の基盤整備、政策の充実と転換	大西
	2	保健医療福祉に関する 制度	社会保障制度と公衆衛生行政、地域保健の制度、社会福祉の制度	大西
健康増進	3	健康づくり方法論	社会情勢と健康課題、対象としての個人・家族・集団・組織の捉え方、コミュニティおよびコミュニティで生活する人々への支援活動の展開方法、健康づくり計画や事業計画の策定と評価	星川 星川
	4			
環境保健衛生	5	環境保健衛生対策	現状、制度関係法規、他	須那 須那 須那
	6	栄養・食品保健衛生 対策	理論、現状、制度、関係法規、展望、他	
	7			
感染症対策	8	急性感染症対策	理論、現状、制度、関係法規、展望、他	丸山 丸山
	9	慢性感染症対策	結核、ハンセン病、性感染症、エイズ、関係法規、他	
看護行政	10	香川県の看護行政	看護職の就業状況、保健師助産師看護師法改正、地域保健を取り巻く状況	起
保健医療福祉 行政の仕組み	11	保健医療福祉行政	保健医療福祉行政の概要、国と地方公共団体の行政の仕組み、地方自治と地方分権、情報公開と個人情報保護	松原
	12	保健医療福祉の財政	国と地方公共団体の財政の仕組み、予算の機能と原則、社会保障の給付と財源	松原
	13	保健医療福祉行政の 計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画、地方自治体の計画策定、計画の推進と管理・評価	松原
地域保健行政 と保健師活動	14	地域保健行政と保健 師活動	地域保健行政と公務員・医療従事者としての保健師・保健師活動	松原
	15	まとめ		大西

学習方法

講義を中心として授業を展開するが、看護・保健・医療の社会的側面を理解するためには、常に政治、経済などの社会的動向に気配りできる態度を養うことが要求される。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、保健政策・保健活動のダイナミックな理解の上で有用である。積極的に活用することを希望する。

評価方法

- ・定期試験、ミニレポート、ミニテスト：9割
- ・学習態度：1割

教科書及び参考文献

教科書 平野加代子他編：ナーシング・グラフィカ⑧ 公衆衛生、MCメディカ出版、最新版。
藤内修二他：標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論、医学書院、最新版。
厚生統計協会：国民衛生の動向、最新版。

オフィスアワー

授業終了時に対応する

看護と法規

担当教員

非常勤講師	馬場基尚	(弁護士)	教授	木下博之
非常勤講師	藤本邦人	(弁護士)	教授	名越民江 (コーディネーター)
非常勤講師	豊嶋克美		教授	大西美智恵

授業概要

医事法規の中で看護師に課されている義務の内容及び法規全体の中での看護法制の意味、周辺法規の概略を学ぶ。

一般目標

医療現場で看護の業務を果たすためには、業務に関連する法律の知識を習得し、また医療現場での医療事故の実態を理解し、看護の実践の場において重要な事柄を認識する。

行動目標

1. 保健師、助産師、看護師法の重要な項目を説明できる。
2. 医師法に規定されている医師の義務を説明できる。
3. 向精神薬、覚醒剤及び麻薬等の取り扱いと保管について説明できる。
4. 医療事故の防止策が説明できる。
5. 看護の業務において注意義務や違法行為について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
法令概説	1	法規の概念	医療法、医療行為	藤本
	2		看護師の業務と法的責任	藤本
	3	医療上の法的問題	医療事故・事件の判例とその解説(1)	馬場
	4		医療事故・事件の判例とその解説(2)	馬場
	5	医療関係法規	医師法、死体解剖保存法	木下
	6		麻薬及び向精神薬取締法、他	木下
	7		覚醒剤取締法、薬事法	木下
	8		毒物及び劇物取締法、救急救命士法、他	木下
	9		医療事故	医療事故の実情と防止策
	10	保助看法とは	条文の解説	名越
	11	法的問題と責任	看護上の法的問題	名越
看護業務	12		業務上のミスによる責任・医療安全	豊嶋
医療	13	法的問題と倫理上の問題	事例検討 (グループワーク)	大西
	14		事例検討 (グループワーク)	大西
	15		発表・質疑	大西・名越・豊嶋

学習方法

具体例に基づき、自らの意見を発表できるようにする。

評価方法

出席状況，課題発表，レポート提出を総合して評価する。

教科書及び参考文献

・わかりやすい関係法規，杉本正子他編，（医学書院）

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517 研究室）・大西研究室（6階 618 研究室）

社会福祉・社会保障論

担当教員

非常勤講師	島 影 俊 英	四国学院大学社会福祉学部	教授
	合 田 盛 人	四国学院大学社会福祉学部	准教授
	橋 本 卓 也	大阪保健医療大学保健医療学部	講師
	樽 井 康 彦	同志社大学社会学部	助教
教 授	平 尾 智 弘	香川大学医学部公衆衛生学	
	松 井 妙 子	(在宅看護学)	

授業概要

人々の生命や生活の質を保障する社会の仕組みとして社会保障制度がある。人々の健康にかかわる保健医療職者は社会福祉の基本的理念、社会福祉・社会保障にかかわる法や諸制度を理解した上で、看護の実践を行う。本講義は、人々の健康的で幸福な生活を実現するための社会保障の理念と基本的な制度について学ぶ。また、社会福祉・社会保障にかかわる基本的知識、社会福祉実践の展開に必要な援助技術と態度を学ぶ。

これらの学習をとおして、生活者の生活問題に対応し、看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。

一般目標

1. 社会保障制度の歴史的な経過や全体像を把握しつつ、社会保障および社会福祉の基本的理念を学び、生活者の生活問題に対応できる基礎的知識を養う。
2. 福祉と保健・医療のかかわりを理解し、現状の問題・課題を解決するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

行動目標

1. 社会保障の歴史的経過および基本的制度の枠組みを説明できる
2. 社会福祉の理念、社会福祉の歴史と人々の福祉ニーズの変化を説明できる
3. 社会福祉関連法の目的・施策、制度を説明できる
4. 医療保険制度とその仕組みについて説明できる
5. 児童・母子・高齢者・障害者の対象別支援方法と諸サービスの目的と内容を説明できる
6. 社会福祉実践の基本となる援助技術および倫理について説明できる

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	社会保障の理念・概要	保健医療福祉活動の基本	島影 松井
	2	社会保険制度	社会保険の変遷と年金制度	島影
	3		医療保険制度	平尾
	4		医療保険制度	平尾
	5		介護保険制度	合田
	6		介護保険制度	合田
	7		社会福祉の理念と概要	社会福祉とは
	8		社会福祉の理念と変遷	島影
	9	社会福祉法の理念と施策	障害者（児）の施策	樽井
	10		児童への施策	樽井
	11		生活保護法と施策	橋本
	12		高齢者への施策	橋本
	13	社会福祉行政	保健福祉計画・社会福祉の民間活動	合田
	14		国・地方公共団体の行政、組織およびマンパワー	合田
	15		まとめ	松井

学習方法

社会福祉・社会保障制度に関心をもち、課題を追求し、学んだ理論や実践的知識をさらに深めていく姿勢が必要である。授業はオムニバス方式であるため各講義・演習に出席することが履修の最低条件となる。

評価方法

非常勤講師による、ミニレポートまたはミニテスト、受講態度・出席状況等により総合的に評価する。

教科書及び参考書

参考書：福田素生 他；系統看護学講座専門基礎健康支援と社会保障制度【3】社会福祉、医学書院、2010.

保 健 統 計 論

担当教員

教 授 真 鍋 芳 樹 (アドミッションセンター)

授業概要

保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。保健統計は、厚生労働省をはじめとする各省庁や、地方公共団体の行政施策の基礎資料となるほか、民間企業などでも利用されている。そこで、保健統計の種類と意義を学習し、わが国の保健統計の変遷および現状等について理解を深める。

また、21世紀の保健師・看護師には、情報の収集・整理及び活用、調査・研究、種々の計画策定等の企画調整等に関する能力を求められている。

学生は、この授業を通じて、種々の政策策定者を初めとする意思決定者は客観的に意思決定を行う必要があり、その客観的意思決定は客観的データに基づいたものによること、その客観的データは加工されていない生のデータでなければならないこと等を学習する。そのために、情報を検索し、収集して客観的データを集積し、統計的・疫学的手法を用いて解析・分析し、演繹推論のみならず帰納推論を用いて仮説を立て、その仮説を検証し、さらにその延長上に問題解決、意志決定、創造、評価等を、自らが行える資質を養うことが重要である。

一般目標

人間集団に発生するあらゆる健康事象を考える際、その集団の大きさ（人口数）と質を無視することはできない。人口統計・保健統計として、わが国や世界における人口の量や質、またその動きを知り、さらに健康に関する各種保健統計の実際と方法論を習得する。

さらに、データに基づいて意思決定を行うためには、明確な目的意識および適切な計画を立案してデータを収集する必要があること理解する。統計的評価を行うために、データの分布や水準に応じた適切な統計解析手法を適用する。統計的解析結果を適切に判断するために、統計的検定による有意は保健医療看護等における有意と必ずしも一致しないことを理解する。

行動目標

1. 人口、人口の種類、人口の現状と推移について述べる。
2. 出生率、死亡率等の意味と現状と推移について述べる。
3. 生命表、生命関数、統計資料、国際疾病（ICD）について述べる。
4. 受療率、有訴率、国民生活基礎調査、患者調査、医療施設調査、国民栄養の現状と推移について述べる。
5. データの水準、データの持つ意味について説明する。
6. 記述統計的アプローチを説明し、適応する。
7. 推測統計的アプローチを説明し、適応する。
8. 統計的検定を説明する。
9. 2変量データの統計的解析法について説明し、選択、適応できる。
10. 問題解決、意思決定に統計的手法を応用できる。
11. 統計的解析結果について解釈し、関連付ける。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（15回、30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
人口統計	1	人口静態統計	主な健康・人口指標	真 鍋
	2		国勢調査 日本の人口・世界の人口 人口ピラミッド、年少人口指数、老年人口指数等	
	3	人口動態統計	出生統計の概要	
	4		出生率	
	5		再生産率（合計特殊出生率、総再生産率、純再生産率）	
	6		死産・婚姻・離婚の概要 死亡統計の概要 悪性新生物、脳血管疾患、心疾患死亡の概要 ICDの概要	
	7	生命表	生命表、平均余命・寿命、生命関数	
保健統計	8	指定統計	国民生活基礎調査 有訴率、受療率 患者調査、医療施設調査	
	データ概論	9	データの基礎	
10		記述・分析統計	正規分布の特徴 度数分布とヒストグラム 代表値と散布度	
11			帰無仮説と対立仮説 有意水準・有意確率	
12			相関と回帰	
13		演習	国家試験問題等を利用した演習	
14				
15				

学習方法

「データ」や「社会」は具体的に手に取って見ることのできる物質ではないが、厳然として存在している。各種疫学データや各種統計データの分析や見聞を通じて「社会」を実感していく必要がある。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

「国民衛生の動向」を用意しておくこと。

教科書・参考書については、追って連絡する。

オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 18:30

基礎保健学

担当教員

教授 大西美智恵

授業概要

社会が大きく変化し、様々な健康・生活課題が発生するなかで、人々の健康を支援する者として、社会・人間・健康をどのように捉えればよいかを学ぶ

一般目標

1. 社会の成り立ちと現代社会の課題および社会的な健康について理解する
2. 個人・家族・集団と組織・地域社会の諸相と変化および課題、そして健康の関係について理解する
3. グローバルな世界の動向と健康について理解する

行動目標

1. 社会の成り立ちや、現代社会のあり方と健康について概観できる
2. 個人・家族・集団と組織・地域社会の諸相とあり方、そして健康との関係について理解できる
3. 国際社会の現状と健康について理解できる
4. 社会でおきている健康・生活課題を広く捉え、看護を考えることができる

授業内容

1, 2年次 後期・自由 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
社会と健康	1	人間にとって社会とは 健康とは	社会の意味, 社会の成り立ち, 現代社会のあり方および社会的な健康	大 西
個人・家族・ 集団そして地 域社会	2	現代の生活と個人	生活の様相, ライフスタイルと健康, QOLの理念	
	3	家族の様相	家族の現在, 社会変化と家族, 家族のこれから	
	4	集団と組織	集団・組織の意味, 様々な集団・組織の特徴や社会的意義	
	5	地域社会	地域社会の存在, コミュニティ形成とその課題	
グローバルな 世界の動向	6	現代の生活と社会そして環境	現代世界と社会, 多文化理解, 日本社会とアジア・世界そして地球規模の環境変動	
行動科学	7	健康行動のメカニズム	健康行動とは, 健康行動と理論・モデル	
	8	まとめ		

学習方法

教員が準備する授業資料をもとに講義・ディスカッション等を織り交ぜながら行う。

評価方法

出席状況, 授業態度, レポートで評価する。

教科書及び参考文献

参考書 平野かよ子編: ナーシング・グラフィカ⑦ 健康支援と社会保障, メディカ出版, 最新版.

オフィスアワー

授業終了後 1時間

04 基礎看護学

看護学概論

担当教員

教 授 名 越 民 江

授業概要

本科目は、専門科目としての看護学を学ぶ導入部として、人間、生活、健康、環境、看護の概念について学習する。次に、保健・医療・福祉における看護の役割や安全について、また、関連職種との連携について学ぶ。看護の歴史の変遷を通して、社会における看護の役割を理解し、看護実践活動の基本となる看護過程や、看護倫理と法的側面について学習する。

一般目標

看護および看護学に関する理解を深め、看護観を構築する基盤形成のための知識、技術、態度について習得する。

行動目標

1. 看護の歴史の変遷を通して、看護の役割機能、安全のとらえ方、現代社会における諸問題について把握する。
2. 看護の構成要素である人間、生活、健康、環境、看護のとらえ方について説明し、各概念間の関係性について説明できる。
3. 保健・医療・福祉を構成する人々の役割機能について説明できる。
4. 看護過程の構成要素について説明できる。
5. 看護の倫理的側面と法的側面について把握する。

授業内容

1年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
オリエンテーション	1	ガイダンス 基礎看護学の概要と 理念・看護のイメージ 特別講義	学習目的、目標、学習方法と評価について 基礎看護学の概要と理念 「看護のイメージ」について チーム医療	名 越
三大学連携 合同講義		特別講義	医療従事者に求められるもの	病院長
三大学連携 合同講義		特別講義	乱用薬物の基礎知識	阪井看護部長 芳地教授
三大学連携 合同講義		特別講義	医療系学生に対する感染防止対策	久郷准教授
看護と安全	2	生活と安全	安全意識の向上とヒューマンエラー、危険予知、危険回避・予防について	名 越
看護の概念	3	看護の構成要素（1）	統一体としての人間とは、ライフサイクルと生活過程	名 越

保健・医療・福祉との連携 看護の実際	4	看護の構成要素（2）	健康とは、ライフサイクルと健康障害のあらわれ 環境・社会関係	名 越
	5	看護の構成要素（3）	ナイチンゲール看護論をもとに看護とは	名 越
	6	看護職と他職種との関係	看護職チームの構成と他職種との関係、連携 保健医療福祉施設について	名 越
	7	看護実践と思考過程	看護実践と問題解決のための思考過程 看護過程の構成要素	名 越
看護と社会	8	看護職と専門職 看護と倫理	看護職と専門職業集団 看護における倫理的側面・人権擁護について	名 越

学習方法

講義ならびに課題発表などを取り入れて行う。

事前学習がかなり必要（広範囲で時間数が少ないため）

評価方法

出席、課題発表への参加態度と貢献度、レポート提出、筆記試験などを総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 川村佐和子他編、基礎看護学 看護学概論、メディカ出版、2004.
2. 系統看護学講座：基礎看護学2 基礎看護技術、医学書院、2002.（旧版）
その他授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階517室）

看護理論

担当教員

教授 名 越 民 江

授業概要

主として看護実践に用いられる看護の概念モデル、看護理論について学習する。

一般目標

理論とはについて理解を深め、看護実践に活用する方法を習得する。

行動目標

1. 看護理論について説明できる。
2. 看護の概念モデル、看護理論の看護実践への活用方法について説明できる。
3. 看護の概念モデルならびに看護理論と看護過程との関連を説明できる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	ガイダンス	学習目的、目標、評価について、看護理論の歴史的背景、理論とは、看護理論とは	名 越
	2	用語の説明	モデルとは、概念とは、理論の範囲 病気のステージと看護理論	名 越
各論	3	看護の概念モデルと看護理論	看護の概念モデルと看護理論 (F. ナイチンゲール)	名 越
	4		看護の概念モデルと看護理論 (薄井坦子、科学的看護論) 課題発表	名 越
	5		看護の概念モデルと看護理論 (薄井坦子、科学的看護論) 課題発表	名 越
	6		看護の概念モデルと看護理論 (薄井坦子、科学的看護論) 課題発表	名 越
	7		看護の概念モデルと看護理論 (薄井坦子、科学的看護論) 課題発表	名 越
	8		看護理論の看護学研究への活用方法について	名 越

学習方法

講義ならびにグループ毎の課題発表に積極的に取り組む努力が必要。

評価方法

出席、課題発表への参加態度と貢献度、小テスト、レポート提出等を総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 薄井坦子著、科学的看護論第3版、日本看護協会出版会、1997.

授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517室）

基礎看護方法論

担当教員

教 授 名 越 民 江

助 教 栗 納 由 記 子 松 岡 美 奈 子 香 川 里 美

授業概要

看護過程の展開に先立ち、看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方、人間の一生と健康現象、ライフサイクルにおける人間の作られ方、各時期の生活する力などについて看護の視点から学習する。その後、看護実践の基礎となる看護過程展開の技術について、事例を用いて、講義とグループワーク（課題発表、成果発表を含む）により、看護過程の各ステップの展開方法を習得する。

一般目標

看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方について理解を深め、対象へのアプローチの方法および看護観から表現技術への実践的方法論について習得する。

行動目標

1. 看護過程の概念を説明できる。
2. 看護過程を構成する要素を説明できる。
3. 事例を用いて、事実を情報化できる。
4. 事例を用いて、看護問題を明確化できる。
5. 事例を用いて、看護計画立案、実施（ロールプレイ）、評価できる。
6. コミュニケーション技術を活用して、討議の進め方や、リーダーやメンバーの役割を果たすことができる。

授業内容

2 年次 前期・必修 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 看護過程の展開	1	ガイダンス 対象のみつめ方、とらえ方	学習の目的・目標、方法・評価について 事実と事実でないものを見分ける 資料と情報の区別 全体像モデル、立体像モデル	名越・栗納 松岡・香川
	2	ライフサイクルと健康 障害	人間の一生と健康障害の現れ 看護の視点から健康現象をとらえる 生命力アセスメントモデル	名越・栗納 松岡・香川
	3	人間の生活と看護	24 時間の日常生活を見つめる看護の視点	名越・栗納 松岡・香川
	4	看護の原基形態とコミ ュニケーション技術	日常生活力アセスメントモデル 生活過程の特徴をとらえる	名越・栗納 松岡・香川

		看護の原基形態 観察、コミュニケーション技術	
5	看護過程展開の技術	看護過程とは 看護過程はどのように展開していくのか 知る段階から身につける段階へと進む 臨地実習において身につける段階から使う段階へと進む	名越・栗納 松岡・香川
6	事実の情報化	授業形態はグループワークと課題発表が主になる 全体像モデル、立体像モデル、日常生活アセスメントモデルを活用する	名越・栗納 松岡・香川
7			
8			
9	看護問題の明確化	生物体の必要条件、日常生活の規制、生活体の反応をとらえる	名越・栗納 松岡・香川
10			
11	看護計画立案	上位目標の設定と優先度 中位・下位目標の具体化	名越・栗納 松岡・香川
12			
13	実施・評価	看護場面の設定とロールプレイ 実施場面をプロセスレコードを用いて再構成する 看護の評価	名越・栗納 松岡・香川
14			
15	全体発表	各グループ毎に成果発表	名越・栗納 松岡・香川

学習方法

講義、課題発表、グループワークを中心に展開するので、主体的で、積極的な学習取り組みを期待する。

評価方法

グループワークへの参加姿勢、出席状況、課題発表、成果発表、課題レポートの提出を総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 系統看護学講座：基礎看護学2、基礎看護技術、医学書院（旧版）、2004。（1年次に購入済）
2. 薄井坦子著、何がなぜ看護の情報なのか、日本看護協会出版会、2001.
3. 薄井坦子著、看護の原点をもとめて、日本看護協会出版会、2001.
4. 薄井坦子著、ナースが視る病気、講談社、1991.

その他適宜授業で紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517室）

基本援助技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論は、基礎看護学を構成する一科目である。この科目では、後続する看護学各論である成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護活動を展開する上で、共通に必要な看護技術の基礎的知識、基本的技術、看護職として望ましい基本的態度について学習する。基本援助技術論では、看護の対象となる人の性別・年齢・生活の場や健康レベルを問わず、生命・生活を安全・安楽にするために共通に必要な生活行動の基本的援助技術と対象把握に必要な患者観察技術について学習する。

本授業における援助技術の学習は、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があることから、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分理解して出席すること。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために、科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 看護技術提供時の患者の安全・安楽の重要性が説明できる。
2. 科学的根拠にもとづいた看護技術の重要性を述べることができる。
3. 人間関係形成の基盤となるコミュニケーションの意義・方法と構成要素が説明できる。
4. 看護におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。
5. 環境が健康に及ぼす影響と望ましい生活環境について説明できる。
6. 健康障害を持つ人の生活環境を調整することができる。
7. ボディメカニクスの意義・目的と原理が説明できる。
8. 体位の種類と姿勢・体位が心身に及ぼす影響について説明できる。
9. 体位変換の意義・目的と安楽な体位が説明できる。
10. 活動・休息の意義と健康との関連が説明できる。
11. 安全で安楽な移動（移乗）援助と移送の援助が実施できる。
12. 患者の健康レベルに応じた衣服（病衣）が選択できる。

13. 安全・安楽に寝衣交換の援助が実施できる。
 14. ボディメカニクスを看護動作に適用できる。
 15. 看護における観察の意義・目的と観察の種類・方法について説明できる。
 16. 看護における記録の種類・方法や報告の目的について説明できる。
 17. 看護観察に必要な技術である身体計測の原則と留意点を説明できる。
 18. バイタルサイン測定の意義・目的と変動要因について説明できる。
 19. バイタルサイン測定時の原則・留意事項が説明できる。
 20. バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）を原則に基づいて正確に測定することができる。
- 各単元のより詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので、必ず出席すること。

授業内容

1年次 後期・必修 2単位（45時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 看護実践の共通技術	1	ガイダンス 看護と技術 コミュニケーション	学習の目的・目標、学習方法・評価、講義予定など 看護技術・エビデンスに基づいた看護実践とは コミュニケーションとは コミュニケーションの種類 言語的コミュニケーションの特徴と限界	南
	2	コミュニケーション	非言語的コミュニケーションの特徴と限界 コミュニケーションプロセスに影響する要因 看護におけるコミュニケーションの重要性 効果的なコミュニケーション技術	南
日常生活の援助技術	3	環境と健康	環境とは 環境と健康との関連 環境構成要素と環境調整方法	南
	4	環境と健康	病院・病室の構造と病人の環境 環境調整の意義 よい病床とは 環境調整の技術	南
	5	衣生活と健康	衣服の意義・目的 衣服と健康との関係 衣服気候とは 健康障害を持つ人の寝衣の条件と寝衣交換の意義・目的 寝衣交換の方法と原則・留意点	栗納・南
	6	姿勢と体位	姿勢・体位の定義 体位の種類とよい姿勢 ボディメカニクスの意義と基礎理論 看護援助とボディメカニクス 安楽の定義と安楽の阻害要因 安楽な体位への援助方法（ポジショニング） 体位が心身に及ぼす影響	南
	7	姿勢と体位	体位変換の意義・目的 体位変換の方法と実施時の原則・留意点 移送の目的と方法 移送援助時の原則と留意点	南
	8	活動と休息	活動・運動の意義・目的 安静の心身への影響	香川・南

		活動と休息	休息・睡眠の意義と生理（レム睡眠・ノンレム睡眠） 休息・睡眠への援助	
看護実践の共通技術	9	観察の技術	観察の意義・目的 観察の種類・方法と観察時の留意点	南
	10	観察の技術 記録・報告	身体計測の方法と原則・留意点 看護記録の意義・目的と種類・方法 報告の意義・目的と報告時の留意点	南
	11	バイタルサイン	バイタルサインとは バイタルサイン測定の意義・目的 バイタルサインに影響する因子 体温のメカニズム 体温測定器具の特徴と測定方法・測定時の留意点	南
日常生活の援助技術	12	学内演習「ベッドメイ ・ キング」	学内演習に関するオリエンテーション ベッドメイキング（入院患者の病床の作成）	南・栗納・ 松岡・香川
	13			
	14	学内演習「シーツ交 ・ 換」	シーツ交換・体位変換の方法	南・栗納・ 松岡・香川
	15			
看護実践の共通技術	16	バイタルサイン	脈拍のメカニズム 脈拍の測定方法と測定時の原則・留意点	南
	17	バイタルサイン	血圧のメカニズム 血圧測定時の原則・留意点	南
	18	バイタルサイン	呼吸のメカニズム 呼吸の測定方法と測定時の原則・留意点 呼吸困難時の看護援助 意識レベルの評価方法	南
日常生活の援助技術	19	学内演習「寝衣交換」	健康障害を持つ人の寝衣交換の方法	南・栗納・ 松岡・香川
	20	学内演習「移送・安楽 ・ な体位」	移送（車いす・ストレッチャー・担架）の援助 安楽な体位への援助	南・栗納・ 松岡・香川
	21			
看護実践の共通技術	22	学内演習「バイタルサ ・ イン」	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定	南・栗納・ 松岡・香川
	23			
		試験		南

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習などを組み合わせて行う。

学内演習においては教員のデモンストレーションを見学後、演習を実施する形態に加えて、自らの演習内容をビデオカメラで撮影し、自己ならびにグループ内で批判的に評価するグループ学習を取り入れることによって、確実に技術を習得できることを目指している。演習では、学生自らが患者―看護師役割ならびにグループ員の演習内容を観察・評価し、それぞれの立場から、安全・安楽な援助技術について考察する。また、毎回の演習後には、演習担当教員を交えて、グループで考察した内容を話しあい、振り返ることで、学びの共有と深化を目指す。

確実な技術習得のためには、よりよい援助方法についての文献学習をすすめるとともに、演習前には演習技術のDVD視聴や原理・原則の確認、演習後には、時間外での技術練習が必要とされる。これらの学習に、学生自らが主体的に取り組むことを期待する。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜、技術チェックを行い、学年末には応用問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

茂野香おる，他：系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第15版，医学書院，2011.

藤崎郁，他：系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2009.

田中裕二編：Nursing Mook 根拠に基づくバイタルサイン，学研，2006.

その他必要時指示する

参考書

<基礎看護技術（全般）に関するもの>

大岡良枝，他編：NEW なぜ？がわかる看護技術LESSON，学研，2006.

石井範子，他編：イラストでわかる基礎看護技術-ひとりで学べる方法とポイント-，
日本看護協会出版会，2002.

川村佐和子，他編：ナーシンググラフィカ® 基礎看護学-基礎看護技術，メディカ出版，2011.

坪井良子，他編：考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本 第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2005.

坪井良子，他編：考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際 第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2005.

三上れつ，他編：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして 第3版，
ヌーヴェルヒロカワ，2008.

氏家幸子，阿曾洋子，他編：基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第6版，医学書院，2005.

深井喜代子編：新体系看護学全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，2008.

深井喜代子編：新体系看護学全書第12巻 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，2008.

杉野佳江編：標準看護学講座13 基礎看護学2 日常生活と看護技術，金原出版，2003.

杉野佳江編：標準看護学講座14 基礎看護学3 診療に伴う看護技術，金原出版，2003.

井上幸子，他：看護学体系7 看護の方法(2) 日常生活行動の援助技術<1> 第2版，日本看護協会出版会

井上幸子，他：看護学体系8 看護の方法(3) 日常生活行動の援助技術<2> 第3版，日本看護協会出版会

井上幸子，他：看護学体系9 看護の方法(4) 治療に伴う看護の方法 第2版，日本看護協会出版会

川島みどり監修：ビジュアル 基礎看護技術ガイド，照林社，2007.

<コミュニケーションに関するもの>

大森武子，他：仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス，医歯薬出版，2003.

<ボディメカニクスに関するもの>

平田雅子：NEW ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学，学研，2000.

<身体観察・診察に関するもの>

日野原重明編：フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版，医学書院，2006.

<バイタルサインに関するもの>

日野原重明，監：看護学生必修シリーズ バイタルサインの見方・読み方，照林社，2005.

平孝臣，他編：わかるバイタルサインA to Z ，学研，2000.

日野原重明，他：バイタルサイン そのとらえ方とケアへの生かし方，医学書院，1980.

岡安大仁，他：J J Nブックス バイタルサイン 診かたからケアの実際まで，医学書院，1988.

<その他>

小坂橋喜久代編著：カラーアトラス からだの構造と機能 日常生活行動を支える身体システム，学研，2001.

阿部正和：看護生理学，メヂカルフレンド社，1985.

オフィスアワー

水曜日 講義終了後 ～ 18:30 看護学科教育研究棟5階 515号室

生活援助技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論（1年後期）に継続して看護技術の内容を学習する。この科目では、後続する看護学各論である成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護を展開する上で、共通に必要な日常生活の援助技術について、その基礎的知識、基本的技術、看護職者として望ましい基本的態度について学習する。生活援助技術論では、安全・安楽でかつ科学的根拠に基づいた質の高い看護援助を実践するために共通に必要な日常生活行動の援助技術の諸理論と実践に必要な基本的技術を学習する。

本授業における援助技術の学習には、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があることから、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分に理解して出席すること。さらに看護技術の習得には、講義内容をふまえた練習を行い習得することを期待する。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために、科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 安全の意義・目的と重要性が説明できる。
2. 医療現場における安全の阻害因子が説明できる。
3. 安全を守るための技術の原理・原則について説明できる。
4. 感染予防のための技術が確実に実施できる。
5. 清潔と健康の関連について説明できる。
6. 清潔援助の意義・目的について説明できる。
7. 清潔援助の方法とケア効果・身体負荷について説明できる。
8. 対象の状態に応じた清潔の援助が安全・安楽に実施できる。
9. 排泄のメカニズムと生理が説明できる。

10. 排泄援助の必要な状況を判断し、対象に応じた排泄援助が実施できる。
11. 食事と健康の関連について説明できる。
12. 食事の意義・目的が説明できる。
13. 食事援助の必要な状況を判断し、対象に応じた食事援助が実施できる。
14. 経管栄養法について、その目的・適応・援助方法が説明できる。
15. 浣腸・導尿についてその原理と方法が説明できる。
16. 浣腸・導尿が必要な状況を判断し、安全・安楽に実施できる。
17. 死後のケアの意義・目的と実施時の原則・留意点について説明できる。
18. 診察の援助に必要な技術(罨法・吸引・吸入・包帯法)についてその原理と方法を説明できる。
19. 罨法・吸引・吸入・包帯法が安全・安楽に実施できる。

各単元のより詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので、必ず出席すること。

授業内容

2年次前期 必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 看護実践の共通技術	1	ガイダンス 安全	学習の目的・目標 学習方法・評価 講義予定 安全の意義・目的と安全を阻害する因子 「標準予防策」「感染経路別予防策」の目的と方法 感染予防の技術「滅菌・消毒法」	南
	2	安全	「滅菌物の取り扱い」の原則・留意点 「手洗い」の意義・目的・方法と留意点 「隔離法」「ガウンテクニック」の意義・目的・方法	南
看護実践の共通技術	3	安全 清潔と健康	医療事故と事故防止の技術 清潔の意義・目的と関係器官の解剖・生理 清潔援助の意義・目的とアセスメント項目	南
看護実践の共通技術	4	学内演習「感染予防」	「手洗い」「無菌操作」(滅菌物の扱い方)	南・栗納・ 松岡・香川
日常生活の援助技術	5	清潔と健康	清潔援助のケア効果と心身への負荷 皮膚清拭の目的・方法と原則・留意点	南
	6	清潔と健康	洗髪の目的・方法と原則・留意点 口腔ケアの目的・方法と原則・留意点 その他皮膚・粘膜の清潔援助方法と留意点	南
	7	食事と健康	食事の意義・目的と関係器官の生理 食事援助に必要なアセスメント項目	松岡・南
看護実践の援助技術	8	学内演習「感染予防」	「滅菌手袋の装着」「ガウンテクニック」	南・栗納・ 松岡・香川
日常生活の援助技術	9	食事と健康	食事援助の目的・方法と原則・留意点 食事摂取できない状況と援助方法	松岡・南
	10	排泄と健康	排泄の意義・目的と関係器官の生理 排泄援助に必要なアセスメント項目	南

診療の援助技術	11・12	学内演習「清潔」	ベッド上臥床患者の洗髪・口腔ケア（ケリーパッド、洗髪車、洗髪台による洗髪）（ブラッシング、口腔清拭）	南・粟納・松岡・香川
	13	排泄と健康	排泄援助の方法と実施時の原則・留意点 排泄障害の種類と援助方法導尿の意義・目的と種類・適応	南
診療の援助技術	14	導尿	関係器官の解剖・生理 導尿の方法と導尿実施時の原則・留意点 持続導尿時の原則・留意点と管理方法	粟納・南
看護実践の共通技術	15	学内演習「感染予防」	「無菌操作・手洗い」 技術チェック	南・粟納・松岡・香川
診療の援助技術	16	浣腸	浣腸の意義・目的と種類・適応 関係器官の解剖・生理 浣腸の方法と浣腸実施時の原則・留意点	粟納・南
日常生活の援助技術	17	経管栄養	経管栄養の目的・適応 経管栄養食の種類と特徴 経管栄養実施時の原則・留意点と管理方法	香川・南
	18・19	学内演習「清潔」	ベッド上臥床患者の全身清拭・足浴（石鹸清拭、他）	南・粟納・松岡・香川
	20	学内演習「排泄」	ベッド上排泄援助の必要な患者の援助（便・尿器の使用法）	南・粟納・松岡・香川
診療の援助技術	21	学内演習「食事」	自力摂取できない患者の食事援助（ベッド上臥床安静、上肢機能障害のある患者の食事援助）	南・粟納・松岡・香川
	22	学内演習「浣腸」	浣腸が必要な患者への援助（グリセリン浣腸） 高压浣腸（デモ）	南・粟納・松岡・香川
	23	罨法 学内演習「罨法」	罨法の意義・目的と原理 温・冷罨法の方法と実施時の留意点 温・冷罨法の必要な患者への援助（湯たんぽ、温湿布、氷枕、氷嚢、氷頸）	南 南・粟納・松岡・香川
	24・25	学内演習「導尿」 「導尿」技術チェック	一時的導尿が必要な患者への援助 持続導尿（デモ）	南・粟納・松岡・香川
	26	包帯法	包帯の意義・目的と種類 巻軸包帯の基本的巻き方 包帯法実施時の原則と留意点	南
	27	吸入	吸入の目的・種類と方法・原理 酸素吸入の基礎知識 酸素ボンベの取扱い方と留意点 酸素吸入の種類と特徴 酸素療法中の患者の援助	松岡・南
	28	吸引	吸引の目的・種類・方法と原理 一時的吸引実施時の原則・留意点 持続的吸引実施時の原則・留意点	香川・南

日常生活の援助技術	29	死の看護	死とは何か 危篤時の看護 死亡の経過と心身の変化 死後のケアの目的・原則・留意点	南
診療の援助技術	30	学内演習「吸引・吸入」 「包帯法」	酸素吸入法（酸素マスク・経鼻カニューラ） 酸素ボンベの取り扱い 口腔内一時的吸引法 巻軸包帯・スピード包帯による包帯法 三角巾・腹帯による包帯法 絆創膏の使用法	南・栗納・ 松岡・香川
		試験		南

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習を組み合わせで行う。

学内演習では、学生全員が、患者一看護師役割、観察・評価者役割をとり、演習を実施する形態を基本とする。学内演習項目の日常生活の援助技術については、指定された視聴覚教材による演習前の自己学習にて演習内容のイメージ化を図り、演習に臨むこと。また、診療の援助技術項目では、教員のデモンストレーション見学後に演習という形態の他に学生がデモンストレーションを実施し、グループでの技術指導者となるなど、グループ学習の機能を大いに活用した演習形態も取る。

根拠に基づいた看護技術習得を目指し、演習項目に関する事前学習ならびに演習後には演習内容に関する課題プリントを課すので、文献学習、自らの体験の振り返りから、安全・安楽な援助技術についての考察を深めることを期待する。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜技術チェックを行うとともに、事例問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

藤崎郁，他：系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2006.

藤崎郁，他：系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2009.

以上は、1年次に購入しているもの

新食品成分表編集委員会編：新食品成分表 2011，東京法令出版，2010.

竹尾恵子監：看護技術プラクティス 第2版，学研，2009.

参考書

＜日常生活援助技術に関するもの＞

川口孝泰，他編：リンクで学ぶ看護基本技術ナビゲーション 清潔の援助技術，中央法規出版，2003.

川口孝泰，他編：リンクで学ぶ看護基本技術ナビゲーション 排泄の援助技術，中央法規出版，2005.

村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術①，インターメディカ，2005.

村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術②，インターメディカ，2006.

山口瑞穂子監修：看護技術 講義・演習ノート上巻 日常生活援助技術篇，医学芸術社，2006.

香春知永，他編：看護学テキストNICE 基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する，南江堂，2009.

その他は、「基本援助技術論（1年次）」で示したものを参照して下さい。

オフィスアワー

木曜日 16:30 ～ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

基礎看護技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論（1年後期）・生活援助技術論（2年前期）に継続して、成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護を展開する上で、共通に必要な看護技術について、その基礎的知識、基本的技術、看護職者として望ましい基本的態度について学習する。前期に展開する基礎看護技術論では、診断・治療に伴う援助技術を安全に対象に提供するための諸理論とその基本的技術を学習する。

また、後期には健康障害を持つ患者とその家族のニーズや看護上の問題を明確化し、様々な状況にある対象に応じた個別の援助を導き出すために、科学的に思考・判断し、意志決定するプロセスの基礎理論を学習する。

本授業における援助技術の学習には、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があることから、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分理解して出席すること。さらに、看護技術の習得には、講義内容をふまえた練習を行い習得することを期待する。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 与薬の種類・方法が説明できる。
2. 各与薬方法の特徴と実施上の原則・留意点が説明できる。
3. 各注射法における安全な注射部位が解剖学的根拠に基づいて説明できる。
4. 与薬が正確な方法で安全に実施できる。
5. 診療における看護職者の役割について説明できる。
6. 検査時の看護職者の役割について説明できる。
7. 主な検査についてその意義と目的・方法を説明できる。
8. 静脈血採血が安全・正確にできる。
9. 看護過程を構成する要素を説明できる。

10. 看護過程の5段階について、その内容を説明できる。
11. 紙上患者の看護上の問題を看護過程の思考プロセスを用いて明確化できる。
12. 紙上患者の看護計画を立案できる。

各単元のより詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので必ず出席すること。

授業内容

2年次 前期・後期 必修 2単位 (45時間)

2年次 前期

大項目	回	項目	内容	担当者	
診療の援助技術	1	与薬	与薬の意義・目的と看護師の役割 与薬に関する法律 各与薬法の薬理作用（吸収・排泄経路）の特徴 与薬援助時に共通する原則	南	
	2	与薬	注射法の種類（皮内・皮下・筋肉・静脈）と特徴 注射法（皮内・皮下・筋肉）実施時の原則と留意点 安全な注射部位（皮内・皮下・筋肉）と注射方法	南	
	3	学内演習「皮下注射・筋肉注射」	皮下注射・筋肉内注射デモ・モデル演習	南・粟納・松岡・香川	
	4	診療の介助 検査の介助	診療における看護師の役割 検査の意義・目的と看護師の役割 検査値のアセスメント 検査の介助の方法と留意点（血液）	南	
	5・6	学内演習「注射法」	実技試験：皮下注射・筋肉注射	南・粟納・松岡・香川	
	7	学内演習「静脈血採血」	静脈血採血の方法（デモ）・モデル演習 注射法（皮下・筋肉注射）	南・粟納・松岡・香川	
	8	与薬	経口与薬の方法と留意点 直腸内与薬法・点眼法・外用剤（塗布法・点鼻など）	南	
	9・10	学内演習「経口与薬・直腸内与薬・点眼法」	経口与薬・直腸内与薬・点眼法	南・粟納・松岡・香川	
	11	与薬	静脈内・点滴静脈内注射実施時の原則と留意点 輸血の種類と副作用 輸血時の原則と留意点	南	
	12・13	学内演習「静脈血採血」	実技試験：静脈血採血	南・粟納・松岡・香川	
	14	学内演習「静脈内注射」	静脈内・点滴静脈内注射のデモ・モデル演習	南・粟納・松岡・香川	
	15	検査の介助	主な検査の目的・方法と実施時の留意点続き（尿・便・喀痰・消化液・穿刺液）	南	
			試験		

2年次 後期

大項目	回	項目	内容	担当者
看護過程	1	看護過程	看護過程とは 看護過程と問題解決過程 看護過程と看護診断 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断）	南
	2	看護過程	看護過程の構成要素（計画立案・実施・評価） 紙上患者の看護過程の展開 情報収集の進め方	南 南・栗納・ 松岡・香川
	3	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） データの分類とデータの解釈・分析過程（1）	南・栗納・ 松岡・香川
	4	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） データの解釈・分析過程（2）	南・栗納・ 松岡・香川
	5	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 看護問題抽出過程と関連図	南・栗納・ 松岡・香川
	6	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 優先順位の確定と目標の設定	南・栗納・ 松岡・香川
	7	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 看護計画の立案と発表準備	南・栗納・ 松岡・香川
	8	演習「看護過程」	グループ発表・討論・まとめ	南・栗納・ 松岡・香川

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習、発表などを組み合わせて進める。

学内の技術演習においては、教員のデモンストレーションの見学後、学生全員が演習を実施する。演習では、自らの技術内容をビデオカメラで撮影し、グループ内で批判的に評価しあうことや、学生全員がなんらかの技術項目において指導者役割を取り、グループ員に指導するといったグループ学習方法を取り入れることによって、確実に技術を習得することを目指している。

対象の安全・安楽を保証するために、必要な事前学習とともに、常に自己の技術を高める努力を惜しまず、主体的に学習に取り組むことを期待する。

看護過程の学習において、グループワークを効果的に運用するためには、個別学習による事前学習が不可欠である。活発な討議ができるように準備して授業に臨むこと。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜技術チェックを行うとともに、事例問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

藤崎郁，他：系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2006.

藤崎郁，他：系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2009.

以上は、1年次に購入しているもの

竹尾恵子監：看護技術プラクティス 第2版，学研，2009.

「生活援助技術論（2年次）」で購入しているもの

任和子編：改訂版 看護過程ガイド ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる，照林社，2009.

その他必要時指示する。

参考書

<与薬に関するもの>

石塚睦子，他編：わかりやすい与薬 第4版，医学評論社，2010.

高田早苗，他編：EBN Books エビデンスに基づく注射の技術，中山書店，2006.

上谷いつ子，他編：安全確実にを行うための最新 注射・輸液マニュアル，日本看護協会出版会，2005.

山口瑞穂子監修：看護技術 講義・演習ノート下巻 診療に伴う看護技術篇，医学芸術社，2006.

<看護過程に関するもの>

R. アルファロールフィーヴァ著，江本愛子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断 第6版，医学書院，2008.

松本光子編：JJN ブックス ケーススタディ 看護過程 根拠に基づく看護診断から評価まで 第2版，医学書院，2002.

三上れつ著：実践に役立つ看護過程と看護診断—ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開— 第2版，ヌーヴェルヒロカワ，2001.

江川隆子他編：ゴードンの機能的健康的パターンに基づく看護データベース—作成過程と臨床への応用— 第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2010.

江川隆子監訳：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針，照林社，2006.

高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版，学研，2010.

山口瑞穂子，他監修：疾患別看護過程の展開 第3版，学研，2008.

井上智子，他監修：病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図，医学書院，2008.

その他は、「基本援助技術論」「生活援助技術論」で示したものを参照して下さい。

オフィスアワー

前期 木曜日 16:30 ～ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

後期 火曜日 16:30 ～ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

基礎看護学早期体験実習

担当教員

教 授 名 越 民 江
准 教 授 南 妙 子
助 教 栗 納 由 記 子 松 岡 美 奈 子 香 川 里 美

授業概要

病院の機構・概要を理解し、入院している患者の生活環境の実態について把握する。なお、生活環境は、学生が観察するだけでなく測定器具を用いて把握する。

また、病棟での看護活動の実際を見学することにより、今後の学習をより深める。

一般目標

看護の場としての病院の機構、概要を理解するとともに、看護の対象である入院患者の生活環境を見学実習し、看護に関する理解を深める。

行動目標

1. 病院の機構、概要、看護部の概要について知る。
2. 病院の役割と機能および各病棟の概要や安全について知る。
3. 入院患者の生活環境の実態を観察し、環境測定用具を用いて測定する。
4. 医療チームにおける看護師の活動の実際を知る。
5. 入院患者に関わる医療チームメンバーの各々の役割と、メンバー間の連携のあり方について知る。
6. 今後の看護の学習を進めるために、自己の学習課題を明確にする。

授業内容

1年次 必修 1単位（45時間）

学習方法

後日配布する「2011～2012 看護学実習の手引きー基礎看護学早期体験実習ー」を参照。

評価方法

出席状況、見学実習の状況、課題レポート提出、グループ・クラスカンファレンスの参加態度を総合して評価する。

教科書及び参考文献

看護学概論参照（シラバス）

オフィスアワー

随時： 名越研究室（5階 517室）

基礎看護学実習

担当教員

教 授 名 越 民 江
准 教 授 南 妙 子
助 教 栗 納 由 記 子 松 岡 美 奈 子 香 川 里 美

授業概要

基礎看護学早期体験実習 に続く実習である。この実習では、受持患者の入院、治療、検査による日常生活の変化や、心理状態について把握し援助活動を行う。そのためには、実習開始前までに学習した内容が統合・活用できるように、事前学習や学内実習した基本的技術を、さまざまな条件をもった対象を想定して、応用できるように学習する。

一般目標

看護の対象を把握し、看護上の問題を明らかにして、看護援助を実施・評価するために、科学的に問題解決する思考能力の基礎を習得する。

行動目標

1. 受持患者とコミュニケーションが図れて、信頼関係を築くことができる。
2. 受持患者の入院生活の現状を把握することができる。
3. 受持患者の全体像が描けて必要な看護が判断できる。
4. 現時点で優先すべき看護を確認し、指導者に報告できる。
5. 患者の気持ちを大切に、既習の技術をどう応用すれば看護することができるかを考えて実施できる。
6. 実施した看護を評価できる。
7. 患者や家族に尊重した態度で接し、プライバシーの確保や倫理的配慮ができる。

授業内容

2年次 必修 2単位 (90時間)

学習方法

後日配布する「2011～2012 看護学実習の手引き-基礎看護学実習-」を参照。

評価方法

出席状況、実習記録、レポート提出、グループ・クラスカンファレンスの参加態度を総合して評価する。

教科書及び参考文献

1年次・2年次に基礎看護学の科目で示した書籍

オフィスアワー

随時： 名越研究室 (5階 517室)

05 成人看護学

担当教員

教 授 清 水 裕 子

授業概要

本科目は基礎看護学で学んだ看護の哲学・理念、目的、方法に関する知識をさらに発展させて、ライフサイクルにおける「成人期」という特定の対象に対する看護実践の基本的考え方について学ぶ。

ライフサイクルにおける成人期は生活経験の蓄積や加齢に伴って健康上の問題をきたしやすい時期であり、いったん健康を障害されると成人のみならず成人を取り巻く周辺の人々に多大な影響を及ぼす。一方、成人期は自立し、自律性、生産性に優れ、発達課題や生活経験に根ざした独自の価値観や考え方を持ち、健康上の問題に対する反応（身体および考え方や取り組み方）は健康障害の違いのみならず、各々の生活経験や生活背景の違いによって個人差がある。

そこで、本科目ではこのような成人の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉、資源の動向などから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を理解する。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という観点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する保健医療システムとそのあり方、看護方法について学ぶ。

本授業をとおして学生は、後続する2年次の成人慢性期援助論、成人急性期援助論、成人リハビリテーション期援助論、成人終末期援助論、さらに3年次・4年次の成人看護学実習の基盤となる考え方を学び、看護の実践的知識・技術・態度を統合していくことが期待されている。

一般目標

あらゆる健康レベルにある成人期の人とその家族の看護上のニーズ、対象の特性に応じた看護の必要性和適切な看護の方法を理解するために、その基本となる知識を習得する。

行動目標

1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその意義・重要性を説明できる。
2. 成人各期にある人（家族を含む）の一般的な身体的特徴、社会心理的特徴（発達課題・生活課題）、生活の特徴を説明できる。
3. 成人期にある人の保健の動向および成人各期の保健問題とライフスタイルの関連性について説明できる。
4. 成人各期にある人に起こりやすい健康障害とその要因を説明できる。
5. 成人期にある人の健康障害の各期の反応パターンの特徴とその反応パターンの特徴に応じた看護の目的・方法の特徴を説明できる。
6. あらゆる健康レベルの成人期にある人の健康を支援するための保健政策と保健・医療・福祉システム、社会資源について説明できる。
7. 成人期にある人の看護の目的・役割・活動の場・課題について説明できる。

8. 成人看護に用いられる基礎理論の概要について説明できる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
成人看護学の概念	1	成人看護学とは 成人看護の対象	成人看護の特徴：目的、役割・機能 成人の特徴、役割	清水
成人各期の特徴と健康問題	2・3	青年期・壮年期・向老期の特徴と保健問題	ライフサイクルにおける成人期の特徴と区分 課題学習；成人各期の身体的特徴、社会心理的特徴と保健問題	清水
成人期を取り巻く社会/環境と保健問題	4・5	成人保健の動向と保健医療福祉対策	疫学統計からみた成人期の特徴 視聴覚学習「路上で生活する人々」 課題学習：健康な生活を送るために必要な保健医療福祉対策	清水
成人患者の看護の方法	6	健康レベルと看護方法	健康概念の起源からみた生活援助 健康レベルに即した家族を含めた看護方法	清水
	7	成人看護に用いる理論 — 基礎編	ニード論、適応理論、ストレス理論、危機理論、学習理論他	清水
	8	試験		清水

学習方法

講義（視聴覚を含む）と課題学習（個人とグループワーク）、参加型学習を中心に展開する。

評価方法

課題レポート、および授業への参加度を評価資料とし、試験を実施する。

教科書及び参考文献

大西和子ほか.成人看護学概論.第2版,ヌーヴェルヒロカワ,2009.

安酸史子ほか.成人看護学概論.メディカ出版,2004,(ナーシング・グラフィカ 成人看護学,22).

小松浩子.成人看護学総論.第13版,医学書院,2010,(系統看護学講座 専門分野 2 成人看護学,1).

野口美和子.成人看護学概論・成人保健.第3版,メヂカルフレンド社,2007,(新体系看護学全書,14).

林直子ほか.成人看護学概論.南江堂,2011.

厚生統計協会.国民衛生の動向〈2010/2011〉.厚生統計協会,2010.雑誌.厚生 の指標増刊.

オフィスアワー

月曜日 16:30～17:30

成人疾病論

担当教員

教授	田中輝和、峠哲男
准教授	筒井邦彦
医学科 兼任教員	石川真也、臼杵尚志、大森浩二、岡野圭一、金西賢治、 黒田泰弘、窪田泰夫、紺谷桂一、白神豪太郎、田宮隆、 西山佳宏、萩池昌信、原大雅、堀井泰浩、村尾孝児、 森川健一郎、森望 (五十音順)
コーディネーター	當目雅代、金正貴美

授業概要

看護とは、個人・集団の健康的な生活リズムを作ることを目標に、健康上のあらゆる問題に対して援助を行うことである。もう少し具体的に言うと、健康の増進、維持、回復に関する人間の反応を診断し、かつそれに対処し、個人ないし集団が自立していくことを援助することにある。看護の役割を果たすためには、まず人間の生命過程、発達過程を理解することから始まり、人間の生命、健康に影響を与えるその環境を認識し、健康とはなにか、人間が病むとはどういうことかを学ばなければならない。そして対象となる人間がもっとも必要としている援助の内容が理解でき、かつ実践できるだけの知識と技術を習得しなければならない。このような病態生理学をはじめとする基礎的な医学知識と技術がなくしては人間を統一的に見て、人間の健康の問題の反応を診断し処理するという看護の本来の目的を達成することも困難である。

医学上、病気の成り立ちや仕組みを知っていることは看護の実践に極めて重要である。ひとりひとりの看護対象のあらゆる問題に踏み込んだ視点が要求されるであろう。成人の健康破綻と回復過程のパターンを理解し、病める人間が自立していくための動機づけを行い、必要に応じて援助していくことが成人看護の基本である。看護に携わるものにとってももっとも大切なことは人間が、人間として、人間のために保健医療のケアの分野で何をしりうるかを知り、必要な看護を実践できることである。

一般目標

人間の健康上の問題の反応を診断し処理するという看護の本来の役割を果たすためには、人間の構造と機能を理解することに始まり、各生体器官またはその機能の障害により発症する成人の代表的な疾患の病態・症状・診断技能・治療について理解し、看護の実践の場において看護上の問題点を認識する。また、疾患を理解することにより生活習慣病、難病、がん、感染症等の慢性病の日常生活維持に関する生活支援を行うための知識を深める。

行動目標

1. 成人病の診断法、基本的検査、治療法について説明できる。
2. 外科的感染症、損傷、生体反応の病態について説明できる。
3. がん発症のメカニズム、病態、生体反応の病態について説明できる。

4. 麻酔学、救急医学、放射線医学の概要を述べられる。

5. 皮膚・アレルギー系、循環器系、呼吸器系、脳神経系、血液・造血器系、腎・泌尿器系、消化器系、内分泌・代謝系、運動器系、女性生殖器系、耳鼻咽喉器系における主要な成人病の病因、病態生理、経過、予後、治療について記述できる。

授業内容

2 年次前期・必修 2 単位（60 時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	内科学概論・診断学	内科学とは、患者の診方	峠
		医学の歴史	人と病気の歴史、近代医学の誕生	
	2	症候学Ⅰ	嘔下困難、悪心・嘔吐、吐血・下血	峠
			黄疸、肥満・やせ、腹部膨満、便秘・下痢	
	3	症候学Ⅱ	嘔声、呼吸困難、咳嗽と喀痰、咯血、胸水	峠
			動悸、排尿障害、意識障害発熱、浮腫	
	4	症候学Ⅲ	言語障害、貧血、頭痛、しびれ、運動麻痺、けいれん	筒井
	5	検査診断学	臨床検査の意義、読み方、看護職の役割	
	6	輸血	治療目的と指針、治療方法と手技	田中
	7	臨床腫瘍学Ⅰ	腫瘍の概念と定義、発癌機序	
	8	臨床腫瘍学Ⅱ	症候、病態と治療	田中
	9	外科学概論	外科学とは	
	10	外科学- 損傷	損傷の種類、症状と創傷治療、熱傷	白杵
11	麻酔学	麻酔薬と手術		
12	救急医学	救急医療、外傷、中毒	黒田	
13	放射線医学	画像診断学、核医学、放射線治療		
		放射線障害とその防護	西山	

大項目	回	項目	内容	担当者
各論	14	アレルギー系	アレルギー、膠原病、等	峠
	15	皮膚	湿疹、帯状疱疹、等	
	16	循環器系Ⅰ	高血圧症、不整脈、心不全、等	窪田泰夫
	17	循環器系Ⅱ	虚血性心疾患と心臓手術、等	
	18	呼吸器系Ⅰ	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、結核、等	筒井
	19	呼吸器系Ⅱ	肺癌、呼吸器系手術、等	
	20	脳・神経系	脳出血、脳腫瘍、等	石川
	21	血液・造血器系	貧血、DIC、白血病、悪性リンパ腫、等	
	22	腎・泌尿器系	腎臓病と人工透析、等	田宮
	23	消化器系Ⅰ	肝炎、肝硬変、肝臓癌、膵炎、胆石症、等	
	24	消化器系Ⅱ	胃癌、食道癌、胃・食道手術、等	筒井
	25	消化器系Ⅲ	大腸癌、直腸癌と人工肛門造設術、等	
	26	内分泌・代謝系	糖尿病、高脂血症、等	岡野
	27	運動器系	運動器疾患 等	
	28	女性生殖器系Ⅰ	乳癌、甲状腺疾患、等	萩池
	29	女性生殖器系Ⅱ	子宮癌、卵巣癌、更年期障害、等	
	30	耳鼻咽喉器系	メニエール病、副鼻腔炎、上顎癌、等	村尾
				森川
				紺谷
				金西
				森

学習方法

学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を看護の問題として臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。

評価方法

講義終了時に筆記試験を行う。講義の出欠の状態も評価の対象とする。

教科書

臨床病態学1 スーベルヒロカワ 2006
臨床病態学2 スーベルヒロカワ 2006
臨床病態学3 スーベルヒロカワ 2006
症状別看護技術 スーベルヒロカワ 2007

参考文献

系統看護学講座 専門科目 成人看護学(2-14)、医学書院、2003
わかりやすい内科学 第2版、文光堂、2001
疾患別看護過程セミナー 総合改訂版、医学芸術社、2006
長谷川雅美・林優子編：疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005
山田幸広編：看護のための病態ハンドブック、医学芸術社、2005
林正健二編：疾病と治療、MCメディカ出版、2008
落合慈之監修：消化器疾患ビジュアルブック、2009

オフィスアワー（コーディネーター）

随時

成人慢性期援助論

担当教員

教授 清水裕子
非常勤講師 大上幸子

授業概要

生涯にわたって病気をコントロールしなければならない慢性期（いわゆる慢性疾患）の成人患者とその家族の体験世界への理解を深めるとともに、慢性期の成人患者とその家族が必要としている看護援助を判断し、個別的な看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. 慢性期にある成人患者とその家族が病や障害とともによりよく生きていくために、必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
2. 慢性の病の経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. 慢性期にある成人と家族に起こりやすい健康問題とその反応の特徴について説明できる。
2. 慢性期にある成人と家族の健康問題と反応に影響を及ぼす要因を説明できる。
3. 慢性期にある成人と家族のセルフケア（自己管理）の学習支援を促進・阻害する要因を説明できる。
4. 慢性期にある成人と家族のセルフケア学習支援に有用な理論を上げ、説明できる。
5. 慢性期にある成人と家族が必要としているセルフケアを判断し、学習支援のための方法を説明できる。
6. 慢性期にある成人と家族に必要な治療・検査の目的・意義、安全・安楽に目的を達成するための援助を説明できる。
7. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きるために必要な能力・資源を開発するための看護援助について説明できる。
8. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きていく経験に意味を見いだしていくための関わり、援助を説明できる。
9. 慢性期の患者と家族が QOL を維持、あるいは高めるために必要な保健医療システムや社会資源の活用について説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	慢性期にある成人の理解	慢性の病をもつ成人とその家族の体験世界 慢性期・慢性疾患の特徴 慢性の病を持つ患者とその家族に起こりやすい看護問題	清水
	2	慢性期にある成人患者へのアプローチとその基本となる理論	慢性期の経過と経過別看護アプローチと基本理論 成人の学習理論、自己効力感モデル 行動理論 セルフケア理論	清水
	3		エンパワーメント（意思決定支援）モデル	清水
	4		ケアリング、スピリチュアルケア	清水
	5	成人のセルフケア形成に向けての支援	学習支援アプローチの実際 学習ニーズのアセスメント 学習支援計画の立案（共同目標設定） 学習支援の方法立案	清水
	6		事例を用いた学習支援計画の立案1） GW 泌尿器系疾患を持つ成人患者の看護—腎不全	清水
	7		事例を用いた学習支援計画の立案2） GW	清水
	8		事例を用いた学習支援計画の立案3） GWの発表・討論	清水
	9	家族の支援とソーシャルサポート	慢性期の成人患者の家族の問題と支援 慢性期の成人患者の支援のためのヘルスケアシステムと社会資源	清水
	10	慢性疾患別成人の看護の方法	代謝系疾患を持つ成人患者の看護—糖尿病、肝疾患他	清水
	11		循環器系疾患を持つ成人患者の看護—心不全、他	清水
	12		消化器系疾患を持つ成人患者の看護—直腸癌、他	清水
	13		呼吸器系疾患を持つ成人患者の看護—COPD、他	清水
	14		成人がん患者の看護—がん化学療法の看護、死にゆく人への援助、他	大上
	15		特殊な治療の必要な成人の看護—褥瘡、他	清水
	16	試験		

学習方法

授業は講義形式だけではなく、グループ学習やクラス討論により進める。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートを評価資料とし、試験を実施する。

教科書

鈴木志津江・藤田佐和編；慢性期看護論第2版、NOUVELLE HIROKAWA、2009

参考文献

- 浅野浩一郎ほか.系統看護学講座 専門分野〈2〉～〈15〉.メディカ出版.
- Strauss.Anselm L.ほか.慢性疾患を生きる.医学書院,1987.原タイトル:Chronic illness and the quality of life.
- 飯野京子ほか.安全・確実・安楽ながん化学療法ナーシングマニュアル.医学書院,2009.雑誌.JJN スペシャル No.85
- 窪寺俊之.スピリチュアルケア入門.三輪書店,2000.
- 小坂橋喜久代ほか.エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図.中央法規出版,2001.
- コニー・M・デニス.オレム看護論入門.医学書院,1999.
- 厚生省老人保健福祉局老人保健課.褥瘡の予防・治療ガイドライン.照林社,1998.
- ジーン・ワトソンほか.ワトソン看護論.医学書院,1992.
- ドロセア・E. オレムほか.オレム看護論.第4版,医学書院,2005.
- 安酸史子ほか.実践成人看護学-慢性期.改訂版,建帛社,2010.
- 深谷智恵子ほか.ナーシング・グラフィカ〈10〉～〈15〉.メディカ出版.
- ピエール ウグほか.慢性疾患の病みの軌跡.医学書院,1995.
- ミルトン・メイヤロフほか.ケアの本質.ゆみる出版,1987.
- シスター・M・シモーヌ・ローチほか.アクト・オブ・ケアリング.ゆみる出版,1996.
- 村本淳子ほか.一目でわかる糖尿病といわれた人の看護 Q&A.ヌーヴェルヒロカワ,2003.
- ルース・ウーほか.病気と患者の行動.医歯薬出版,1984.
- ラザルス, リチャード・S.ほか.ストレスの心理学.実務教育出版,1991.
- ドナ・R. ファルヴォほか.上手な患者教育の方法.医学書院,1992.
- 三井和浩. ナーシング・グラフィカ〈2〉～〈25〉.メディカ出版

オフィスアワー

前期 木曜日 16:30 ～ 17:30

成人急性期援助論

担当教員

教授	當目雅代
助教	野口英子 小笠美春
非常勤講師	國方美佐

授業概要

本科目において学生は、健康障害の経過別における急性期とくに周手術期に焦点を当てて成人患者とその家族の身体生理学的・社会心理的な反応の特徴の理解に基づいて、成人とその家族のQOLを高め、Well being を目指した看護援助の必要性とその方法を判断し、実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. 急性期（周手術期）にある成人とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的、ならびに生活への影響を理解し、必要としている看護ケアを判断するための基本的知識・技術・態度を習得する。
2. 急性期(周手術期)にある成人患者とその家族が病理状態や機能障害による影響を最少にし、早期に回復するために、必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
3. 1と2を通して、病いの経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. 急性期・周手術期の定義を述べることができる。
2. 周手術期患者の不安の定義、特性、種類、症状および看護援助を説明できる。
3. ストレス理論およびストレス緩和要因を理解し、周手術期患者のストレスとその反応および看護援助の方法を説明できる。
4. 危機理論を理解し、周手術期患者の危機的状況と看護援助の方法を説明できる。
5. 手術に伴う生体反応および麻酔の影響に関する看護援助の方法を説明できる。
6. 手術室看護について説明できる。
7. 手術に伴う生体損傷とその修復過程のアセスメントおよび看護援助の方法を説明できる。
8. 術後合併症のアセスメントと看護援助の方法を説明できる。
9. 手術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理についての看護援助の方法を説明できる。
10. 手術前オリエンテーションの必要性と方法を説明できる。
11. 救急看護・ICUについて説明できる。
12. BLSとAEDについて実施できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
急性期の看護	1	急性期看護	急性期と周手術期の定義	當目
	2	手術前の心理的側面	手術の不安	當目
	3		ストレス・コーピング・危機理論	當目
	4		手術に伴う生体反応	當目
	5	周手術期の身体的側面	麻酔の影響と看護	當目
	6		手術室看護	手術室の概要、安全対策、事故対策
	7	手術後の看護	手術中の看護	當目
	8		手術後の看護	當目
	9		手術後の合併症予防 (呼吸器系・循環器系・消化器系)	當目
	10	手術前の看護	手術後の合併症予防 (術後せん妄)	當目
	11		手術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理	當目
	12		術前オリエンテーション	當目
	13	救急看護	手術前処置・術前訓練	當目
	14		救急・ICU看護	國方
	15		BLSとAED	國方

学習方法

授業は講義・演習で行う。

評価方法

出席状況および学習態度、課題レポート、筆記試験によって評価する。

教科書

竹内登美子編：1 外来/病棟における術前看護、医歯薬出版株式会社、2001

竹内登美子編：2 術中/術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版株式会社、2001

参考文献

疾患別看護過程セミナー 総合改訂版、医学芸術社、2006

長谷川雅美・林優子編：疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005

山勢博彰編：救急看護論、ヌーベルヒロカワ、2005

竹内佐智恵編：周手術期看護、MC メディカ出版、2009

坂本すが監修：術前・術後マニュアル、メジカルフレンド社、2007

大久保憲編：OPE ナーシング、EBM に基づく手術部の感染防止 Q&A、メディカ出版、2002

前田恵美子編：視て、観て、看て手術室クリニカルパス、日総研出版、2002

中田精三編：手術室看護の知識と実際、メディカ出版、2002

河野友信：手術患者と不安、真興交易医書出版部、2000

山田富美雄監修：医療の行動科学 I、ミニマムサイコロジー、北大路書房、1999

オフィスアワー

随時

成人リハビリテーション期援助論

担当教員

教授	當目雅代		
講師	金正貴美		
助教	野口英子	小笠美春	
非常勤講師	辻下守弘		
非常勤講師	大島由紀江	納田広美	
非常勤講師	森田伸	田仲勝一	内田茂博

授業概要

本科目において学生は、健康障害の経過別におけるリハビリテーション期（回復期）にある成人患者とその家族の身体生理学的・社会心理的な反応の特徴の理解に基づいて、成人とその家族のQOLを高め、Well beingを目指した看護援助の必要性とその方法を判断し、実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. リハビリテーション期（回復期）にある成人とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的、ならびに生活への影響を理解し、必要としている看護ケアを判断するための基本的知識・技術・態度を習得する。
2. リハビリテーション期（回復期）にある成人患者とその家族が疾患や障害と共によりよく生きていくために必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
3. 1と2を通して、病いの経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. リハビリテーションチームとそこでの看護の役割について説明できる。
2. 障害受容理論である価値転換理論、ステージ理論について説明できる。
3. 日常生活活動（ADL）の概念と評価方法および自立のための看護援助について説明できる。
4. 早期離床の意義と二次的障害の予防の看護について説明できる。
5. ストーマケアの援助について説明ができ、適切な技術を習得できる。
6. 車椅子等を使用して患者の状態に合わせた移乗動作の介助方法を習得できる。
7. 疾患に応じた退院指導のためのパンフレット、退院計画を作成することができる。
8. 筋肉増強訓練、歩行訓練について説明ができ、適切な技術を習得できる。

9. ナーシングバイオメカニクスを用いた体位変換の方法を習得できる。
10. 呼吸機能訓練について説明ができ、適切な技術を習得できる。
11. 運動・神経機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害、感覚機能障害の特徴と看護援助について説明できる。
12. リハビリテーションにおける患者の行動変容へのアプローチ方法について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
リハビリテーション期の看護	1	リハビリテーション看護	リハビリテーションチームと看護の役割	當目
	2	障害受容	価値転換理論、ステージ理論	當目
	3	ADL 自立への援助	ADL の考え方と評価方法、自立への援助	當目
	4	早期回復への援助	早期離床、二次的障害の予防	當目
	5	ストーマケアの援助	ストーマケアの理論と実践	大島
	6			納田
	7	トランスファーの援助	トランスファーの理論と実践	森田
	8			田仲他
	9	筋肉増強訓練・歩行訓練	筋肉増強訓練・歩行訓練の実践	野口他
	10	ナーシングバイオメカニクス	ナーシングバイオメカニクスの実践	野口他
	11	呼吸器リハビリテーション	呼吸訓練方法の実践	當目他
	12	退院指導・退院計画	疾患に応じた退院指導のパンフレット作成 退院計画	當目
	13	障害別リハビリテーション看護 1	運動機能障害、感覚器障害を持つ人の看護	當目
	14	障害別リハビリテーション看護 2	呼吸・循環機能障害を持つ人の看護	當目
	15	行動変容アプローチ	リハビリテーションにおける行動変容アプローチ	辻下

学習方法

授業は講義・演習で行う。

評価方法

出席状況および学習態度、各課題レポート、筆記試験によって評価する。

教科書

中西純子編：成人看護学、リハビリテーション看護論、ヌーベルヒロカワ、2005

参考文献

- 氏家幸子監修：成人看護学、D. リハビリテーション患者の看護第2版、廣川書店、2003
- 石鍋圭子編：リハビリテーション専門看護、医歯薬出版、2001
- 呼吸器ケア学会：呼吸リハビリテーションマニュアル、照林社、2007
- 内山真一郎監修：脳卒中の治療とケア、医学芸術社、2003
- 鈴木愉編：ナースのためのリハビリテーションレクチュア第2版、文光堂、2001
- 渡辺俊之編：リハビリテーション患者の心理とケア、医学書院、2000
- 大田仁史監修：障害受容意味論からの問い、荘道社、1998
- 藤田君枝編：整形外科退院指導マニュアル、メディカ出版、2004秋期増刊
- 石鍋圭子編：リハビリテーション看護研究1、医歯薬出版、2001
- 大村裕子：カラー写真で見てわかるストーマケア—基本手技・装具選択・合併症ケアをマスター、メディカ出版、2006
- 松原 康美、ストーマケアの実践、医歯薬出版、2007
- 石鍋圭子編：リハビリテーション看護実践テキスト、医歯薬出版、2008

オフィスアワー

随時

成人終末期援助論

担当教員

講師	金正貴美
非常勤講師	本多美枝

授業概要

人生半ばにして死にゆく病いのなかで成人患者とその家族が経験している身体的・精神的・社会心理的・霊的苦痛を理解するとともに、患者とその家族がそれらの経験に意味を見だし、心穏やかにそのときを迎えることができるような看護のあり方について考え、死にゆく成人と家族の看護の基本となる知識・技術・態度について学ぶ。

一般目標

1. 終末期にある成人患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・霊的苦痛に伴うニーズを満たし、残された日々を充実して過ごすための看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
2. 死にゆく病いの経験を成人とその家族が意味づけ、終りのときをおだやかに迎えることができるよう、独自性を尊重した看護援助を学ぶ。

行動目標

1. 終末期にある成人と家族の身体的、精神心理的、社会経済的、ならびに生活への影響について説明できる。
2. 終末期にある成人とその家族の体験している苦痛、霊的苦悩、ニーズを説明できる。
3. 理論に基づいて終末期にある成人とその家族の心理的反応とケアを説明できる。
4. 終末期医療（緩和ケア・チームアプローチなど）の特徴と意義・あり方を説明できる。
5. 終末期にある成人と家族が受ける治療・検査の意義・目的と安全・安楽な援助の方法について説明できる。
6. 終末期にある成人と家族が死にゆくことの経験に意味を見いだしていくための看護者の関わり、援助のあり方について説明できる。
7. 終末期の成人と家族がQOLを維持、あるいは高めるために必要な保健医療システムや社会資源の活用の方法について説明できる。
8. 終末期にある成人の家族の援助の意義と方法について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	終末期医療の歴史と緩和ケア	終末期医療の歴史, チーム医療、緩和ケア 終末期各段階における身体機能低下と看護援助	金正
	2	全人的苦痛とその援助	終末期の成人の苦痛と死の受容過程 終末期にある人の全人的苦痛とその援助 スピリチュアルペインとスピリチュアルケア	
	3	倫理的意決定のプロセス	倫理的課題 (Truth telling、鎮静、アドバンスド ディレクティブ) 臨床で直面するジレンマ	金正
	4	苦痛を有する患者への安楽の提供	補完代替療法 リラクゼーション技法	金正
	5	終末期の症状緩和	放射線療法を受ける成人の援助 終末期患者の症状マネジメントと看護の役割	金正
	6	緩和ケア	がん性疼痛のアセスメント、薬物療法、 疼痛緩和技術	本多
	7	家族への援助	終末期にある人の家族の苦痛や悲嘆のプロセス 家族の死への気づきやニーズ、家族への援助 遺族へのケア (グリーンワーク、遺族会)	金正
	8	試験		金正

学習方法

授業は講義形式だけではなく、グループ学習やクラス討論により進める。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートの内容および筆記試験によって評価する。

教科書

鈴木志津枝、内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2005

参考文献

委羽倭文子他：がん看護、三輪書店、2002

柏木哲夫、藤腹明子編：系統看護学講座 10 ターミナルケア、医学書院、2005

恒藤暁：最新緩和医療学、最新医学社、2005

P. J. ラーソン/内布敦子他：Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用、日本看護協会出版会、1988

委羽倭文子他：ホスピスケアの実際、三輪書店、2000

根岸秀子、千崎美登子編：エンドオブライフのがん緩和ケアと看取り、医歯薬出版、2008

辻井博彦：がん放射線治療とケア・マニュアル、医学芸術社、2003

岡崎寿美子編：痛みのケア、医歯薬出版、2002

近藤まゆみ、峰岸秀子編：がんサバイバーシップ がんとともに生きる人びとへの看護ケア、医歯薬出版、2006

吉田哲：ターミナルケアの場面 看護とカウンセリングⅡ、メディカ出版、2000

アルフォンス・デーケン編：死への準備教育第2巻 死を考える、メヂカルフレンド社、1986

アルフォンス・デーケン編：死への準備教育第3巻 死を看取る、メヂカルフレンド社、1986

五十嵐透子：リラクゼーション法の理論と実際 ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門、医歯薬出版、2001

オフィスアワー

月曜日 16:10 ~ 17:00

成人看護学演習

担当教員

教 授 清 水 裕 子 教 授 當 目 雅 代
 講 師 金 正 貴 美

授業概要

本科目は、成人看護学概論、成人慢性期援助論、成人急性期援助論、成人リハビリテーション期援助論、成人終末期援助論で学んだことを基盤として、成人期の対象に対して看護過程のシミュレーション学習を行う。

一般目標

成人期に発症しやすい疾病・障害の患者体験を通して、対象の理解を深めるとともに、適切な援助方法を習得する。また、成人期に代表的な疾患を通して看護過程の展開ができる能力を養う。

行動目標

1. 成人期患者の疾病と障害の病態が説明でき、必要な検査と治療などが理解できる。
2. 成人期患者の看護上の問題について、模擬患者（SP; Simulated Patient）とのかかわりをおおして情報収集し、アセスメントできる。
3. 成人期患者の看護上の問題を解決できるための看護活動を計画できる。
4. 成人期患者の看護計画を評価できる。
5. TBL(Team Based Learning)に積極的に参加し、メンバーとしての役割を果たすことができる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項 目	内 容	担当者
看護過程	1	導入	ガイダンス（TBLの実施方法、チーム形成）	清水 當目 金正
	2	講義	看護過程の実施方法	
	3	講義	慢性期患者事例、急性期・リハビリテーション期患者事例、終末期患者事例	
	4			
	5	試験	個人試験	
	6			
	7	GW	情報収集：SP参加型学習 病態生理と解釈、関連図作成	
	8			
	9	試験	チーム試験	
	10			

11	GW	データベースアセスメント
12	GW	看護計画
13	試験	チーム試験
14	発表	チーム発表
15		

学習方法

TBL の枠組みに従いスモールグループ法で実施する。部分的には各担当教員毎に教室に分かれて実施する。SP 参加型学習は、成人・老年看護学実習室において実施する。

評価方法

出席状況、学習態度、個人試験、チーム試験、チーム発表、成果物を評価資料とする。

教科書

任和子.看護過程展開ガイド.改訂版,照林社,2009.

参考文献

- 小田正枝ほか. ケーススタディ看護診断ガイド. 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2003.
 江川隆子ほか. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護データベース. 第2版3刷, ヌーヴェルヒロカワ, 2003.
 江本愛子. 基本から学ぶ看護過程と看護診断. 第6版, 医学書院, 2008.
 東風平智江美ほか. 疾患別/看護ケアのための病態関連図. 医学芸術社, 2006.
 ラリー・K. マイケルセンほか. TBLー医療人を育てるチーム基盤型学習. バイオメディスインターナショナル, 2009.
 長谷川雅美ほか. 疾患と看護過程実践ガイド. 改訂版, 医学芸術新社, 2007, (BN books, 6).
 山口瑞穂子ほか. 疾患別病態関連マップ. 第3版, 学習研究社, 2008.
 中村あやほか. 疾患別看護過程セミナー. 統合改訂版, 医学芸術社, 2006.
 山田幸宏. 看護のための病態ハンドブック. 改訂版, 医学芸術新社, 2007, (BN books, 5).

オフィスアワー

火曜日 13:00 ~ 14:00

成人看護学基本実習

担当教員

教授	當目雅代	教授	清水裕子
講師	金正貴美	助教	野口英子
助教	小笠美春	協力者	臨床教授・臨床准教授/ 臨地実習指導者

授業概要

成人看護学基本実習は急性期・リハビリテーション実習、慢性期・終末期実習の導入である。そこで、急性期・リハビリテーション実習および慢性期・終末期実習を展開する実習病棟において、入院患者の特徴、看護ケアの特徴、看護体制を知り、事前学習および自己の実習計画の作成を行う。

一般目標

1. 急性期・リハビリテーション実習および慢性期・終末期実習を展開する実習病棟における入院患者の特徴および代表的な疾患を述べることができる。
2. 急性期・リハビリテーション実習および慢性期・終末期実習を展開する実習病棟における看護ケアの特徴を知り、疾患に応じた観察点およびアセスメントの視点を述べることができる。
3. 急性期・リハビリテーション実習および慢性期・終末期実習を展開する実習病棟における看護体制を知り、看護チームの一員としての役割を述べることができる。
4. 手術部および集中治療部の見学および入室のオリエンテーションを受けることで、手術部・集中治療部の看護の概要を理解することができる。
5. 成人患者の看護援助に必要な看護技術の方法および注意点について説明できる。
 - ①血糖測定・インスリン注射の目的を理解し、方法および留意点について説明できる。
 - ②高カロリー輸液の目的を理解し、方法および留意点が説明できる。
 - ③術後管理の目的を理解し、バイタルサイン測定時の方法および留意点が説明できる。
 - ④人工呼吸器の目的を理解し、基本的な設定や患者の観察項目について説明できる。
6. 成人患者の看護援助に必要な看護技術を正確に習得できる。
 - ①対象および自己の安全・安楽を考慮したうえで、正確に血糖測定・インスリン注射ができる。また、患者指導のための視点を述べることができる。
 - ②対象の安全・安楽を考慮したうえで、中心静脈栄養カテーテルの維持・管理ができる。
 - ③全身麻酔を受けた患者の術後の全身管理ができる。
 - ④人工呼吸器の回路の組み立てや電源・酸素・圧縮空気の接続ができ、患者の安全を考慮した上での患者と機器の観察評価が確認できる。

授業内容

3年次 必修 1単位 (45時間)

詳細については「2011年度から2012年度看護学実習の手引き」を参照

実習内容

グループに分かれて実施 (1グループの例)

日	時間帯	内 容
1日目	午前	オリエンテーション
	午後	見学実習のための事前学習
2日目	午前	病棟見学実習／急性期
	午後	病棟見学実習／急性期
3日目	午前	術後管理技術チェック
	午後	血糖測定
4日目	午前	手術室・ICU 見学／ME 器機見学
	午後	高カロリー輸液管理
5日目	午前	病棟見学実習／慢性期
	午後	病棟見学実習／慢性期

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

評価方法

1. 病棟見学実習については見学終了後の課題レポートで評価する。
2. 看護技術演習については、事前学習および参加態度で評価する。

オフィスアワー

随 時

成人急性期・リハビリテーション期実習

担当教員

教授 當目雅代 講師 金正貴美
助教 野口英子 助教 小笠美春

授業概要

成人急性期・リハビリテーション実習では、臨床において成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、理論、知識、技術を適用して、急性期・リハビリテーション期にある患者とその家族を多面的、総合的に理解するとともに、対象とその家族の疾病・機能障害の急性期、リハビリテーション期の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者および人間としての成長・発達を促進する。

一般目標

1. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、受け持ち患者に活用できる。
2. 問題解決方法を活用し、受け持ち患者の個別性に応じた看護過程の展開ができる。
3. 患者の術前の全身状態を把握でき、維持・改善のための援助ができる。
4. 手術に伴う生体反応および麻酔の影響をアセスメントし、術後の看護援助ができる。
5. 手術に伴う生体損傷とその修復過程のアセスメントができ、術後の看護援助ができる。
6. 術後合併症を予防するためのアセスメントと看護援助ができる。
7. 日常生活活動（ADL）評価ができ、適切なセルフケア援助ができる。
8. 早期離床と二次的障害の予防の看護援助が提供できる。
9. リハビリテーションの目的・方法を理解し、受け持ち患者への指導ができる。
10. 疾患に応じた療養指導および退院指導のためのパンフレット、退院計画を提供することができる。

授業内容

3年次 必修 2単位（90時間）
詳細については「2011年度から2012年度看護学実習の手引き」を参照。

実習内容（1学生の例）

日	時間帯	内 容
1日目	午前	学内オリエンテーション 学内技術演習

	午後	病棟オリエンテーション 患者情報収集
2日目	午前	病棟実習での患者ケア・患者情報収集を実施し患者全体像の把握
	午後	病棟実習での患者ケア・ポストカンファレンス
3日目	午前	病棟実習での患者ケア・意図的情報収集による関連図の作成
	午後	病棟実習での患者ケア・学内で記録の書き方の指導
4日目	午前	病棟実習での患者ケア・患者情報の整理と関連図の作成
	午後	手術室実習
5日目	午前	病棟実習での患者ケア
	午後	学内で個別指導・看護計画の立案
6日目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
7日目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	学内でのカンファレンス資料作成
8日目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟カンファレンス
9日目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
10日目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	学内での個別面接・記録物の整理

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

評価方法

出席状況、事前学習、実習態度、日々の実習記録、看護過程の展開、手術見学レポート

オフィスアワー

随時

成人慢性期・終末期実習

担当教員

教授 清水 裕子 講師 金正 貴美
助教 野口 英子 助教 小笠 美春

授業概要

成人慢性期・終末期実習は、臨床において成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、理論、知識、技術を適用して、成人慢性期・終末期にある患者とその家族を多面的、総合的に理解するとともに、対象とその家族の疾病・機能障害の慢性期、終末期の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者及び人間としての成長・発達を促進する。

一般目標

- 1-1) 慢性期にある患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的特性を理解し、看護の必要性を説明できる。
- 1-2) 永続的な自己管理確立の視点から、疾病・病状の進行・悪化の予防、ならびに日常生活の維持・安定のための患者とその家族の目標を設定できる。
- 1-3) 患者とその家族のセルフケア能力を高めることができるよう、教育・指導・支援できる。
- 1-4) 外来並びに地域社会において永続的な治療・看護ができるように、患者とその家族に社会資源とその活用方法について助言したり、連絡調整の活動に参加できる。
- 2-1) 終末期にある患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・霊的苦痛とそれに伴うニーズを理解し、看護の必要性を説明できる。
- 2-2) 患者のその人らしさの尊重、ならびに人生の最期を迎える患者とその家族の達成感、安寧、QOLの視点から、患者とその家族の目標を設定できる。
- 2-3) 患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・霊的苦痛とそれに伴うニーズを充足するために、患者とその家族の希望や要望を取り入れた日常生活の援助ができる。

授業内容

3年・4年次 必修 2単位 (90時間)

実習内容

日	時間帯	内 容
1 日 目	午前	学内オリエンテーション 学内技術演習
	午後	病棟オリエンテーション 患者情報収集
2 日 目	午前	病棟実習での患者ケア・患者情報収集を実施し患者全体像の把握
	午後	病棟実習での患者ケア・ポストカンファレンス
3 日 目	午前	病棟実習での患者ケア・意図的情報収集による関連図の作成
	午後	病棟実習での患者ケア・学内で記録の書き方の指導
4 日 目	午前	病棟実習での患者ケア・患者情報の整理と関連図の作成
	午後	病棟実習での患者ケア
5 日 目	午前	病棟実習での患者ケア：人工透析室見学
	午後	学内で記録個別指導・看護診断の立案
6 日 目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
7 日 目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施・
8 日 目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	学内でカンファレンス資料作成
9 日 目	午前	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケアの実施
	午後	病棟実習での看護過程に基づいた患者ケア・病棟でのカンファレンスの実施
10 日 目	午前	学内で2週間の実習を終えての個別面接
	午後	学内で記録物の整理と記録の個別指導

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

オフィスアワー

随 時

成人看護学継続看護実習

担当教員

教授 當目 雅代 教授 清水 裕子
講師 金正 貴美 助教 野口 英子
助教 小笠 美春

授業概要

病院施設から本来の生活の場への復帰を支援する継続看護システムおよび看護活動、回復期および終末期の患者を支える看護活動の見学を通して、成人看護学の目的・役割・機能の学習を統合する。

一般目標

1. 疾病の治療、療養の継続のために外来受診する患者に対する外来における看護職の役割およびその他の職種との連携を知る。
2. 社会復帰をめざしたリハビリテーション施設における看護職の役割とその他の職種との連携を知る。
3. 終末期の患者に対して提供される緩和ケア病棟における看護職の役割を知る。
4. 退院および転院後の患者への継続看護の視点から外来看護のあり方、医療連携のあり方、看護職およびその他の職種の役割と活動を知る。

授業内容

3年次 必修 1単位 (45時間)

詳細については「2011年度から2012年度看護学実習の手引き」を参照。

実習内容 グループに分かれて実施 (1グループの例)

日	時間帯	内 容
1日目	午前	かがわ総合リハビリテーションセンター
	午後	かがわ総合リハビリテーションセンター
2日目	午前	三豊総合病院緩和ケア病棟見学
	午後	三豊総合病院緩和ケア病棟見学
3日目	午前	自己学習
	午後	自己学習

4日目	午前	香川大学医学部附属病院外来病棟実習
	午後	香川大学医学部附属病院外来実習
5日目	午前	香川大学医学部附属病院スタッフによるシンポジウム
	午後	まとめ

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

評価方法

1. かがわ総合リハビリテーションセンターおよび三豊総合病院緩和ケア病棟見学に対する課題レポート
2. 香川大学医学部附属病院外来病棟実習前事前学習と課題レポート
3. 出席状況、実習態度

オフィスアワー

随時

06 老年看護学

老年看護学概論

担当教員

教授 大森 美津子
助教 西村 美穂
助教 ()

授業概要

老年看護の目的は、老年期にあるその人の生命・生活の質が、その人を取りまく環境や条件の中で最大に保たれるように援助することである。老年看護の対象は、人生の最終段階にある人で、これまでの生活背景や社会・文化的背景などから身体的、心理・社会的変化の個人差が大きい。老年看護を学ぶためには、高齢者の特徴を捉えるとともに、その高齢者が生活している高齢社会の現実を目を向ける必要がある。その上で、老年看護の理念や目標などについて学び、高齢者を支える行政の医療福祉政策の現状や変化についても学ぶ。また学生は、老化による身体的、心理・社会的機能や能力の低下した高齢者に、内部・外部環境の変化に伴って発生する健康上の問題や生活機能障害について学び、個人差の大きい高齢者に対する援助のありかたを理解する。さらに、高齢者やその家族を看護するモデルについて学ぶ。

一般目標

1. 高齢者の特徴について理解する。
2. 高齢社会や高齢社会における高齢者の生活の実態を理解する。
3. 高齢社会における保健・医療・福祉の課題を理解する。
4. 老年看護の理念・目標・役割を理解する。
5. 健康・生活機能障害のある高齢者と家族の特徴を理解し、援助の方向性を考察する。
6. 高齢者と家族を看護するモデルを理解する。

行動目標

1. 老いのとらえ方と加齢による影響について説明できる。
2. 老年期の各発達段階における特徴を説明できる。
3. 高齢者の体験や生活の実態について説明できる。
4. 高齢者の疾病をめぐる特徴について説明できる。
5. 高齢者に対する高齢社会の影響を説明できる。
6. 高齢者医療の動向について説明できる。
7. 高齢社会における保健福祉サービスの概要について説明できる。
8. 老年看護の理念・目標について説明できる。

9. 高齢者の家族の機能と抱える問題について説明できる。

10. 高齢者と家族を看護するモデルについて説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
授業ガイダンス	1	授業ガイダンス	学習の目的・目標など	大森・西村
総論	2	老年期とは	老いのとらえ方と各発達段階における特徴	大森
対象理解	3	加齢に伴う変化	高齢者の加齢に伴うからだと社会面での変化	大森
	4	加齢に伴う変化	高齢者のこころとスピリチュアルな面での有り様	大森
老年保健	5	高齢者の健康	健康増進のためのセルフケアー栄養・運動・休息ー	大森
	6	高齢社会と保健・医療・福祉の現状と課題	高齢社会とは 高齢者医療の動向	大森
	7	保健・医療・福祉の現状と課題	高齢社会における保健・医療・福祉の課題	大森
	8	保健・医療・福祉の現状と課題	保健福祉サービス	大森
老年看護の理念	9	老年看護の理念・役割	老年看護の理念・目標 老年看護の場と看護の役割	大森
対象理解	10	高齢者擬似体験	加齢に伴う身体の変化の体験	大森・西村 ()
	11	高齢者擬似体験	加齢に伴う身体の変化の体験	大森・西村 ()
	12	疾病を持つ高齢者	疾病を持つ高齢者の体験と健康問題	大森
	13	高齢者の家族	高齢者の家族の特徴	
看護モデル	14	リビングモデル	ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル	大森・西村
	15	看護モデル	ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル	大森・西村

学習方法

講義、グループ学習、自己学習、レポート（高齢者のインタビュー）

評価方法

試験、レポート、出席状況、学習態度により評価する。

教科書及び参考文献

堀内ふき. 高齢者の健康と障害. 第3版, メディカ出版, 2011, (ナーシング・グラフィカ, 26).

大淵律子ほか. 老年看護の実践. 第3版, メディカ出版, 2005, (ナーシング・グラフィカ, 27).

Roper, Nancy ほか. ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル. 日本看護協会出版会, 2006.

Karen Holland ほか. ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開. エルゼビア・ジャパン, 2006.

井上郁. 明解看護学双書 6 老人看護学. 金芳堂, 2004.

厚生統計協会. 国民衛生の動向 〈2010/2011〉. 厚生統計協会, 2010. 雑誌. 厚生指標増刊.

オフィスアワー

前期・月曜日 17時00分 ~ 18時00分

老年疾病論

担当教員

教授 峠 哲男

兼任教員 笥 善行 森 望 廣岡一行 石川真也 他

授業概要

世界に類を見ない速さで、超高齢社会を迎えつつある21世紀のわが国の医療にとって、高齢者の看護と介護は最も重要なテーマのひとつである。高齢化の進行にともない寝たきり老人と認知症高齢者の占める割合も高くなるなかで、高齢者の社会参加と生きがいという生活の質の向上を目標とするとき、看護の果たす役割は極めて重要であり、看護の実践と教育の場において、老年看護学が独立した領域として存在することは当然のことである。

ニュートンによる老年看護の最初の定義（1950）では、「老年病学とは、高齢者における病的状態の治療とケアを扱う医学ならびに看護学の一分野である。これは健康の促進と疾病の予防も含まれる」と述べている。医学や看護の臨床の現場では単に疾病の治療やケアのみならず、日常生活動作や“生活の質”の向上を視野に入れた包括的な医療が要求されている。さらに老年看護と密接に関連する問題として認知症や老年精神病理学、老年社会学、生と死の問題などが挙げられる。このように老年看護学は、概念的にはかなり広範な内容を包含しているといえる。

本講義では臨床老年看護学を学ぶ出発点として、高齢者の疾病について理解を深め、現在行われている治療や患者の辿る経過などを知り、看護へとつなげる学習が行えるようにする。

一般目標

老年看護において看護が本来の目的を果たすためには、老年学の立場に立った加齢に伴う身体の変化をはじめ、高齢者特有の病態や症状を理解し、高齢者に特徴的な疾患に関する知識を習得し、高齢者に起こりうる身体的変化の異常に関して知識を深める。また、高齢者の治療を行う場合の注意点や起こりやすい副作用、合併症についても学習する。

行動目標

1. 加齢に伴う身体の変化（老化）や健康問題についての知識を習得する。
2. 記憶・認知機能障害、転倒、失禁など高齢者に特有な病態や、症状が非定型的であることなど老年病の特徴について説明できる。
3. 高齢者が罹患しやすい代表的な疾病について、疫学・病理・症候・診断・治療・経過が理解できる。
4. 高齢者心理学、老年社会学について述べるができる。
5. 高齢者の治療を行う場合の起こりやすい副作用、合併症について述べるができる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	老化と老年病 (1)	老化の定義、加齢の過程	峠
	2	老化と老年病 (2)	老化による身体的変化	峠
	3	老化と老年病 (3)	高齢者の特性	峠
	4	老化と老年病 (4)	老年病の特性、特徴	峠
	5	老化と老年病 (5)	老年病の疫学	峠
	6	老化と老年病 (6)	診断上の問題	峠
	7	老化と老年病 (7)	治療上の問題・薬物投与法	峠
	8	老年外科	外科療法の適応、手術成績、術後の問題点	石川
	9	老年社会学	高齢者の機能評価とQOL	峠
各論	10	認知症	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	峠
	11	前立腺肥大・前立腺癌	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	笥
	12	老人性難聴	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	森
	13	白内障	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	廣岡
	14	パーキンソン病	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	峠

学習方法

学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を踏まえて看護の臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。

評価方法

2年次前期末、講義終了時に筆記試験を行う。講義の出欠の状態も評価の対象とする。

教科書及び参考文献

系統看護学講座 専門21 老年看護病態・疾病論、医学書院、2003

奈良信雄:ナースの内科学 第6版、中外医学社、2004

磯野可一:ナースの外科学 第4版、中外医学社、2005

萩原俊男:ベッドサイドの老年診断学 第1版、南山堂、1994

村上元庸:老年学大事典、西村書店、1998

高木永子:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント、学習研究社、2005

老 年 援 助 論

担当教員

教 授 大 森 美津子
助 教 西 村 美 穂
助 教 ()

授業概要

老年看護は老化による部分的変化と全体的変化が密接に絡まって、罹患している病気とともに高齢者の健康に様々な影響を与えていることを理解して進める必要がある。さらに日々の身体面・社会面での喪失を経験しつつ、死を意識しながら生活し、精神的な発達の可能性を秘めている。

学生は老年看護の原則について学び、高齢者の特徴を踏まえて、老化を伴う健康障害や生活障害のある高齢者とその家族への援助について学ぶ。高齢者が、施設において検査や治療を受けたり、入院や退院に適応できる援助について学ぶ。高齢者の尊厳を保ちつつ、虐待防止や高齢者の権利擁護など倫理面に配慮し、精神的な発達を促せる高齢者の援助について学ぶ。

一般目標

1. 高齢者が、自立した快適な生活を送るための援助の方法および治療を受ける高齢者の看護を習得する。
2. 高齢者がその人生を全うできるような高齢者ケアについて理解する。

行動目標

1. 看護の原則について説明できる。
2. 高齢者の日常生活の援助技術について加齢と関係づけて説明できる。
3. 高齢者の安全で自立を高める環境を維持する方法について説明できる。
4. 高齢者のコミュニケーションに関する援助について説明できる。
5. 高齢者の食べることや飲むことへの援助について説明できる。
6. 高齢者の排泄することへの援助について説明できる。
7. 高齢者の身体を清潔にし、身支度を調える援助方法について説明できる。
8. 高齢者の動くことへの援助について説明できる。
9. 高齢者の仕事をして遊ぶことやセクシュアリティへの援助について説明できる。
10. 高齢者の家族への援助の方法について説明できる。
11. 入院して検査や薬物療法を受けている高齢者の看護の要点を説明できる。
12. 入院時や退院時の高齢者の看護の要点を説明できる。
13. 神経疾患・消化器疾患・脳血管障害などを持つ患者や家族の援助について説明できる。
14. 認知症高齢者や家族のケアについて説明できる。
15. 高齢者の権利擁護について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス	1	老年看護の原則	学習目的、目標、方法、評価など 看護の目標・原則	大 森
援助技術 ・援助技術演習	2	老年看護の基本的な 看護技術	1. 安全で自立を高める環境	大 森
	3	老年看護の基本的な 看護技術	9. 動くこと 10. 転倒予防	大 森
	4	老年看護の基本的な 看護技術	3. 食べることや飲むこと 4. 嚥下困難のある高齢者の援助	大 森
	5	老年看護の基本的な 看護技術と演習	2. コミュニケーション	大森・西村 ()
	6	老年看護の基本的な 看護技術と演習	1. 嚥下困難のある高齢者の食事の援助	大森・西村 ()
	7	老年看護の基本的な 看護技術と演習	7. 清潔と身支度を調える 8. 口腔ケア	大森・西村 ()
	8	老年看護の基本的な 看護技術	5. 排泄すること 6. 尿失禁のある高齢者の援助	大 森
	9	老年看護の基本的な 看護技術	11. 仕事をして遊ぶ 12. 家族への援助	大 森
	老人臨床看護 老年看護と倫理	10	老年臨床看護の展開	4. 認知症高齢者の看護、バリデーション
11		高齢者の権利擁護	1. 高齢者対応の理念 2. 高齢者虐待 3. 成年後見人制度	大 森
老人臨床看護	12	老年臨床看護の展開	1. 入院している高齢者の看護 (入院時の適応支援)	大森・西村
	13	老年臨床看護の展開	2. 入院している高齢者の看護 (検査、薬物療法、手術を受ける高齢者)	大森・()
	14	老年臨床看護の展開	3. 入院している高齢者の看護 (退院支援)	大森・()
	15	老年臨床看護の展開	事例による看護過程の展開	大森・西村 ()

学習方法

講義、グループワーク、クラス討論などにより進める。

評価方法

試験、レポート、出席状況、学習態度により評価する。

教科書及び参考文献

大淵律子ほか. 老年看護の実践. メディカ出版, 2005, (ナーシング・グラフィカ, 27).

堀内ふきほか. 高齢者の健康と障害. 第3版, メディカ出版, 2011, (ナーシング・グラフィカ, 26).

Karen Holland ほか. ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開. エルゼビア・ジャパン, 2006.

ナオミ・フェイル. 痴呆症の人との超コミュニケーション法. 第2版, 筒井書房, 2002.

奥野茂代ほか. 老年看護技術. 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2008.

北川公子. 老年看護学. 第7版, 医学書院, 2010.

沼本教子ほか. 老人看護学. 建帛社, 2001.

大森美津子ほか. 成人看護学・終末期. 建帛社, 2002.

その他授業内容に応じて適宜参考書を提示する。

オフィスアワー

後期・火曜日 17時00分～18時00分

認知症高齢者のケア

担当教員

教 授 大森美津子

助 教 西村 美穂

助 教 ()

授業概要

認知症の高齢者は、認知症の特徴に伴う全人的な変化のなかでその人生を生活している。その高齢者のケアはその体験に根ざすものであり、その高齢者の人生の豊かさに向かうものである。認知症の高齢者が、日々の生活を生き生きと生きるために、援助者は、認知症の高齢者を知り、関わり、学ぶことが大切である。

このような認知症高齢者のケアについて、知識を深め、実地踏査や視聴覚教材の理解を通して、学びを深める。また認知症高齢者を取りまく今後の課題についても学び、保健・医療・福祉が連携協働する視点も踏まえて、看護が果たす役割について考える。

一般目標

- 1 認知症高齢者が、体験している世界の理解を深める。
- 2 認知症高齢者のケアについて、それが基づく考えとともにケアの実際の方法も理解する。
- 3 認知症の高齢者を取りまく課題について、保健・医療・福祉の視点から明らかにし、文献、視聴覚教材、実地踏査を通して理解を深め、今後実習や研究を通して、探求してゆくべき内容を明らかにする。

行動目標

- 1 認知症高齢者の体験や特徴を説明できる。
- 2 認知症高齢者のケアとその基となる考えを説明できる。
- 3 認知症高齢者の課題について説明する。
- 4 認知症高齢者のケアにおける今後の自分の課題について説明できる。

授業内容

3年次 前期・自由 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
1. ガイダンス	1	講義内容の概要	学習目的・目標、評価、方法など	大 森
2. 対象理解	2	体験の理解	認知症の高齢者の体験世界について、DVD、体験	西 村 ()
		体験の理解のまとめ	記、研究論文をまとめ、分析して理解する。	
3. 援助論	3	病気の理解	DVD、本、研究論文よりまとめる。	大 森
		体験と病気をつなげる	以上の事柄をつなげて考え発表する。	
	4	認知症ケア	バリデーションや回想法などの認知症ケアの基となる考えを理解する。	
4. 課題の明確化	5	認知症ケアの方法	さまざまな認知症ケアの具体的な方法を理解し、基づいている考えとつなげて考える。	西 村 ()
	6	直面している課題	認知症高齢者が直面している課題を調べ、まとめる。	大 森 西 村 ()
	7	課題を明確化する	自分の関わる問題として、認知症高齢者が直面している課題をさらに明確化する。	

学習方法

講義、グループワーク、実地踏査、クラス討論などにより進める。認知症高齢者への関心とケアに対する疑問を持ってこの授業を受けることが望ましい。

評価方法

レポート、出席状況、学習態度により評価する。学生がこの授業を受けた目的に応じた到達度を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

参考書

1. 六角僚子：認知症ケアの考え方と技術、医学書院、2005
2. 水野裕：実践パーソン・センタード・ケア、ワールドプランニング、2008
3. 篠崎人理：ケアワーカーが語るバリデーション、筒井書房、2006
4. 伊藤雅治、井部俊子：特別養護老人ホーム看護実践ハンドブック－尊厳ある生活を支えるために、中央法規出版、2006
5. 鳥海房枝：高齢者施設における看護師の役割－医療と介護を連携する統合力、雲母書房、2007
6. グループホームのケアを考える会：事例を交えて学ぶ認知症高齢者グループホーム Q&A、中央法規出版、2007
7. 三好春樹：老人の生活ケア、医学書院

オフィスアワー

随 時

老年生活援助実習

担当教員

教	授	大 森 美津子
助	教	西 村 美 穂
助	教	()

授業概要

高齢者福祉施設での生活の援助を通して、人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、老化や健康障害による問題を把握し、対象の価値観を尊重した対応を習得するとともに高齢者を取りまく保健・医療・福祉に関する諸制度・諸資源の役割と連携について学ぶ。

一般目標

1. 老年期にある人々の特徴を理解し、生活の質の向上を目指した看護や介護の必要性を判断し、老年看護の基本的能力を習得する。
2. 老年期にある人々の保健、医療、福祉の連携について理解する。

行動目標

1. 疾病や治療の概略を説明できる。
2. 対象者の発達課題の特性について述べることができる。
3. 老化現象が対象者に及ぼしている影響について説明できる。
4. 高齢者の施設での生活状況について述べることができる。
5. 施設で生活したり、通所介護サービスに通う高齢者の看護に関わる問題について説明できる。
6. 施設で生活したり、通所介護サービスに通う高齢者を抱える家族の問題について述べることができる。
7. 対象者の特性を踏まえて、その個別性を尊重した生活の援助について考えることができる。
8. 高齢者の家族の感染予防と安全対策について述べることができる。
9. 高齢者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。
10. 通所介護サービスの意義と役割について述べることができる。
11. 施設・行政・病院・地域ボランティアとの連携を述べることができる。
12. 施設(介護老人保健施設, 特別養護老人ホームなど)の役割や機能について述べることができる。
13. 老年看護、老年観について自己の考えを述べることができる。

実習内容

詳細については「看護学実習の手引き 老年生活援助実習」を参照。

授業内容

4年次 必修 2単位 (90時間)

学習方法

詳細については「看護学実習の手引き 老年生活援助実習」を参照。

評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

1. 川島みどり監訳：ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
2. 久間圭子訳：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 生活行為に基づくイギリスの看護、日本看護協会出版会、2006
3. 久間圭子：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程、メディカ出版、2007
4. 伊藤雅治、井部俊子：特別養護老人ホーム看護実践ハンドブックー尊厳ある生活を支えるために、中央法規出版、2006
5. 鳥海房枝：高齢者施設における看護師の役割ー医療と介護を連携する統合力、雲母書房、2007
6. 六角僚子：認知症ケアの考え方と技術、医学書院、2005
7. 山田律子、井出訓：老年看護過程、医学書院、2008
8. 水野裕：実践パーソン・センタード・ケア、ワールドプランニング、2008
9. 篠崎人理：ケアワーカーが語るバリデーション、筒井書房、2006
10. 大淵律子、堀内ふき、金子昌子編：老年看護学 老年看護の実践、メディカ出版、2011
11. 折茂肇監修、青木民子他編：高齢者看護セミナー 高齢者の特徴と日常生活看護のポイント、メジカルレビュー、2003
12. 堀内ふき、大淵律子、金子昌子編：老年看護学 高齢者の健康と障害、メディカ出版、2011
13. グループホームのケアを考える会：事例を交えて学ぶ認知症高齢者グループホーム Q&A、中央法規出版、2007
14. 三好春樹：老人の生活ケア、医学書院
その他資料を別に示す

オフィスアワー

後期・火曜日 16時20分～17時20分

老年看護学実習

担当教員

教授 大森 美津子
助教 西村 美穂
助教 ()

授業概要

老年看護学実習は、人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、老化や健康障害による問題を把握し、対象となる人の価値観を尊重した対応を習得することを目的とする。

本実習では、病院で生活をする高齢者やその家族の特徴や、健康レベルを把握し、入院・退院などに伴う環境・状況の変化に適応することを助ける援助を実践する。

一般目標

1. 疾病や機能障害のある高齢者とその家族を、発達段階、老化現象、対象者の個別性等も踏まえて総合的に理解する。
2. 高齢者とその家族の対象理解に基づいた問題を明らかにし、適応を促し、継続看護を踏まえた援助を行う。

行動目標

1. 高齢者の発達段階や老化現象の影響について述べることができる。
2. 高齢者の疾病や治療の概略を説明できる。
3. 入院時および入院後の高齢者に起こる問題を述べることができる。
4. 入院時および入院後の高齢者やその家族への援助について述べることができる。
5. 退院後の高齢者やその家族の状況について述べることができる。
6. 退院時の高齢者やその家族への援助について述べることができる。
7. 高齢者やその家族の特性を踏まえて、その個別性を尊重した援助について考えることができる。
8. 入院している高齢者やその家族の感染予防と安全対策について述べることができる。
9. 高齢者に対する医療・保健・福祉の連携について述べることができる。
10. 対象者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。
11. 老年観について述べることができる。

実習内容

詳細については、「看護学実習の手引き 老年看護学実習」を参照。

授業内容

3年次 必修 2単位 (90時間)

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き 老年看護学実習」を参照。

評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

1. 川島みどり監訳：ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
2. 久間圭子訳：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 生活行為に基づくイギリスの看護、日本看護協会出版会、2006
3. 久間圭子：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程、メディカ出版、2007
4. 介護保険研究会：新しい介護保険制度Q & A 平成17年改正法の要点、中央法規出版、2006
5. 山崎摩耶：新版 ケアマネジャーバイブル、日本看護協会出版会、2006
その他、既習の看護学及び関連分野の教科書・推薦参考書。

オフィスアワー

前期・火曜日 16時20分～17時20分

07 小児看護学

小児看護学概論

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子

授業概要

小児看護の目的は、小児とその家族の幸福と健康を実現できるよう援助することである。小児看護を広汎な視野で理解できるよう、授業内容は地球環境や人類の歴史を包括的に組み込み学際的に構成している。またライフサイクルを通じた健康の実現を理解するために、小児の成長・発達を遺伝素因と環境要因の交絡影響を含めて教授し、各発達段階において心身ともに健やかに発達するための成育看護について学びを深める。

一般目標

1. 小児看護の特質、理念と目標、役割について学際的に学習する。
2. 小児期の成長・発達やライフサイクルにおける遺伝素因や環境要因の影響について学習し、健康実現に関する包括的な取り組みの重要性について考究する。
3. 小児の形態の成長や、生理的、心理・社会的発達過程について学習する。
4. 小児への健康教育・ヘルスプロモーションの概念と施策について学ぶ。
5. 子どもの権利条約の成立背景、子どもの権利条約が小児の健全育成に果たす役割について学習し、小児の最善の利益にかなう医療・看護について考究する。

行動目標

1. 小児看護の特質、理念と目標、役割について説明できる。
2. 小児期の成長・発達の特徴とその過程を説明できる。
3. 小児期の成長・発達の評価方法を説明できる。
5. 小児への健康教育・ヘルスプロモーションについて説明できる。
6. 小児の権利とその擁護について説明できる。
7. 小児の発達段階における遊びの種類と意味について説明できる。
8. 小児の愛着形成過程を母子相互作用の観点から説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
小児の健康	1	小児の権利と健康	生態学的健康と子どもの権利条約	祖父江
小児看護	2	小児看護の特徴	小児看護・小児保健の特徴:少子化とヘルスプロモーション	祖父江
小児の成長	3	形態の成長と影響因子	最適期、遺伝素因と環境要因、成熟と学習	祖父江
小児の発達 I	4	生理機能の発達	呼吸循環系、血液系、免疫系、脳神経系の発達	祖父江
小児の発達 II	5	運動機能、認知機能の発達	運動機能、言語機能、認知発達	祖父江
遊び	6	小児の遊びの特徴と意味	小児の発達と遊び、小児の遊びの意味	祖父江
愛着	7	愛着理論	小児の愛着、カンガルーケア	祖父江
統合		小児と脳死移植	演習	祖父江

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

オフィスアワー中野綾美.小児の発達と看護. 第3版, メディカ出版, 2010.

その他資料 (適宜配布する)

参考書

奈良間美保 . 小児看護学 1-2. 第10版, 医学書院, 2003, (系統看護学講座専門, 22-23).

その他資料

オフィスアワー

随時

小 児 疾 病 論

担当教員

教 授 伊 藤 進
准 教 授 磯 部 健 一
講 師 日 下 隆 岡 田 仁
助 教 小 西 行 彦 岩 瀬 孝 志
安 田 真 之 小 谷 野 耕 佑

授業概要

小児科学は、胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を扱う。病気に罹患した小児だけを対象にするのではなく、疾病予防等により国の将来を担う心身ともに健全な成人を育成することを目的としている。

近年、社会環境の変化、とくに出生率低下や少子化など小児を取り巻く社会構造・環境の変化に伴い小児疾病構造にも大きな変化が現れている。特に母乳保育を軸とする母子相互作用の意義を理解する必要がある。

また、小児期には、各臓器や精神の成長・発達の時期に一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化をもたらす **critical period**（臨界期）があり、小児の疾病を取り扱う時の基本となっている。成長とは細胞の増殖を発達機能の分化をいい、あわせて発育という。このため、おのおのの時期の生理的、心理的等の発育を理解したうえで、疾病に罹患した小児に接することが重要である。小児疾患と接する際には、小児のおかれている環境をよく理解して、将来の発育にどのような影響をおよぼすかについても考えなければならない。さらに、疾患の予防方法の有無などについても知ることが重要である。

講義においては、出生前小児科学を初めとして発達的变化を時間軸として、感染症、神経、腎、内分泌、呼吸器、循環器、血液腫瘍、免疫アレルギー、消化器疾患などの病態生理、臨床症状、治療を中心に小児疾病を解説する。

一般目標

- 1) 胎生期より新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の正常の成長、発達および生理を理解する。
- 2) 母子相互作用、予防小児科（事故、成人病、心身症）、予防接種、乳児健診、学校保健などの社会小児科学を理解する。
- 3) 小児に比較的良好に見られる疾病の病態生理、臨床症状、治療を理解する。

行動目標

1. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の特徴を述べる。
2. 発熱やけいれんなど小児によく見られる症状の介助や処置の方法を述べる。
3. 小児に比較的良好に見られる疾病の臨床症状を列挙する。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者
小児疾病論	1	総論	育児学の原点	伊藤
	2	各論	社会小児科学、出生前小児科学・先天性代謝異常、新生児疾患	安田
	3	各論	成長・発達および生理、栄養および栄養障害代謝性疾患、内分泌疾患	岩瀬
	4	各論	呼吸器疾患、消化器疾患	安田
	5	各論	生体防御総論（免疫・アレルギー）、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、感染症	岡田
	6	各論	循環器疾患、小児保健、予防医学、母子手帳	小谷野
	7	各論	血液および造血器疾患、腫瘍、腎・泌尿器疾患	岡田
	8	各論	神経系疾患・小児神経症	小西
	9	試験		

学習方法

講義時間が限られているため、講義への参加は必須で、関連した事項を教科書や図書館などを利用して復習や自己学習を行うことが重要である。

評価方法

学期末（一般目標・行動目標及び発育について再確認すること）に試験を行う。
場合により、レポートの評価を行う。

教科書及び参考文献

- 原寿郎編. 新生児・小児疾患. 第2版, 中山書店, 2005, (看護のための最新医学講座14)
- 豊原清臣編. 開業医の外来小児科学. 改訂5版, 南江堂, 2007.
- 小川雄之亮編. 新生児学. 第2版, メディカ出版, 2000.
- 飯沼一字 他編. 小児科学・新生児学テキスト. 第5版, 診断と治療社, 2007.
- Behrman, Richard E. 他. ネルソン小児科学. 原著第17版, エルゼビア・ジャパン, 2005.
原タイトル: Nelson textbook of pediatrics.

主要研究テーマ

新生児学

- ・ビリルビン代謝の研究
- ・新生児脳のエネルギー代謝および脳循環の研究

発達薬理学

小児保健対象論

担当教員

教 授 ()

准 教 授 谷 本 公 重

助 教 ()

授業概要

小児保健対象論では、小児看護学概論での学びと関連づけながら小児の成長発達や家族のライフステージに基づいた、健康な小児や家族の生活について理解する。また、さまざまな成長発達段階および健康状態にある小児と家族のアセスメント法や、小児看護の基礎的知識と援助法、小児期の特徴的な健康障害と看護方法について学び、小児保健や小児看護に関する理解を深める。なお、常にその根底に看護職者としての倫理の原則について意識して学習する事が求められる。

一般目標

1. 小児の基本的生活習慣の獲得過程を成長・発達過程との関連で把握し、その援助法（躰）を学習する。
2. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメントについて学習する。
3. 小児看護の基本技術について学習する。
4. 小児とその家族に対する安全・安楽・安心なケアの実施方法を学習する。
5. 小児疾患の主要症状を小児の形態や機能から学習する。

行動目標

1. 小児の基本的生活習慣と援助法（躰）を発達段階との関連で説明でき、事故予防や安全への配慮について説明できる。
2. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメントについて説明できる。
3. 小児の生活援助に必要な看護技術において、安全安楽やその留意点について説明することができ、その技術を習得することができる。
4. 小児の薬物療法の特徴と起こり得るノンコンプライアンス状況について説明でき、各薬物療法における適切な援助技術を習得できる。
5. 小児の主要症状に応じた子どもと家族の反応を説明でき、適切な看護について説明できる。
6. 小児とその家族の最善の利益を尊重した小児看護技術について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
基本的生活習慣	1	基本的生活習慣の獲得過程	基本的生活習慣獲得(躰)の基本、トイレトレーニング	()
	2		睡眠、離乳、清潔(入浴、歯磨き)、衣服の着脱	()
こどものケアに必要な看護技術	3	こどもの健康状態を把握する技術	身体計測、バイタルサイン測定、ヘルスヒストリー	谷本
	4	コミュニケーション技術	認知発達、プレパレーション	()
	5	生活援助に必要な看護技術	食事介助、経管栄養、排泄の援助、浣腸	谷本
	6	安全・安楽のための環境整備	安静、体動制限、環境整備	谷本
	7	呼吸管理のための看護技術	酸素吸入、喀痰咯出法(吸引・ネブライザー)、パルスオキシメーター	谷本
	8	薬物療法を受ける子どもの援助技術	小児の薬物療法、ノンコンプライアンス	谷本
	9	検査・処置を受ける子どもの援助技術	採血・採尿	谷本
症状と看護	10	小児の救急看護	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ等)	谷本
	11	水・電解質バランス等	水・電解質バランスの成長に伴う変化等	谷本
	12		必要水分量、水分出納	谷本
入院生活適応への援助	13		発熱、脱水、浮腫、嘔吐、下痢	谷本
	14		外来、病棟、入院への反応、病気への反応	()
統合	15		課題学習とまとめ	() 谷本

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護学概論、南江堂

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護技術、南江堂

その他資料(適宜配布、紹介する)

参考書

石黒綾子、浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図、医学書院

竹村節子、横井和美監修：実習アセスメント実践ノート、医学芸術社

オフィスアワー

随時

小児援助論

担当教員

教 授 ()
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 ()

授業概要

本科目では、成長・発達過程にあるこどもとその家族が健康障害や入院によって受ける影響とその反応を理解する。そして、その子どもが自分の身体的・心理的・社会的な可能性を最大限発揮し、よりよい成長・発達をとげるように、加えて、その家族が子どもへの養育力を十分に働かせ、対処能力を発揮できるよう援助するための知識・方法・態度を学ぶ。本授業では看護職者としての倫理原則を意識して学習する事が求められる。

一般目標

1. 小児に特有な疾患に罹患した小児の特徴や、小児とその家族への看護ケアについて、発達段階を踏まえて学習する。
2. 検査・手術を受ける小児とその家族の看護、痛みの発生機序と最新の緩和ケアについて学び、プレパレーションや緩和ケアの重要性を理解する。
3. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題の達成やセルフケア能力、QOL を高める援助法を学習し、家族看護について理解する。
4. 小児とその家族の入院による反応や対処規制、危機理論について理解を深め、看護について学習する。
5. 発達段階に基づく小児の死の理解、ターミナル期の小児や家族の反応について理解を深め、ターミナル期の看護やグリーフケアについて学習する。
6. 変化する社会の中での小児看護の課題やあり方について学習する。

行動目標

1. 疾患や障害をもつ小児の看護について、状況別の重要点を説明できる。
2. 入院による小児やその家族の反応や対処規制、入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について説明でき、保健・医療、教育、福祉等の連携について意見を述べることができる。
3. 検査・手術を受ける小児とその家族の反応について説明できる。
4. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題やQOL、セルフケアの重要性について説明できる。
5. 小児がもつ死の概念の発達の变化を説明できる。
6. グリーフワーク、グリーフケアについて説明できる。
7. 発達障害の種類と特徴を理解し、発達障害のある小児と家族の看護について説明できる。
8. 疼痛の発生機序に基づいて、緩和ケアやプレパレーションの重要性を説明できる。
9. 災害の種類と各災害期の小児の特徴を理解し、ストレスを呈する子どもと家族への基本的な看護について述べるができる。

9. 小児看護について自己の考えを述べることができる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
さまざまな状況にある子どもと家族への看護	1	入院生活への適応の援助	小児の反応と対処、親の反応と対処、看護ケア	()
	2	検査・処置・手術を受ける小児の看護	小児の手術を要する健康障害と手術の時期、小児の安全・安楽への看護	()
	3	急性期にある子どもと家族の特徴と看護	小児の感染症、川崎病	谷 本
	4	慢性期にある子どもと家族の特徴と看護	小児特定慢性疾患、親の心理過程、家族看護	谷 本 谷 本
	5	ターミナル期にある子どもと家族の特徴と看護	発達段階における死の概念、ターミナル期の子どもの反応とその家族、グリーフワークとグリーフケア	谷 本
	6	小児がんの子どもと家族への看護	小児がんの特徴とアセスメント	谷 本
	7		化学療法中の管理と子どもと家族への看護	谷 本
	8	先天的な問題をもつ子どもと家族の特徴と看護	先天性疾患の特徴と家族の反応、マススクリーニング	谷 本
	9	低出生体重児の看護	低出生体重児の特徴、看護	谷 本
	10	救急における小児と家族の看護	救急処置が必要な小児と家族への看護	谷 本
	11	こころのケアが必要な子どもと家族への看護	発達障害のある小児と家族の現状と対応	()
	12	疼痛への緩和ケア	疼痛の機序、発達段階による疼痛のアセスメント、緩和ケア	()
	13	災害時の子どもと家族への援助	災害各期における子どもと家族への看護	()
	14	これからの小児看護	小児看護と専門看護師、小児看護と研究	()
統 合	15		課題学習とまとめ	() 谷 本

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護学概論、南江堂

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護技術、南江堂

その他資料（適宜配布、紹介する）

参考書

石黒綾子、浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院

竹村節子、横井和美監修：実習アセスメント実践ノート、医学芸術社

オフィスアワー

随 時

子どもを持つ家族の看護

本年度休講

小児看護学実習

担当教員

教 授 ()
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 ()

授業概要

本実習は、小児と家族への基礎的看護実践能力の育成を目的に、健康障害をもつ小児とその家族に対する現在および将来の健康問題を、科学的根拠に基づいて包括的にアセスメントし看護診断できる能力を養う。さらに小児とその家族の発達段階や健康レベルに応じた適切な看護を計画・実践・評価できる基礎的知識・技術・態度を育成する。また、医療チームの一員として他職種と連携できるコミュニケーション能力や人間関係形成能力を育成する。以上を通して、自己の小児看護に関する考えを深め、取り組むべき課題について考察する。

一般目標

1. 小児とその家族の健康障害による現在および将来の健康問題のアセスメントと看護診断について学ぶ。
2. 小児とその家族の健康障害に対する看護介入を計画・実践・評価する方法について学ぶ。
3. 医療チームの一員としての小児看護の役割を理解し、看護活動に協働する態度を習得する。

行動目標

1. 全体の行動
小児病棟・外来において行われる患児と家族への看護を通して、以下の目標を達成する。
 - 1) 小児とその家族がおかれている状況を理解し、最善の利益を守る関わりを理解する。
 - 2) 小児病棟と外来の役割と機能および看護活動の実際を理解する。
 - 3) 健康障害を有する小児と家族の療養上の問題を理解し、小児と家族の発達課題の達成を促進するための看護の役割と援助活動を学ぶ。
 - 4) 小児病棟において行われる小児看護技術の実際を学び、基礎的知識と応用技術の統合を図る。
 - 5) 小児看護における感染防止の必要性を理解し、実践できる。
 - 6) 小児の安全を守るために事故防止のための援助が実践できる。
 - 7) 医療チームの一員として、協働して看護活動が実践できる。
2. アセスメント
 - 1) 小児の成長発達を観察し、アセスメントできる。
 - 2) 小児の健康障害の状況を疾患の病態生理、症状、治療方針から理解し、現在の問題および予測される問題をアセスメントできる。

- 3) 小児の注意すべき症状を観察し、アセスメントできる。
 - 4) 家族が抱えている問題を総合的に理解し、援助すべき問題をアセスメントできる。
 - 5) 小児の健康問題を適切に看護診断できる。
 - 6) 看護診断に基づいて適切な看護計画を立案できる。
3. 実践
- 1) 小児の発達段階や心理的特徴を理解し、その患児に応じたかかわりやコミュニケーションを工夫し、発達を促進するための適切な援助ができる。
 - 2) 立案した看護計画に基づいて安全や安楽性、プライバシーをふまえ、看護を実践できる。
 - 3) 小児の QOL やセルフケア能力を考慮した日常生活の援助ができる。
 - 4) 小児に適した遊びや生活指導を計画・実践できる。
4. 評価
- 1) 実践した看護を患児および家族の反応に基づき評価できる。
 - 2) 看護目標の達成度を評価し、看護計画を修正できる。
 - 3) 実習での学びやこれまでの知識を統合して、小児看護に対する自己の考えを述べることができる。
5. 倫理的配慮
- 1) 小児や家族に対する倫理的配慮に基づいた看護が実践できる。
 - 2) 小児と家族の個人情報保護のための行動ができる。

授業内容

3・4年次 必修 2単位 (90時間)

実習方法

詳細については、「小児看護学実習 II の手引き」を参照。

学習方法

詳細については、「小児看護学実習 II の手引き」を参照。

評価方法

評価は実習到達度、記録類、態度・出席日数等により総合的に判断して評価する。

教科書及び参考文献

小児看護学関連で使用した全ての資料、教科書及び参考文献

08 母性看護学

母性看護学概論

担当教員

教 授 内 藤 直 子

授業概要

本科目の目的は、学生が、将来看護職やその他の健康関連職として活躍することを目指して、母性看護を実践するための基礎知識を得たり、母性看護学の位置づけや展望を概観でき、倫理的に、女性のメンタルヘルスケアに貢献できる母性看護観が培えることである。

母性看護の対象は、リプロダクティブヘルスの視座に依拠して、狭義では妊娠・分娩・産褥期というが、広義には女性の一生期間を通して子を生み育てる機能に関する健康問題全般を言う。

学生は、女性のライフサイクルは、生殖機能に関する大きな心身の変化を生じるが、この間を安全安楽に、かつ、子育ての準備を十分に整えて、セルフケアできるよう、各期に適した保健指導や異常の早期発見と看護介入が実施できるまで知識を統合できる。

一般目標

学生は、人間のライフサイクルの中で生殖に関与する期間のうち、妊娠・分娩・産褥・新生児各期を中心に、その基礎と健康問題のアセスメントおよび看護の計画・実施・評価について、**wellness**型思考で、看護実践できるために、方法論を習得する。

また、男子学生も、女子学生もジェンダーフリーの視点から、性科学と性哲学を学び自己の性ホルモンの変化について理解し、適切な行動ができる基礎知識が学べる。

行動目標

1. 自らのリプロダクティブヘルスでの健康問題に対応する女性の行動や適応を理解するための基礎的知識を応用する。
2. 学生は、ジェンダーフリーの視点から、性科学と性哲学を学び自己の性ホルモンの変化について理解し、適切な行動ができる基礎知識が学べる。
3. 健康上の問題をもつ女性を看護するために必要なフィジカル面やメンタル面の基礎的な知識を述べる。
4. 看護上の判断に基づいて、看護を計画し、介入し、評価する思考過程に寄与する。
5. 母性保健、思春期の保健、不妊症、家族計画、障害児ケア、地域母子保健サービス、母子保健の国際化、母子衛生統計などを調べる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	母性概念 リプロダクティブ・ヘルス	1. リプロダクティブ・ヘルス/バースライツ 2. 母性の発達課題と倫理 3. 母性とアンドロジニーとジェンダー	内藤
各論	2	性周期と生殖機能のメカニズム	1. 性周期とホルモン動態 2. 家族計画と基礎体温測定 3. 人工妊娠中絶	内藤
	3	母性看護に関連する生命倫理の今日的課題	1. 歴史的な生命倫理観の変遷 2. 現行法の生殖医療と生命倫理 3. 生殖機能 不妊と受胎	内藤
	4	母子と子どもを支える体制・文化	1. 男女共同参加社会と女性のライフスタイル 2. 地域母子保健の公的資源 3. 女性の健康と文化 4. 国際化時代の多様なお産文化	内藤
	5	女性のライフサイクルにおける看護母性の自己決定能力	課題によるグループ討議 1. 思春期にある女性と家族の看護 2. 更年期にある女性と家族の看護 3. 女性のメンタルヘルスケアと母性看護 4. 地域の子育て支援・在日外国人のケア	内藤
	6	今日的なトピックス	1. 働く女性の健康と母性保護 2. 飲酒・タバコと女性の健康 3. 妊娠・出産と薬剤 4. 母乳育児	内藤
	7	周産期看護の課題学習	1. 性行動の自己決定能力と限界や今後の課題 2. 女性の健康問題・エイズ 3. 母性の看護過程展開 4. 課題レポート作成・まとめ	内藤
	8	評価	1. 課題レポート提出・評価	内藤

学習方法

1. 一斉講義・グループ討議・レポート等で学習を展開する。
2. 適時、資料やビデオ教材を活用する。

評価方法

1. 学習への意欲と問題意識
2. レポートの提出状況
3. その他を総合して評価

教科書及び参考文献

テキスト必携

1. 村本淳子、高橋真理:ウイメンズヘルスナーシング概論、ヌーヴィルヒロカワ、2007
2. 高橋真理、村本淳子:女性のライフサイクルとナーシング、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011
3. 内藤直子他:あっ、そうか！母性小児看護過程8レポート、初版、ふくろう出版、2011、4月発行予定

参考図書

1. 末原紀美代:正常産のケア指針、メディカ出版、2002
2. 日本DV防止・情報センター:ドメステック・バイオレンスへの視点、朱鷺書房、2001
3. 我妻・早乙女他訳:避妊ガイドブックー避妊の医療と相談援助・性教育のために、文光堂、2003
4. 北村邦夫:リプロダクティブ・ヘルス/ライター性と生殖に関する健康と権利ー、メディカ出版、1998

5. 「助産学講座」地域母子保健[7]、医学書院、2006

オフィスアワー

講義日の16:10～17:10までに、教員研究室までお越しください。

母性疾病論

担当教員

教授	内藤直子
非常勤講師	秦 幸吉
教授	秦 利之

授業概要

母性の医学とは、広義に解釈すれば女性の医学といかえることもできる。女性はその life cycle のなかで、胎生期における性の分化にはじまり、幼年期における母性の芽生え、思春期における女性としての心とからだの発育・発達、性成熟期における性と生殖および家族のケア、そして更年期・老年期にかけて加齢と老化など、内分泌的变化を基盤として、心とからだの様々な変化に遭遇する。その間、遺伝的要因や環境、家族や社会との関連で、女性特有の様々な疾患を生じうる。これら女性特有の疾患を母性の視点から、その背景・病態を理解することにより、将来、適切な助言や援助が行えるような授業を実施する。

一般目標

1. 女性の life cycle の各期に遭遇する疾患とその背景を理解する。
2. 母性の発育・発達の異常を理解する。
3. 母性の疾患に対し、適切な助言や援助ができる。
4. 新しい生命をはぐくむ母性の問題を通じて、生命倫理の問題に積極的に発言できる。
5. 周産期女性のメンタルヘルシケアを理解する。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
周産期の生理	1	女性の性機能	周産期医学概論、女性の性機能（性分化、排卵、受精、着床）	秦幸吉
	2	正常妊娠 正常分娩	正常妊娠、正常分娩（分娩の要素、分娩の過程、その他）	秦幸吉
周産期の疾病	3	異常妊娠	異常妊娠（切迫早産、子宮外妊娠、多胎妊娠など）	秦幸吉
	4	異常妊娠	異常妊娠（妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離など）	秦幸吉
	5	異常分娩	異常分娩（骨盤位、回旋異常、その他）	秦幸吉
更年期女性の 疾病	6	月経異常	月経異常、不妊症	秦幸吉
	7	更年期	更年期障害	秦幸吉
統括	8	女性のメンタルケア	女性のメンタルヘルスケア （妊娠期・分娩期・産褥期・育児期・更年期）	内藤直子
	9	まとめ	試験 評価	秦幸吉 内藤直子

学習方法

授業は講義で行うが、チーム学習（6人組）もとり入れる予定である。

評価方法

1. 発問に対する応答性 2. レポートの内容 3. 出席状況 4. 学習態度 5. 筆記試験

教科書及び参考文献

必携図書

1. 森恵美. 母性看護学各論 . 第11版, 医学書院, 2008, (系統看護学講座専門, 25).

参考文献

1. 岡村州博. 産科疾患. 第2版, 中山書店, 2005, (看護のための最新医学講座, 15).
 2. 神崎秀陽. 婦人科疾患. 第2版, 中山書店, 2006, (看護のための最新医学講座, 16).
 3. 竹谷雄二. リプロダクティブヘルス. 中山書店, 2001, (新女性医学大系, 11).

母性保健対象論

担当教員

教授	内藤直子
准教授	()
助教	片山理恵

授業概要

母性援助論は子孫を創造し、育み、健やかに成長発達させる人間の営みに着目して、新しい家族の誕生期にある人々が、様々な変化を遂げて、健康生活を営み発展させるという視点から、女性の生涯の中でも特に発達危機に陥りやすい周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性および新生児と、その家族の特性の理解と援助方法について学ぶ。具体的には妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・促進、および異常を予防できるよう援助するために必要な基本的知識を学ぶ。

一般目標

1. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につけるために、周産期にある女性および新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解できるようになる。
2. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントする能力を活用してマタニティ診断し、看護実践を支える基本技術と、日常生活への適応を促進する援助技法、さらに、ハイリスク状況となった人々への援助技法について理解できるようになる。
3. 対象への良い援助を行うために、妊娠期および分娩期にある女性のロイ看護理論の展開と、クリティカルな援助技法について理解できるようになる。
4. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できるようになる。

行動目標

1. 妊娠の成立と胎児の発育過程を述べることができるようになる。
2. 妊娠経過に伴う生理的変化、心理・社会的健康を述べるができるようになる。
3. 妊娠期にある女性への基本的な援助技法が理解できるようになる。
4. 分娩経過における生理的変化、心理・社会的健康を述べるができるようになる。
5. 分娩期にある女性への基本的な援助技法が理解できるようになる。
6. 妊娠の経過に影響を及ぼす因子を述べるができるようになる。
7. 妊娠期にある女性、及び家族の反応を述べるができるようになる。
8. 周産期にある母性のロイ看護過程が理解できるようになる。
9. 母性看護学の演習をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
妊娠期の援助	1	周産期看護 援助論概論	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2. 周産期看護とは 3. 科目のアイズブレイク 4. 援助に有用な看護理論 1) Wellness 2) Roy 自己概念 3) セルフケア 4) エンパワーメント	内 藤
正常な妊娠	2	妊娠期看護アセスメント	1. 正常な妊娠の看護アセスメント 2. 正常な妊婦の看護ケア	内 藤
	3	妊娠初期・中期の看護アセスメントと妊婦の援助	1. 妊娠初期の看護アセスメント 2. 妊娠初期の看護ケア 3. 妊娠中期の看護アセスメント 4. 妊娠中期の看護ケア 5. 妊娠期の食事と栄養	内 藤
	4	妊娠後期の看護アセスメントと妊婦の援助	1. 妊娠後期の看護アセスメント 2. 妊娠後期の看護ケア 3. 妊婦のリプロダクティブ・ヘルス	内 藤
	5	妊娠期メンタルヘルスケア	4. 妊娠期のメンタルヘルスケア 1) 夫立ち会い分娩 2) バースプラン	内 藤
		正常な妊婦のケア	1. 妊婦の基本的欲求とその充足に対する援助 1) 日常生活のセルフケア 2) マタニティスイミング・マタティビックス 3) 妊娠期の性生活 2. 妊産婦に必要な届出と適用される母子保健施策 1) 健康診査の受診時間の確保 2) 就労妊婦の職場配置転換とセルフケア 3) 就労妊婦の育児休業の活用と必要な書類	
ハイリスク妊娠	6	妊娠期ハイリスク妊婦の援助	1. 妊娠期のハイリスクケア-その1 1) 妊娠合併症の看護ケア 2) 流産時の看護ケア 3) 早産時の看護ケア	内 藤
	7		2. 妊娠期のハイリスクケア-その2 1) 常位胎盤早期剥離の看護ケア 2) 前置胎盤時の看護ケア 3) 妊娠高血圧症候群を伴う妊婦の看護ケア	内 藤
正常な妊娠期の看護援助	8	妊婦の基本的な援助技術	1. 妊婦の基本的な援助技術 1) 妊婦健診と母子健康手帳の活用 2) 妊婦のアセスメント；検尿、血圧、浮腫 3) 胎児のアセスメントと胎児心音聴取	内 藤 片 山 ()

	9	妊婦の基本的な援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦の基本的な援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) レオポルド触診法と腹囲計測 2) 妊婦の日常ケアと保健指導 3) 妊婦体験ジャケット 	内藤 片山 ()
正常な分娩	10	正常な分娩の看護アセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な分娩の看護アセスメント 2. 正常な分娩の基礎的理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎位・胎向 2) 分娩の3要素 3) 分娩機転 3. 産婦の健康状態のアセスメント 4. 胎児の健康状態のアセスメント 	片山
正常な分娩期の看護援助	11	正常な分娩の産婦の援助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な分娩の看護ケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦の基本的要求へのケア 2) ラマーズ呼吸法 3) 腹部マッサージ法 	片山
	12	産婦アセスメントとケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産婦アセスメントの基本的技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩機転 2) 分娩の1期と2期のケア 3) 分娩の3期と4期のケア 	片山 内藤 ()
	13	産婦メンタルヘルスケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産婦のメンタルヘルスケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦のメンタルヘルスケア 2) 産痛緩和・感覚の閾値 3) ゲートコントロール法 	内藤
ハイリスク分娩	14	分娩期ハイリスク産婦の看護アセスメントとケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期ハイリスクの看護アセスメントとケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 遷延分娩時の看護ケア 2) 切迫早産と胎児ジストレスの看護ケア 3) 会陰切開と会陰裂傷時の看護ケア 	()
	15		<ol style="list-style-type: none"> 2. 分娩期ハイリスクの看護アセスメントとケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 出血時の看護アセスメントと看護ケア 2) 帝王切開の産婦の看護ケア 3) 多胎児出産時の看護ケア 4) 低出生体重児の出産直後の母親の看護ケア 	()
まとめ・評価	16	試験		内藤 片山

学習方法

- 1) 講義、デモンストレーション、PBLによるスモールグループ学習など学生間の討議を導入しながら展開する。学生が内在化している自身の母性観、父性観を確認しながら、対象を共感的に理解する視点を醸成する。特に臨床看護実践に必要な基本的技術の習得には、個別指導を導入する。
- 2) 教材：ビデオ教材、保健指導媒体

評価方法

- 1) 発問に対する応答性
- 2) レポートの内容
- 3) 出席状況
- 4) 学習態度
- 5) 筆記試験などの総合評価

教科書及び参考文献

テキスト必携

1. 村本淳子、高橋真理：周産期ナーシング、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
2. 高橋真理、村本淳子：女性のライフサイクルとナーシング、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
3. 村本淳子、高橋真理：ウイメンズヘルスナーシング概論、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
4. 日本助産診断・実践研究会編著：マタニティ診断ガイドブック第3版、医学書院、2010.
5. 森 恵美、高橋真理他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2008.
6. 内藤直子 他：あっ、そうか！母性小児看護過程8レポート、初版、ふくろう出版、2011、4月発行予定.

参考図書

1. 小田正枝：ロイ適応モデル看護過程と記録の実際、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2003.
 2. 根津八紘：乳房管理学（改訂）、諏訪メディカルサービス、1997.
 3. 榎引美代子：カラー写真で学ぶ周産期の看護技術、第2版、医歯薬出版、2007.
 4. 榎引美代子：カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア、医歯薬出版、2001
- その他、適時、提示する

オフィスアワー

毎回授業終了後 ～ 17：30 までオフィスアワーとしますので、各教員研究室へお越しください。

母性援助論

担当教員

教授	内藤直子
准教授	()
助教	片山理恵

授業概要

女性の生涯の中でも特に発達危機に陥りやすい周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性および新生児と、その家族の特性の理解と援助方法について学ぶ。具体的には妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・促進、および異常を予防できるよう援助するために必要な基本的知識および基本的援助技術を学ぶ。

一般目標

1. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につけるために、周産期にある女性および新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解できるようになる。
2. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントする能力を活用してマタニティ診断し、看護実践を支える基本技術と、日常生活への適応を促進する援助技法、さらに、ハイリスク状況となった人々への援助技法と評価法を習得できるようになる。
3. 対象への良い援助を行うために、妊娠期および産褥期にある女性の看護過程をロイ適応看護モデルを用いて展開し、クリティカルな看護介入技法を習得できるようになる。
4. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できるようになる。

行動目標

1. 産褥の経過と産褥経過に影響を及ぼす因子を述べるようになる。
2. 産褥経過における生理的変化、心理・社会的健康、及び家族の反応を述べるようになる。
3. 産褥期にある女性への基本的な援助技法が理解できるようになる。
4. 産褥期にある女性への基本的な援助技法と評価法を実施できるようになる。
5. 新生児の胎外生活への適応と生理的特性を学習できるようになる。
6. 新生児への基本的な援助技法と評価法を述べるようになる。
7. 周産期にある母性の看護過程が理解できるようになる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
正常な産褥	1	正常な産褥のアセスメント	1. 産褥経過 2. 母乳育児 3. 出産後の家族への看護	内藤
	2	正常な褥婦の看護援助 (復古現象)	1. 産褥期女性の健康を促進させるための援助 1) 生理的復古現象を促進させるためのケア 2) 会陰部創傷治癒に対するケア	内藤
	3	正常な褥婦の看護援助 (進行現象)	1. 産褥期女性の健康を促進させるための援助 1) 進行現象を促進するためのケア 2) 母乳育児に向けてのケア	内藤
	4	産褥期の日常ケア 産褥期の保健指導	1. 健康生活に必要なセルフケア能力の獲得への支援 2. マイナートラブルを緩和させるためのケア 3. 産後に必要な届出と適用される母子保健施策	内藤
		産褥期のメンタルヘルスケア	1. 産褥期のメンタルヘルスケア 2. 役割獲得への支援	
ハイリスク産褥	5	ハイリスク褥婦の援助	1. ハイリスク褥婦への援助 1) 子宮復古不全 2) 外陰・腔内の血腫 3) 産褥期の感染	()
	6	ハイリスク褥婦の援助	1. ハイリスク褥婦への援助 1) 産褥精神障害 (産褥マタニティブルー, うつ) 2) 周産期の死別	()
正常な産褥の看護援助	7	産褥期アセスメント 演習①	1. 演習オリエンテーション 2. デモンストレーション 1) 子宮底の観察と子宮底輪状マッサージ 2) 外陰部消毒	片山 内藤 ()
	8	産褥期アセスメント 演習②	1. デモンストレーション 1) 乳頭乳輪マッサージ, 乳房基底部マッサージ, 搾乳, 乳房トラブル 2) 授乳姿勢 (抱き方, 乳頭の含ませ方, 排気)	内藤 片山 ()
正常な新生児	9	正常な新生児のアセスメントと看護援助	1. 新生児看護の原則 2. 新生児の栄養 3. 新生児と家族	片山
ハイリスク新生児	10	ハイリスク新生児の援助	1. 新生児合併症 2. 低出生体重児 3. 先天異常, 障害を持つ新生児	()

正常な新生児の看護援助	11	新生児期アセスメント 演習③	1. デモンストレーション 1) 新生児の観察 2) 沐浴	片山 内藤 ()
理論に基づく看護過程	12	周産期の看護実践	1. 周産期事例の看護過程展開 1) ロイ適応看護モデル 2) ロイ4様式の情報収集とアセスメント 3) レポート作成と記録用紙	内藤
産褥期の看護過程展開	13	周産期の看護実践 演習④	1. 産褥期事例の看護過程展開 2. 帝王切開事例の看護過程展開 3. マタニティ診断	内藤 片山 ()
産褥期の看護過程展開	14	周産期の看護実践 演習⑤	1. 産褥期事例の看護過程展開 2. 帝王切開事例の看護過程展開 3. マタニティ診断	内藤 片山 ()
産褥期の看護過程展開	15	周産期の看護実践 演習⑥	1. 産褥期事例の看護過程展開 2. 帝王切開事例の看護過程展開 3. マタニティ診断	内藤 片山 ()
まとめ・評価	16	試験		内藤 片山

学習方法

- 1) 講義、デモンストレーション、PBLによるスモールグループ学習など学生間の討議を導入しながら展開する。学生が内在化している自身の母性観、父性観を確認しながら、対象を共感的に理解する視点を醸成する。特に臨床看護実践に必要な基本的技術の習得には、個別指導を導入する。
- 2) 教材：ビデオ教材、保健指導媒体

評価方法

- 1) 発問に対する応答性
- 2) レポートの内容
- 3) 出席状況
- 4) 学習態度
- 5) 筆記試験などの総合評価

教科書及び参考文献

テキスト必携

1. 村本淳子ほか. 周産期ナースング. 第2版, 2011, ヌーヴェルヒロカワ
2. 高橋真理ほか. 女性のライフサイクルとナースング. 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2011.
3. 村本淳子ほか. ウイメンズヘルスナースング概論. 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2011.
4. 内藤直子. あっ! そうか 母子小児看護過程8レポート. ふくろう出版, 2011. 4月予定.
5. 日本助産診断・実践研究会. マタニティ診断ガイドブック. 第3版, 医学書院, 2010.
6. 森恵美ほか. 母性看護学各論. 第11版, 医学書院, 2008, (系統看護学講座, 専門; 25).

参考図書

1. 小田正枝. ロイ適応モデル看護過程と記録の実際. 第2版, 廣川書店, 2001.
2. 根津八紘ほか. 乳房管理学. 改訂, 1997.
3. 櫛引美代子. カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア. 医歯薬出版, 2001.
4. 櫛引美代子. カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術. 医歯薬出版, 2006.
その他、適時、提示する

オフィスアワー

毎回授業終了後 ～ 17:30 までオフィスアワーとしますので、各教員研究室へお越してください。

子どもが産まれる家族の看護

本年度休講

母性看護学実習

担当教員

教授 内藤直子
准教授 ()
助教 片山理恵

授業概要

学生は、周産期にある女性および家族の看護を体験し、既習の母性看護学の知識・技術、並びに関連分野の知識を統合させ、母性の **well-being** がより望ましく **wellness** 型で発達段階へ移行するような看護実践力を学習する。

一般目標

1. リプロダクティブヘルスの観点から、周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけるために、対象の健康レベルの変化や、内的・外的刺激への適応レベルを **wellness** な視点からアセスメントできるようになる。
2. 母性看護学の意義や理論と、臨地での実習体験を統合するために、ロイ適応看護モデルと **wellness** 型看護診断に基づくマタニティ診断をクリティカルに用いて看護過程を展開し、効果的な看護介入を実践できるようになる。
3. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できるようになる。

行動目標

1. 到達目標

- 1) 周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加できるようになる。
- 2) **wellness** な視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入ができるようになる。
- 3) 母子関係、および家族関係の成立状況や心理的变化を観察し、看護介入が実施できるようになる。
- 4) 母子保健医療チームの一員として、母子保健の関連法規、および他職種の役割、他職種との相互連携について理解できるようになる。
- 5) 受け持ち対象をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。

2. 各期別到達目標

1) 妊婦の看護

- (1) 妊娠期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価できるようになる。
- (2) 胎児期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価できるようになる。
- (3) 妊婦の看護の必要性を見だし、その適応状態から、必要な看護介入の方法を工夫し実施できるようになる。
- (4) 妊婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解できるようになる。

2) 産婦の看護

- (1) 分娩期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価できるようになる。
- (2) 産婦の看護の必要性を見だし、適応状態に合致した看護介入の方法が理解できるようになる。
- (3) 産婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解できるようになる。

3) 褥婦の看護

- (1) 産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価できるようになる。
- (2) 褥婦の看護の必要性を見だし、その適応状態から、必要な看護介入の方法を工夫し実施できるようになる。
- (3) 褥婦の心理社会状況を理解し、褥婦と新生児との母子関係や家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を評価できるようになる。
- (4) 褥婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存、継続看護の重要性を理解することができるようになる。

4) 新生児の看護

- (1) 新生児期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解することができるようになる。
- (2) 新生児の看護の必要性を見だし、看護介入の方法を理解することができるようになる。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位（90時間）

実習方法

詳細については、「看護学実習の手引き－母性看護学実習」を参照。

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き－母性看護学実習」を参照。

評価方法

出席状況、看護過程の理解度と展開状況、臨地実習への意欲などを総合して評価する。

教科書及び参考文献

母性看護学概論、母性保健対象論、母性援助論で提示した、資料や参考書を効果的に活用していただきたい。関連図書や他領域の文献を参照することが望ましい。

テキスト必携

- 1) 村本淳子, 高橋真理: ウイメンズヘルスナーシング概論、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
- 2) 高橋真理, 村本淳子: 女性のライフサイクルとナーシング、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
- 3) 村本淳子, 高橋真理: 周産期ナーシング、第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011.
- 4) 森 恵美, 高橋真理他: 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2008
- 5) 日本助産診断・実践研究会編著: マタニティ診断ガイドブック、第3版、医学書院、2010.
- 6) 内藤直子 他: あっ、そうか! 母性小児看護過程8レポート、初版、ふくろう出版、2011、4月発行予定.

オフィスアワー

実習期間中、毎日16:00～17:00の間に、適時教員研究室にお越しください。

09 精神看護学

精神看護学概論

担当教員

准教授 越智百枝

助教 栗原琴乃

授業概要

人々の精神の健康の保持・増進や疾病の予防をはかること、また精神に障害を持つ人々への看護を考えていくために、基本的な知識や考え方を学習する。またライフサイクルや人々の成長・発達の各期における精神看護の対象の特徴を知り、対象を理解する上での基本的知識を身につける。

一般目標

- 1 心の発達や心の健康を守るしくみを理解し、精神の健康の保持、増進や疾病の予防を図るための看護の基本的知識を理解する。
- 2 精神科医療や法律の変遷を知り、精神障害者の人権や社会参加の考え方を理解する。
- 3 ライフサイクルや人々の成長・発達の各期における代表的な精神の健康問題を持つ対象について理解を深め、援助の視点を見いだす。
- 4 家族成員に精神障害者を持つ家族についての理解を深め、援助の視点を見いだす。
- 5 援助者としての看護師のメンタルヘルスの重要性について理解を深める。
- 6 精神科領域で起こりやすい倫理的な場面の検討を行うための基本的知識を理解する。

行動目標

- 1 精神看護の目的や意義を説明できる。
- 2 心の発達や心の健康を守るしくみを説明できる。
- 3 対象を理解するための理論を説明することができる。
- 4 精神科医療や法律の変遷、社会の動向、文化的背景を述べることができる。
- 5 統合失調症やアルコール依存症、摂食障害の原因・経過・治療・予後を知り、患者や家族の体験する世界をイメージでき、看護を行う上での援助の視点を述べることができる。
- 6 看護師のバーンアウトについて述べることができる。
- 7 看護実践を行う上で起こりやすい倫理的場面について討議することができる。

授業内容

2年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者			
精神看護の目的や意義	1	精神看護の機能と役割	1 精神看護の目的 2 精神看護学とカリキュラムの変遷 3 精神看護の機能と役割	越 智			
精神の健康と対象の特徴	2	精神の健康の考え方 対象を理解するための理論	1 こころのしくみと構造 2 こころの成長と発達 3 精神分析モデル	越 智			
精神障害者への考え方	3	精神科医療と法律の変遷	1 精神科医療のあゆみ 2 社会的背景と法律の変遷 3 精神障害者の権利と社会参加	越 智			
成長発達と精神の健康問題	4	思春期・青年期	摂食障害・境界型人格障害	非常勤			
	5						
	6				成人期	アルコール依存症の当事者及び家族の体験	越 智
	7				アルコール依存症者への援助の視点	(授業協力者)	
精神障害者の理解	8	精神障害者の体験	1 統合失調症の病気や障害の特徴 2 病気や障害への思い 3 生活者としての精神障害者 4 日常生活・社会生活の援助の視点	越 智			
	9						
	10						
精神障害者の家族の理解	11	精神障害者の家族の体験	1 精神障害者の家族 2 病気や障害に対する思い 3 病気の受容のプロセス 4 家族への援助の視点	越 智			
	12						
看護師のメンタルヘルス	13		バーンアウト(燃え尽き症候群)	越 智			
	14		精神科領域で起こりやすい倫理的場面の検討	越 智			
	15		試験	栗 原			

学習方法

講義・演習及び自己学習などを組み合わせて行う。

評価方法

講義終了後に筆記試験を行う。精神障害者の体験手記を読み、レポートを提出する。授業への参加態度、出席状況なども重視する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッケー現象の理解と介入方法―
- 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

参考図書は適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 17:00 ~ 18:00

(越智メールアドレス) moe@med.kagawa-u.ac.jp

精 神 疾 病 論

担当教員

教授 中 村 祐
准教授 新 野 秀 人
助教 安 藤 延 男

授業概要

精神障害者に対する医療・看護に際しては、“疾病を抱えた人間”と、“疾病そのもの”の両面を総合的に理解することが重要である。精神科看護においては、精神看護概念の理解、心の発達と心の健康、精神疾患についての理解、精神障害者とその家族への援助とその技術の習得、精神障害者の社会復帰についての仕組みと地域精神福祉保健についての理解などが必要とされる。本科目では、精神疾患についての知識の習得を主たる目標とする。

授業構成は序論、診断学、症候学の総論から始まる。続いて代表的精神疾患である統合失調症、気分障害についての講義を行う。さらに物質依存、認知症などの器質性疾患、てんかん、神経症、心身症などの疾患について講義する。また、近年重要な問題になっている児童青年期、老年期領域の諸問題、リゾエゾン精神医学について述べ、最後に精神科治療学について述べる。

一般目標

1. 適切な精神科看護の実践を行うために、精神科疾患についての知識を習得する。
2. 精神障害者およびその家族の援助を行うために、精神障害者への理解を深め、人権尊重の態度を身につけ、地域精神保健福祉の仕組みを理解する。

行動目標

1. 精神医学の歴史とその特徴について理解する。
2. 精神医学的状态像の捉え方を理解する。
3. 精神疾患の概念や精神科疾患の分類についての知識を習得する。
4. 代表的精神障害としての統合失調症、気分障害についての知識を習得する。
5. 物質依存、認知症などの器質性疾患、てんかん、神経症、心身症について理解する。
6. 児童精神医学、老年期精神医学の特徴を理解し、それぞれの代表的精神疾患についての知識を習得する。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	序論・診断学	歴史、特徴 精神医学的面接、診断	中村祐
	2	精神科症候学	精神医学的状态像、疾病概念、分類	
各論	3	統合失調症	統合失調症	安藤
	4	気分障害	気分障害	
	5	物質依存	アルコール、覚醒剤、睡眠剤、その他	
	6	器質性脳症候群	症状精神病、認知症、感染症、脳血管障害	
	7	てんかん	てんかん	
	8	神経症、心身症	神経症、心身症	
	9	児童青年期精神医学	発達障害、不登校、神経性食欲不振症	
	10	老年精神医学	老年期の特徴	
	11	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学	
	12	治療学	精神療法、薬物療法、身体的治療	
	13	補講		
	14	予備		

学習方法

講義内容を確実に把握すること。さらに深い理解には、図書館などに備えている関連図書を参考にすること。

評価方法

1. 講義終了後に筆記試験を行う
2. 講義の出欠や勉学態度を重視する

教科書及び参考文献

STEP 精神科：高橋茂樹、岸本年史（著）、海馬書房

オフィスアワー

中村 祐 後期 火曜日 15時～16時 yunaka@med.kagawa-u.ac.jp

精神援助論

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

精神看護の対象に精神の健康の保持・増進や疾病の予防をはかるために、必要な援助の技術や方法を学ぶ。

一般目標

- 1 精神看護の対象に援助を行うときの基本的な技術を理解する。
- 2 精神看護の対象に援助を行うときの基本的な方法を理解する。

行動目標

- 1 看護援助のための基本的な援助技術を述べることができる。
- 2 看護実践を行う上で自己を知り、自己活用を行うことの大切さを実感できる。
- 3 症状に応じた看護の視点を述べることができる。
- 4 薬物の作用機序と副作用を述べることができる。
- 5 薬物療法時の看護の視点を述べることができる。
- 6 活動療法・行動療法時の看護の視点を述べることができる。
- 7 対人関係理論の説明ができる。
- 8 オレム－アンダーウッド理論の説明ができる。

授業内容

2年次後期 必修 1単位(30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
看護援助のための技術	1	看護師自身の自己理解と自己活用	1 看護師の知覚・感情・思考の検討	越智
	2		2 治療的コミュニケーション	越智
	3		3 コミュニケーション演習	栗原
看護状況の把握と接近法	4	症状別看護	1 症状の捉え方	越智
	5		2 不安のある患者の看護 3 幻覚・妄想状態にある患者の看護	越智

治療と看護	6		4 うつ病患者の家族の体験	越 智 (授業協力者)
	7		5 抑うつ状態にある患者の看護	越 智
	8		6 操作的な患者の看護	越 智
	9		7 隔離・行動制限のある患者の看護	非常勤講師
	10	薬物療法と看護	1 薬物療法と副作用 2 薬物療法と看護師の役割	越 智
対象のアセスメントと看護計画	11	その他の療法と看護	1 活動療法と看護師の役割	越 智
	12		2 行動療法と看護師の役割	
	13	援助を支持する理論	1 対人関係理論	越 智
	14		2 セルフケア理論	
	15		試験	

学習方法

講義・演習及び自己学習などを組み合わせて行う。

評価方法

講義終了後に筆記試験を行う。授業への参加態度、出席状況なども重視する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法―
- 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

参考図書は適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 17:00 ~ 18:00

(越智メールアドレス) moe@med.kagawa-u.ac.jp

精神障害者のリハビリテーション

担当教員

准教授 越 智 百 枝

助 教 栗 原 琴 乃

授業概要

これまでに学んだ精神看護学概論、精神援助論の知識を元に、精神障害者が社会の中でその人らしく暮らしていくために、精神保健・医療・福祉の現状と課題を文献学習や実地踏査により明らかにする。

この科目は後続する看護研究Ⅱのテーマ決定を行う際に、有用な科目なので、精神看護学領域で看護研究を行おうと考えている学生は受講することが望ましい。

一般目標

- 1 精神障害者が社会でその人らしく暮らしていくための精神保健・医療・福祉の現状と今後の課題を明らかにする。
- 2 文献学習や実地踏査によって得られた知見をまとめ、他の学生と共有する。

行動目標

- 1 精神保健・医療・福祉の現状を文献学習することで明らかにし、課題を絞り込む。
- 2 絞り込んだ課題について、文献検討や実地踏査を必要に応じて行い、明確にする。
- 3 得られた知見を整理し、他の学生と共有する。

授業内容

3年次 後期・自由 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
精神保健・医療・福祉の現状と今後の課題を明らかにする	1	1 オリエンテーション	1 授業概要・目標の共有	越 智
	2	2 課題の絞込み	2 文献クリティークの視点	
	3		3 精神保健・医療・福祉の現状について文献学習を行い、課題を絞り込む。	栗 原
	4	3 課題の明確化	4 絞り込んだ課題について、先行研究文献検討や実地踏査により現状を明らかにする	
	5		5 得られた知見を整理する	
	6		6 グループで共有するための資料を作成し、発表する。	
	7	4 課題の現状分析と提言		

学習方法

本授業は講義・演習及び自己学習を組み合わせで行う。

評価方法

グループで得られた知見を整理し発表する。グループ発表に用いた資料、授業への参加態度、出席状況などで評価する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法ー
- 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

参考図書は適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16：00～17：00

(越智メールアドレス) moe@med.kagawa-u.ac.jp

精神看護学実習

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

学内で講義や演習をとおして学んできた知識や技術を実習の場で適用し統合する。精神看護学実習では、対象を全体的に理解し、看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。さらに対象との関わりの中で自己を振り返る機会とする。

一般目標

- 1 対象を全体的に理解し、看護過程の展開を行う。
- 2 看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。
- 3 対象との関わりから自己を振り返る。
- 4 治療活動の理解とそこでの看護者の役割を学ぶ。

行動目標

- 1 精神保健医療上の問題が対象の日常生活や対人関係にどのように影響しているかを述べることができる。
- 2 対象の生活史・家族背景・社会的背景などを理解し、精神保健医療上の問題との関連が検討できる。
- 3 対人関係理論・セルフケア理論を用い、援助の視点を見いだすことができる。
- 4 看護師－患者関係をもとに対象と関わるができる。
- 5 対象との関わりの中で生じる自分の気持ちや自己の持つ価値観、対人傾向などを振り返ることができる。
- 6 病棟や施設で行われる治療的活動が対象にとってどのような意義があるか説明できる。
- 7 対象と関わる保健医療チームメンバーの役割を述べるができる。
- 8 保健医療チームメンバーと協調しながら実習ができる。
- 9 毎日のカンファレンスに積極的に参加し、自己や他者の体験を共有できる。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位（90時間）

2週間の病棟実習を行う。受け持ち患者の状況に応じて、施設見学を行う。実習方法、内容などについては後日提示する。

実習方法

病棟実習、施設見学、カンファレンス、自己学習を組み合わせで行う。これまでの講義や演習、実習を通して学んできた内容を相互関連させて対象の理解や援助に生かしていく。

評価方法

実習状況、実習記録、事後レポート、カンファレンスへの参加状況、出席状況などにより評価する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法—
参考図書は適宜紹介する。

10 在宅看護学

在宅看護学概論

担当教員

教 授	松 井 妙 子
学内講師	片 山 陽 子
非常勤講師	大 橋 奈 美

授業概要

在宅看護をめぐる歴史的背景、在宅看護と訪問看護の制度、在宅療養者とその家族の特徴について理解し、在宅療養している人々とその家族を支援するための基礎的知識を学ぶ。さらに、保健医療福祉の専門職種と連携して支援する重要性を理解し、在宅における看護の機能と役割を学ぶ。

一般目標

- 1 在宅看護の対象と在宅看護の提供方法を学ぶ。
- 2 居宅で様々な疾患を持ちつつ療養している人を理解し、在宅看護の特徴と意義を学ぶ。
- 3 在宅看護をめぐる歴史的背景や在宅看護と訪問看護の制度について学ぶ。
- 4 社会資源を理解し、連携の重要性とその方法を学ぶ。
- 5 在宅において医療管理を必要とする人への看護について学ぶ。

行動目標

- 1 在宅看護の対象を理解できる。
- 2 在宅看護の歴史的背景を理解できる。
- 3 在宅看護をとりまく制度や、社会資源などを理解し、説明できる。
- 4 連携の重要性を説明できる。
- 5 医療管理を必要とする人への看護を説明できる。

授業内容

2 年次 後期・必修 2 単位（30 時間）

大 項 目	回	項 目	内 容	担 当 者
在宅看護とは	1	在宅看護とは	地域における看護活動	松井 片山
	2		地域で生活する療養者の特徴	
在宅看護と関連する医療福祉制度	3	在宅看護の変遷と諸制度	在宅看護の歴史	
	4		在宅看護と関連する諸制度の概要（介護保険・住宅改修・権利擁護）	
多様な在宅看護活動	5	多様な在宅看護の提供場所	在宅支援のための社会資源とそれぞれの役割	
	6		在宅看護職の活動場所と訪問看護ステーション	
	7		医療施設から地域生活へ、継続ケアの活動	
	8		医療管理を必要とする在宅療養者への支援	

対象別	9		栄養ケアが必要な在宅療養者への看護	
在宅療養者支援	10		呼吸器ケアが必要な在宅療養者への看護	
	11		皮膚ケアが必要な在宅療養者への看護	
	12		ターミナルケアが必要な在宅療養者への看護	
	13	在宅看護管理	訪問看護ステーションの管理運営	大橋
	14		在宅看護におけるリスクマネジメント	
	15	在宅看護学・まとめ	在宅看護の課題・まとめ	

学習方法

講義およびグループワークによって学ぶ。

評価方法

出席、受講態度、筆記試験、レポートなどにより総合的に判断する。

参考文献

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 日本看護協会出版会

河原加代子代：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

在宅援助論

担当教員

教 授	松井妙子
学内講師	片山陽子

授業概要

演習授業を通して、訪問看護ステーションの成り立ち、在宅看護の特徴を踏まえた事例の展開、在宅における日常生活援助技術および医療的処置に伴う援助技術を体験的に学ぶ。同時に、同職種や他職種への教育的支援の方法を学ぶ。

一般目標

- 1 在宅看護の展開場所である訪問看護ステーションについて学ぶ。
- 2 在宅援助技術・医療的ケアを必要とする在宅療養事例を作成する。
- 3 在宅援助技術・医療的ケアの方法を学び、それらの教育的指導方法を考える。

行動目標

- 1 訪問看護ステーションのパンフレットを作成する。
- 2 在宅療養事例を参考書・教科書から学び、在宅療養事例を作成する。
- 3 作成した在宅療養事例の看護問題抽出までを展開する。
- 4 在宅療養事例の看護に必要な援助技術・医療的ケアの技術を学び、他学生に指導する。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
1. 導入	1	ガイダンス	グループ分け、	松井 片山
	2	(仮想)訪問看護ス	グループ別に、訪問看護ステーションについて	
	3	テーションを作る	学び、(仮想)訪問看護ステーションのパンフレットを作成する。	
	4		グループ別発表に向けてまとめる	
	5	訪問看護ステーショ	(仮想)訪問看護ステーションをPRする。	
2. 事例演習	6	在宅療養事例の展開	在宅療養事例について学ぶ。	
	7		在宅療養事例を考える	
	8		在宅療養事例を作成する	
	9		作成した在宅療養事例に応じた看護過程を展開する。	

	10		事例と看護課程の発表 1
	11		事例と看護課程の発表 2
3. 援助技術の演習	12	在宅援助技術・医療的ケアの展開	事例に関係する在宅援助技術・医療的ケアについて学ぶ
	13		在宅事例に基づき、在宅援助技術・医療的ケアの方法を考える
	14	在宅援助技術・医療的ケアを他グループに指導	
まとめ	15	まとめ	レポート作成

学習方法

各学生が自ら学習を行い、グループ活動を通して在宅看護に関連する知識を収集し、看護過程の展開、日常生活援助技術、医療的ケアを体験的に学ぶ。

評価方法

個人学習とグループ学習の内容と態度、グループ別の発表内容、実習を通してのレポート内容などを総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書は指定しない

参考書

櫻井尚子編:ナーシンググラフィカ 在宅看護論ー地域療養を支えるケアー、メディカ出版。

渡辺裕子監修:家族看護学を基盤とした在宅看護論 I・II、日本看護協会出版会。

木下由美子編:新版 在宅看護論、医歯薬出版。

金川克子・天津栄子編:わかる・使える看護過程、中央法規出版。

齋藤悦子監修:看護過程学習ガイド、学研。

岡崎美智子・正野逸子編:「在宅看護技術」、メヂカルフレンド社

オフィスアワー

随 時 授業前後 2 時間

11 地域看護学

地域看護学概論

担当教員

教 授 大 西 美 智 恵

授業概要

地域看護は、地域社会の中で生活している人々を対象に展開される看護の実践活動である。その活動を概観するとともに、地域看護の理念や活動分野・対象・場の特性について学ぶ。また活動の根拠となる法規や活動計画についても学ぶ。

一般目標

- 1 地域看護活動の理念と目的を理解する。
- 2 地域看護活動の対象・場の特性・原則を理解する。
- 3 公衆衛生看護活動の歴史から期待される保健師（看護職）の役割を理解する。

行動目標

- 1 地域看護活動の歴史から、時代に左右されない地域看護活動の原点を理解できる。
- 2 地域看護活動の場と対象の特徴について説明できる。
- 3 地域看護活動は組織的な方法によって地域の健康レベルを向上させ得ることを理解し、またそれらを行政政策に反映させる意義を理解できる。

授業内容

2年次 後期・必修 2単位（30時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者
1. 地域看護の理念と活動分野	1	地域看護とは	a) 地域看護の特徴 b) 地域看護と公衆衛生看護	大 西
	2	地域看護の理念と活	a) 地域看護の理念	
	3	動分野	b) 公衆衛生の理念 c) 地域看護活動の分野	
	4	地域看護活動の歴史	a) 日本の公衆衛生の発達と公衆衛生看護の変遷	
	5		b) 諸外国の公衆衛生の発達と地域看護の変遷	
	6	保健師が大切にしたいこと	a) グループディスカッション	
	7		b) ビデオ「孤島の太陽」を鑑賞	

2. 地域看護の対象	8	地域の人々と健康	a) 生活環境の変化と健康問題 b) 対象としての個人・家族・集団・地域
	9	地域看護活動の場の特性	a) 保健師が活動する場
	10	地域住民の保健関連行動	a) 個人の健康課題への対処行動 b) 組織としての健康課題への対処行動
3. 地域看護に関する法令と保健師の機能・役割	11	地域看護に関する法令	a) 地域看護活動に関わる法的根拠 b) 保健・医療・福祉職種の身分・業務の法的根拠
	12	地域看護活動の展開と保健・事業計画	a) 地域看護活動の計画・実施・評価 b) 活動・事業計画と保健師の役割
	13	地域看護と資源	a) グループワーク「地域看護と資源」
4. 国際協力	14	国際協力と地域看護	a) 地域看護における国際協力
	15	まとめ	

学習方法

社会福祉・社会保障論等の授業を基礎知識とする。

評価方法

定期試験：6割

ビデオ鑑賞ミニレポート，グループディスカッションレポート，資源調査：3割

受講態度：1割

教科書及び参考文献

教科書

奥山則子他著：標準保健師講座第1巻 地域看護学概論，医学書院，最新版

厚生統計協会編：国民衛生の動向，最新版

参考書

厚生統計協会編：国民福祉の動向，厚生統計協会，最新版

飯田澄美子他編：保健学講座 第1巻「地域看護学概論」，メヂカルフレンド社 最新版

宮崎美砂子他編：最新地域看護学，日本看護協会出版会，最新版

門脇豊子他：看護法令要覧（平成20年度版）日本看護協会出版会

日本看護協会監：保健師業務要覧 第2版，日本看護協会出版会，2008.

平野かよ子編：ナーシング・グラフィカ⑦ 健康と社会・生活，MC メディカ出版，最新版

オフィスアワー

随時

地域看護対象論

担当教員

教授	大	西	美	智	恵
教授	松	井	妙	子	
准教授	越	田	美	穂	子
講師(学内)	片	山	陽	子	

授業概要

人々の健康に直接的・間接的に関わる保健・医療・福祉に関する政策や法制度について理解し、それらを踏まえて、人生の全ライフステージにおける健康レベルに応じた支援の方法を学ぶ。

一般目標

1. 各ライフステージの特徴や健康課題を知り、それぞれの時期の発達課題に応じた支援のあり方を理解する。
2. 難病患者や障害者の生活実態や生活課題を理解するとともに、地域ケアのあり方を説明できる。
3. 健康危機管理と保健師活動の関係について理解し、保健師の果たすべき役割について説明できる。

行動目標

1. 各ライフステージの特徴や健康課題を説明できる。
2. 各ライフステージの発達課題に応じた支援のあり方を説明できる。
3. 難病患者や障害者の生活実態や生活課題を説明できる。
4. 難病患者や障害者に対する地域ケアのあり方について説明できる。
5. 健康危機管理と保健師活動の関係について説明できる。
6. 健康危機管理において保健師の果たすべき役割について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ライフステージの特性と保健活動	1	母子保健活動	母子保健の変遷と関係法規 地域母子保健と福祉サービス その①	越 田
	2		母子保健と福祉サービス その②	越 田
	3	成人保健	子育て不安と家族支援 成人保健の動向と保健活動	越 田
	4		健康づくり運動 生活習慣病対策	越 田

心身の健康問題と 保健活動	5	歯科保健活動	歯科保健の動向 生涯を通じた歯科保健	越	田
	6	高齢者保健活動	政策過程と法制度 健康レベルと生活支援	松	井
	7		健康長寿社会づくりと保健活動	松	井
	8	精神保健活動	歴史的変遷と現状及び課題 地域精神保健活動の実際	松	井
	9	健康危機管理 感染症対策 (1)	結核対策	大	西
	10	健康危機管理 感染症対策 (2)	その他の感染症対策	大	西
	11	障害者保健活動	障害児・者をめぐる社会資源 保健福祉政策と地域支援	片	山
	12	難病保健活動	難病保健の動向 難病患者の生活と保健指導	片	山
	13	健康危機管理 災害時の保健活動 (1)	災害看護の目的及び制度とシステム	大	西
	14	健康危機管理 災害時の保健活動 (2)	災害看護における保健師活動	大	西
	15	まとめ	まとめ	大	西

学習方法

講義を主体とした展開になるが、教科書や参考書を読み主体的に学習すること

評価方法

出席回数、受講態度、筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

中谷芳美他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院
厚生統計協会編：国民衛生の動向 厚生統計協会

参考書

金川克子編：最新保健学講座4 地域看護活動論① メヂカルフレンド社
金川克子編：最新保健学講座5 地域看護活動論② メヂカルフレンド社
北山三津子：最新地域看護学各論1 日本看護協会出版会
津村智恵子編著：改訂 地域看護学、中央法規
厚生統計協会：国民福祉の動向 厚生統計協会
厚生労働省監：厚生労働白書 ぎょうせい
柳澤健一郎他編：衛生行政大要 日本公衆衛生協会
総理府編：障害者白書 財務省印刷局 日本子どもを守る会編：子ども白書 草土文化

オフィスアワー

講義終了後1時間

地域援助論

担当教員

教授	大西 美智恵
准教授	越田 美穂子
講師 (学内)	片山 陽子

授業概要

健康や障害に関連した諸問題は、生物学的、物理的、社会的な原因で生ずることを理解し、健康課題を考えると、具体的な個々の実態を見つめながら、社会的な基盤を視野に入れて捉えることを学ぶ。また、歴史的に展開されてきた公衆衛生看護活動を踏まえ、今日用いられている地域看護活動の概念をもとに、地域で展開する看護活動の方法について理解できる。特に、地域保健活動としての展開方法では、地域の人が顕在・不顕在を問わず健康課題を認識し、主体的な保健行動がとれるよう組織的活動を目指した支援のあり方を学ぶ。

一般目標

1. 地域看護診断の意義・目的・方法について理解し、演習を行うことで地域看護学実習の地域診断に活かすことができる。
2. 人々が健康問題に主体的に取り組むことを援助するために、教育的働きかけ（健康教育）の理論を理解し、技術の実際を身につける。
3. 人々の健康な生活を援助するために、保健指導の基本的な考え方、展開方法を習得する。

行動目標

1. 地区の健康課題（生活課題）をアセスメントするために必要な情報を収集できる。
2. 地区の健康課題（生活課題）を記述し、対策（解決策）を考えることができる。
3. 地域における健康教育の位置づけを説明できる。
4. 健康教育の技術を習得し、効果的に教育媒体を作成することができる。
5. 健康教育の展開過程を理解し、演習において実践できる。
6. 保健指導の基本、理論、展開方法を理解できる。
7. 健康相談、健康診査、家庭訪問における保健指導の特徴を理解できる。
8. 地区組織活動の特徴とその支援方法を理解できる。
9. 地域ケアシステムの構築とネットワーク化について理解できる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
地域看護診断	1	地域看護診断の有用性と方法	地域ヘルスニーズのとらえ方 地域看護診断の意義・目的・枠組みと方法	大西
	2	エスノグラフィーに基づく地域看護診断	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用 エスノグラフィー的接近に基づく地域看護診断の具体的な実践方法	大西
	3		あるべき姿からの地域看護診断、地域の強みを活かす地域看護診断	大西 片山
	4	地域看護診断の実際	情報収集の実際	
	5	①(演習)		
	6	地域看護診断の実際	地区視診で地域を観よう	大西
	7	②(演習)		大西
	8	地域看護診断グループワーク	各自で行った地区視診やインタビューを発表し、グループでまとめよう	
	9			
	10	地域看護診断発表	グループ毎にまとめた地域看護診断を発表しよう	大西 片山
健康教育と健康学習 健康教育の基本	11			
	12	集団を対象とした援助	健康教育の理念と定義、目的、方法の変遷 地域における集団を対象とした援助技術	越田
	13	健康教育と保健行動	健康レベルに対応したセルフケアと健康教育 健康教育理論・健康行動科学理論・行動変容へのアプローチ	越田
	14	健康教育の実際(1)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	15	健康教育の実際(2)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	16	健康教育の実際(3)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	17	地区活動と健康教育	計画から評価に至るプロセスとその重要な側面	越田
集団への教育的働きかけ	17	グループ演習	効果的な媒体づくり	越田 片山
	18			
	19			
	20			
	21			

健康教育の実際	22	模擬健康教育	模擬健康教育発表・まとめ	越田
	23			片山
	24			
保健指導	25	保健指導の基本	地域における個人・集団へのアプローチ 保健指導の目的・対象・特徴・基本姿勢	越田
	26	保健指導に関する理論	保健行動理論と保健指導で活用できる理論	越田
	27	保健指導の展開	健康相談・保健指導における面接技術 コーチングとファシリテーション	越田
地区組織活動	28	地区組織活動の基本	地区組織活動の歴史 地区組織活動に関わる概念 セルフヘルプ・グループの活動とその支援 地区組織の活動とその支援	大西
	29	地区組織活動の展開	地域の健康問題の構造 地区組織活動における展開の原則 住民の自立支援・地区組織活動の実践	大西
	30	まちづくりにおける地域ケアシステムの構築とネットワーク化	地域ケアシステムの構築 ネットワーク化の形成と地域ケアコーディネーション	大西

学習方法

講義と並行して、地域看護診断及び健康教育ではグループ演習を取り入れ理解を深める。グループ演習を行うため、開講時間が変則となることがあるので注意すること。

評価方法

出席回数、受講態度、演習内容、筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

金川克子編：地域看護診断 東京大学出版会

中村裕美子他著：標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院

参考書

平野かよ子編：最新保健学講座2 地域看護学総論② メヂカルフレンド社

村嶋幸代編：最新保健学講座3 地域看護支援技術 メヂカルフレンド社

宮崎美砂子：最新地域看護学 総論 日本看護協会出版会

津村智恵子編：改訂地域看護学、中央法規

平野かよ子他編：事例から学ぶ保健活動の評価 医学書院

金川克子監：地域看護学日線の理論化をめざして 日本看護協会出版会

Elizabeth T. Anderson, Judith Mcfarlane 編 金川克子他訳：コミュニティ・アズ・パートナー
地域看護学の理論と実際 医学書院

オフィスアワー 随時

地域ケースワーク論

担当教員

准教授 越 田 美穂子
講師(学内) 片 山 陽 子

授業概要

本科目では、家族を1つの単位としてとらえ、個人および家族がその発達課題を達成し、地域において健康的な生活を維持し、健康問題に適切に対処できるように、それぞれの家族が本来持つセルフケア機能を引き出し、高めていくことを支援する方法を学ぶ。

家族を一単位とした看護の基本的な考え方と方法については、家族発達理論、家族ストレス対処理論や家族システム理論を基礎に渡辺式家族看護アセスメントモデルを用いて理解を深める。

また、家族のライフサイクルに応じて発生しやすい健康問題を持つ家族や、多問題を持つ家族の事例を取り上げ、グループ演習により、アセスメント - 計画 - (実施) - 評価までの地域における訪問技術と社会資源を利用したケースワークの過程を体験し、地域において家族を支援する方法を学ぶ。

一般目標

1. 地域における生活者の視点から、家族を一単位とした看護の基本的な考え方と支援方法について理解する。
2. グループ演習により、家族のライフサイクルに応じた健康障害や多くの問題を持つ家族を、効果的に援助するためのケースワークの方法を習得する。
3. 家庭訪問の基本的な考え方と実施方法を理解する。

行動目標

1. 生活の視点や発達課題から家族を理解できる。
2. 家族理解を深めるための関係理論について理解できる。
3. 家族を援助するために必要な情報収集やアセスメントができる。
4. アセスメントをもとに社会資源を利用したケースワークができ、その評価について理解できる。
5. 看護活動と家族内の人間関係の調整の必要性について判断する。
6. 自助グループや家族会等の地域におけるフォーマル、インフォーマルな社会資源について理解する。
7. 地域との関わりや、生活者の視点からのケースワークができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
地域で生活する家族を理解する	1	家族とは・地域看護の対象としての家族	1 オリエンテーション 2 対象理解：家族とそれを取り巻く地域社会の理解 3 生活の視点からみた保健師が援助対象とする家族 4 健康問題と家族の問題解決能力 5 家族の発達課題の各過程における保健活動のアプローチ	越 田
家族援助への保健師の役割	2	地域の視点から見た家族支援	1 在宅ケアシステムと保健師の役割 2 各種社会資源とケースワーク 3 家族構造図（関係図）とエコマップ	片 山

援助対象である 家族の理解	3	家族を理解するための各種理論	1 家族発達理論 2 家族ストレス対処理論 3 家族システム理論	片 山	
家族を支援するための 実践方法	4	支援方法としての 家庭訪問の基本	1 家庭訪問の基本的な考え方 2 家庭訪問の実施方法	片 山	
家族を援助対象と するケースワーク の展開方法	5	家族援助のための ケースワークの過 程	渡辺式家族看護アセスメントモデルを用いた展開 1 家族支援のためのアセスメント (1) 情報収集と判断基準		
	6		1 家族支援のためのアセスメント (2) 問題の明確化と計画立案	片 山	
	7		1 家族支援のためのアセスメント (3) 家族に対する援助と評価	片 山 越 田	
	8		1 家族支援のためのアセスメント (4) まとめと演習オリエンテーション	片 山 越 田	
	9		1 グループ演習による事例検討 (1)	片 山 越 田	
	10		1 グループ演習による事例検討 (2)		
	11		1 グループ演習による事例検討 (3)	片 山 越 田	
	12		1 グループ演習による事例検討 (4)	片 山 越 田	
	13		1 グループ演習発表	片 山 越 田	
	14		1 グループ演習発表	片 山 越 田	
	15		家族援助論・まとめ	1 家族援助論・まとめ	片 山

学習方法

講義および事例をもとにグループ演習を行い、地域における社会資源を利用したアセスメント-計画-（実施）-評価までのケースワークの過程を体験し、家族を支援する方法を学ぶ。

評価方法

事例の分析記録、発表内容、受講態度や筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 第2版 日本看護協会出版

参考書

奥山則子他著：標準保健師講座 1 地域看護概論 医学書院

中村裕美子他著：標準保健師講座 2 地域看護技術 医学書院

松田正巳他著：標準保健師講座 3 対象別地域看護活動 医学書院

鈴木和子・渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第2版、日本看護協会出版会

オフィスアワー

講義終了後1時間

担当教員

非常勤講師	浅川	富美雪（倉敷芸術科学大学 教授）
非常勤講師	脇谷	小夜子（タダノKK）
准教授	越田	美穂子

授業概要

労働は、人間生活の基本的な要素である。しかしながら、自己の生活を維持し家族を養うための労働が、人の健康に重大な影響をもたらしてきたのも事実である。働く人々の健康状態は、労働環境や労働条件によって大きく左右される。そしてこれらの労働環境や条件は、その時代や国の科学技術の発展段階や社会経済制度等によって大きく異なる。そこで、「産業保健・看護論」では、あらゆる労働者を対象に、労働環境や作業上の諸条件から発生しやすい疾病や障害を防止し、身体的・精神心理的・社会的健康と福祉を維持増進するための、労働衛生とその管理、産業保健活動、並びにそのなかでの看護の位置と役割・機能および具体的な保健師活動などの基礎について学ぶ。

一般目標

労働条件と労働環境に関連する健康障害の原因とその予防について学び、かつ労働者の健康の保持増進、ならびに福祉の向上に寄与するための法律・制度やその具体的方法論について理解できることを目的とする。

行動目標

- 1) 産業保健とは何かを理解し、合わせてその重要性を認識する。
- 2) 産業保健・産業看護の発展の歩み、ならびに産業構造と職業構造の変遷を理解する。
- 3) 企業活動のなかでの産業保健・産業看護活動の位置づけを知る。
- 4) 産業保健を推進するための体制と産業保健における看護職の役割・職務を理解する。
- 5) 労働衛生の現状・産業看護活動の現状を理解する。
- 6) 産業看護活動に必要な労働衛生について基礎を理解する。
- 7) 主な職業性疾病についての理解、並びに各疾病の予防対策の原則と産業看護職の役割を理解する。
- 8) 職場における健康づくりの意義、並びに産業看護職の役割を理解する。
- 9) 産業看護活動の課題を理解するとともに、対応策を考えることができる。
- 10) 産業保健と地域保健の連携の重要性を理解する。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
産業保健	1	産業保健(労働衛生)の基礎知識	1. 産業保健の定義・歴史 2. 労働者の健康問題の現状と動向 3. 労働者の健康障害 4. 職業性疾病の定義 5. 有害化学物質による職業性疾病とその予防 6. 有害エネルギーによる職業性疾病とその予防 7. 作業態様による健康影響とその対策	浅川 (越田)
	2	労働衛生管理業務の概要	1. 労働衛生の専門スタッフの職務 2. 労働衛生関係法規と労働衛生行政機構 3. 総括管理 4. 作業環境管理 5. 作業管理 6. 健康管理とTHP 7. 衛生教育	
	3	小規模企業等における労働衛生の現状と対策	1. 中小企業の位置づけと労働衛生の問題点 2. 小規模事業所の労働衛生の実態と対策	
	4	総括	評価	
産業看護	5	1. 産業看護の理念と目的 2. 産業看護の歴史と今後の課題	1. 産業看護の理念 2. 産業看護の目的 1. 産業看護の歴史 2. 産業構造と職業構造の変遷 3. 地域保健・看護との連携	脇谷 (越田)
	6	3. 産業看護の法制度とシステム	1. 労働安全衛生に関する法体系 2. 産業保健組織と人材 3. 産業看護と社会資源 4. 個別的・集団的・組織的展開方法	
	7	4. 産業看護の展開(講義・実習)	1. 産業看護職の役割・機能 2. 産業保健計画と評価 3. 産業看護職の活動の実際(見学実習)	
	8	総括	評価	越田

学習方法

講義以外にグループ学習、見学実習等を併用する。産業看護活動を推進していく上での基礎知識としてまず産業保健・労働衛生について学習し、次に産業看護の役割とその展開方法について学ぶ。

評価方法

試験、レポート、学習態度、出席状況により総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

松田正巳、他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動、医学書院
厚生統計協会編：国民衛生の動向、厚生統計協会

参考書

馬場快彦・鈴木美代編：新版 保健学講座7巻「産業看護活動論」、メヂカルフレンド社
河野啓子：産業保健・産業看護論、日本看護協会出版会
和田攻編：産業保健マニュアル、南山堂
日本産業衛生学会 労働者体力問題研究所編：労働科学叢書 職場における体力・健康づくり
労働科学研究所出版部
労働省労働衛生課：労働安全衛生法に基づく職場の健康づくり必携 労務行政研究所
林慎一郎監：生涯にわたる健康記録 中央法規

オフィスアワー

講義終了後 1時間

担当教員

教授 大西美智恵

非常勤講師 木川佐智子

非常勤講師 市原新一郎

授業概要

香川県には、離島振興法による指定離島が22カ所存在している。

これらの離島の住民が抱えている生活や健康課題の特徴、ならびに保健・医療・福祉の現状から保健活動のあり方や、看護職の役割について学ぶ。また、離島という条件からハンセン病の隔離政策の場となった大島青松園の歴史と現状をとおして、ハンセン病対策における看護職の役割について学ぶ。

一般目標

- 1) 離島の法的整備や、健康政策を理解する。
- 2) 離島の生活課題や健康課題を理解する。
- 3) ハンセン病対策の歴史を知り、療養所入所者の現状と課題を理解する。

行動目標

- 1) 離島に関する法について理解することができる。
- 2) 離島の生活課題や健康課題について考察することができる。
- 3) ハンセン病対策の問題点が指摘でき、療養所入所者の現状と課題を理解したうえで、看護職の役割について考察することができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
離島の生活課題と健康課題及び政策	1	離島で生活する住民のヘルスニーズ	1 島の定義 2 離島振興法など 3 離島の生活・健康の実態	大 西
	2	離島・僻地保健医療対策	香川県における離島・僻地保健医療行政 ・香川県の医療行政 ・香川県の離島・僻地医療体制 ・遠隔医療ネットワーク	木 川
	3	離島保健・福祉と看護	離島の生活課題と健康課題及び看護	大 西
	4	ハンセン病と公衆衛生	ハンセン病と医療政策	市 原
	5	ハンセン病と公衆衛生看護	ハンセン病対策から考察する看護の役割	大 西
	6	ハンセン病と	大島青松園 現地踏査	大 西
	7	看護職の役割	・園長、看護師長、自治会長の講演 ・入所者との交流 ・施設見学	
	8	総括	まとめ	大 西

学習方法

講義・グループ演習・現地踏査

評価方法

演習の参加状況、演習結果、レポート

教科書及び参考文献

講義毎の資料

オフィスアワー

講義終了後

学 校 保 健 I

担当教員

教 授 松 井 妙 子

授業概要

健康な国民の育成をめざす学校保健は教育の基本となるので、学校教育において重要な位置を占めている。そこで、学校保健の役割を理解し、学校保健活動の展開に必要な基礎的な知識、方法を学ぶ。また、学童期・思春期特有の問題をとらえ、学校保健をめぐる課題について考察する。

さらに学校保健をめぐる課題を解決するために、学校と地域保健活動との連携の必要性とその実際について理解を深める。

一般目標

1. 学校保健の意義と沿革、関連法規について学習し、学校保健活動の内容について理解する。
2. 学校保健の領域について理解し、学校保健活動の実際を知った上で、今後の学校保健のあり方について考察、記述できる。
3. 学童期・思春期特有の問題をとらえ、学校保健の課題として考察することができる。
4. 地域における学校保健と保健師活動の連携について学び、理解できる。

行動目標

1. 学校保健の沿革と意義について具体的に述べることができる。
2. 学校保健法と関連法規について記述でき、その関連について述べることができる。
3. 学校における保健管理と保健教育について理解でき、具体的に述べることができる。
4. 学童期・思春期特有の問題をとらえ、その解決策について意見を表明できる。
5. 地域における保健師活動との連携について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者
学校保健の意義と構造	1	学校保健の意義・目的と沿革	学校保健の意義 学校保健の領域構造 学校保健の運営と担当者 学校保健に関する行政と法律 学校保健の沿革と当面の課題	松 井
学校の保健管理	2	学校における保健管理	保健管理システム 健康診断・健康相談 保健室の機能 保健教育の実際 感染症の予防 学校伝染病	

学校環境衛生	3	学校環境衛生と 安全教育	学校環境の整備・安全の確保 環境教育、事故防止の具体策
学校の保健教育	4 5	学童期・思春期特有 の問題と対策（GW）	不登校、摂食障害、障害児、肥満、家庭内・校内暴力、 非行・いじめ、若年妊娠、感染症など
学校保健活動の 運営とその実際	6 7	学校保健活動の実際 と養護教諭の職務 （GW）	小・中学校における養護教諭の職務
総 括	8	まとめ	発表

学習方法

講義と演習

評価方法

グループワークの活動状況、試験・レポート・実習態度等により、総合的に評価する。

参考文献

国民衛生の動向

標準保健師講座 対象別地域看護活動 医学書院

日本学校保健会編 学校保健の動向（最新版） 日本学校保健会

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

12 統合実践看護学

看護入門セミナー

本年度休講

看護とコミュニケーション

担当教員

非常勤講師 藪添隆一（香川大学大学院教育学研究科教授・臨床心理士）
竹森元彦（香川大学大学院教育学研究科准教授・臨床心理士）

授業概要

コミュニケーションを通して、私たちは他者理解・自己理解を有機的に行っている。また、コミュニケーションの方法も言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションに大別できるが、多様で微妙なものである。

以上のように、コミュニケーションを改めて認識し直すとともに、実技演習を実施しながら自己理解、他者理解深めながら、看護におけるコミュニケーションの実際を習得できる授業としたい。

一般目標

カウンセリングの基本的姿勢（受容・共感・傾聴）とその重要性について学ぶこと
相手の理解が深まり、同時に自己理解が深まるコミュニケーションのあり方について学ぶこと
看護場面や人間関係場面におけるコミュニケーションを見直し、援助的なコミュニケーションのあり方について学ぶこと

行動目標

受容的・共感的な姿勢を示し、相手に対して傾聴できる。
他者理解を深め、自己理解も深まるようなコミュニケーションのポイントについて理解できる。
カウンセリングの技法を援用した援助的なコミュニケーションを活用することができる。

授業内容

2 年次 前期・集中 2 日 1 単位 (15 時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1 日 目	実践1 人間関係を深めるとともに 傾聴する態度と技法を学ぶ	1 感受性訓練 言語・非言語コミュニケーション 対他・対自コミュニケーション 2 ペア・カウンセリング 雑談の効用 傾聴の方法と効用 3 質疑応答 自己理論形成のための質疑 4 まとめ 経験から理論を認識する	藪添
	2 日 目	実践2 カウンセリングの相談場面の シナリオを作成した上で、グル ープにて話し合ったうえで、発表を 行う。その場合、発表されたシナ	1. シナリオ作成 2. グループディスカッション 3. シナリオへのコメント 4. 振り返り	竹森

		<p>リオについてコメントを行いながら、相互に学びあう。</p> <p>最後に、振り返りとしてのレポートを提出する。</p>	
--	--	----------------------------------------------------------------	--

学習方法

カウンセリングの学習は、自己理解と他者理解のための演習から始まります。単なる知的学習ではありませんので、自分をかけて積極的に参加してください。

評価方法

出席を基本として、授業への積極性、1日目のレポートと、2日目のレポートを併せて評価をします。設問については、その時に出題します。

教科書及び参考文献

教科書：東山紘久著「カウンセラーへの道」創元社

教科書：竹森元彦著「心の生まれる場所」ふくろう出版社

参考文献：東山紘久「プロカウンセラーの聞く技術」創元社

「プロカウンセラーのコミュニケーション術」創元社

オフィスアワー

授業後のひととき：非常勤であり、学内には常駐していない

ヘルスアセスメント

担当教員

教授	當目雅代	田中輝和	名越民江	内藤直子
	大森美津子	大西美智恵	峠哲男	松井妙子
	祖父江育子	清水裕子		
准教授	南妙子	佐々木睦子	越智百枝	筒井邦彦
	谷本公重	越田美穂子		
講師	金正貴美	片山陽子(学内)		
助教	片山理恵	野口英子	粟納由記子	栗原琴乃
	西村美穂	三上順子	松岡美奈子	小笠美春
	香川里美			
コーディネーター	筒井邦彦			

授業概要

ヘルスアセスメントでは、人々の健康状態を身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることを学ぶ。個人・家族・地域社会における対象者の健康状態を身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることの重要性を学ぶ。さらに、対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者として望ましい基本的態度を習得することを目指す。

一般目標

看護におけるヘルスアセスメントの意義・目的を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的な観察・測定技術の必要性と方法を学ぶ。また健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準と方法を学ぶ。身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的なヘルスアセスメントを行うことの重要性と看護過程の展開について説明できる。

行動目標

1. 看護実践におけるヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる。
2. 身体の構造と機能の系統的な観察ができる。
3. フィジカルアセスメントを対象に合わせて安全・安楽に実施する方法を説明できる。
4. フィジカルアセスメント技術を適用できる。
5. フィジカルアセスメントの実施にあたり、対象とコミュニケーションがとれる。
6. フィジカルアセスメントで得た結果を、適切な用語を用いて記録できる。
7. フィジカルアセスメントをすることより、健康上の問題が類別できる。
8. 健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準が説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1 2	健康情報インタビュー	健康情報インタビューによるヘルスアセスメント	名越・清水・他
	3 4	呼吸系	呼吸系アセスメントと演習	大西・南・他
	5 6	循環器系	循環器系アセスメントと演習	松井・筒井・他
	7 8	消化器系	消化器系アセスメントと演習	田中・谷本・他
	9 10	感覚器系	感覚器系アセスメントと演習	大森・祖父江・他
	11 12	運動器系	運動器系アセスメントと演習	當目・他
	13 14	生殖器系	生殖器系アセスメントと演習	内藤・佐々木・他
	15 15	中枢神経系	中枢神経系アセスメントと演習	峠・越智・他

学習方法

講義、演習、VTR、CD、DVDを用いた自己学習

評価方法

実技試験、演習レポート、出席と演習での参加度を総合して判断

教科書

1. 山内 豊明：フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院、2005

参考文献

1. 藤崎 郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研、2001
2. 上平憲、田代隆良監修、看護アセスメントに役立つ検査の読み方、医学芸術社、2003
3. 川村佐和子他編：基礎看護学—ヘルスアセスメント、メディカ出版、2004

オフィスアワー

随 時

家族看護学

担当教員

教授 内藤直子

教授 松井妙子

授業概要

本科目で、学生は、少子・高齢化、家族形態の変化及び男女共同参画化が進行している現代社会の問題を、家族看護学の視点で捉え、家族を一つの単位として介入することを目的として、家族看護学の基本理論（家族発達論、家族システム論、家族ニード論、倫理等）を学習する。

また、学生は、カルガリー家族看護論の概念と方法論について具体的な学習ができる。

一般目標

1. 家族看護学の基本理論を理解して、家族アセスメントの力を身につける。
2. 家族看護学の基本に基づき、家族の適切な援助のあり方が考えられる。
3. さまざまな健康問題のステージにあり、さまざまな場所、つまり、入所や入院している人および在宅療養する人の、家族の看護問題を考えることができる。
4. さまざまな健康問題のステージにあり、さまざまな状況で、つまり、子どもや女性、青年期、老年期にある人の、家族の看護問題を考えることができる。

行動目標

1. 少子・高齢化、核家族化及び男女共同参画化が進行している現代社会の家族の問題を、看護学の視点で捉えることができる。
2. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族発達論が理解できる。
3. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族システム論が理解できる。
4. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族ニード論が理解できる。
5. カルガリー家族看護論の概念と方法論について具体的に述べる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
家族看護学の概要	1	家族看護学の概念	1. 家族とは 2. 家族看護学とライフサイクルと倫理 3. 家族看護学の意義と歴史	内藤
各論	2	家族に対する看護の意義・必要性 家族看護学の基本理論 I	1. 家族看護学の歴史的発展とその理論的背景 2. 家族システム看護の概要 3. 家族システム看護の理論的背景 4. カルガリー家族看護論	内藤
	3	家族看護の実践 I 家族介入に有用なモデル	1. カルガリー家族アセスメントモデル 2. カルガリー家族介入モデル 3. 家族インタビューの発展方法と視聴覚教材 4. ジェノグラフの活用	内藤
	4	家族看護の実践 II 家族のアセスメントと介入：演習	1. 家族インタビューに必要な技術と前提条件 2. 短時間で行う治療的インタビューの演習 3. カルガリー家族看護モデルの視聴覚による演習 (1) 障害児をもつ家族への援助 (2) 小児とその家族への援助 (3) 精神障害を抱える妊産婦への援助 4. カルガリー式家族看護モデルの実践グループワーク	内藤
	5	家族への援助 I 介護負担を抱える家族への看護介入	1. 介護負担を抱える家族の家族アセスメント	松井
	6	家族への援助 II 介護負担を抱える家族への看護介入の実際	1. 介護負担を抱える家族への看護介入の実際 (1) 在宅療養へ移行する人の家族看護実践	松井
	7	家族への援助 III 終末期にある家族員を抱える家族への看護介入	1. 終末期にある家族員への介入の原則 2. 終末期にある家族員への介入の実際	松井
評価	8	試験	筆記試験	内藤 松井

学習方法

講義を行うとともに、視聴覚教材の活用や課題演習を組み合わせることで授業を進めるので、学生相互で主体的に学びを深めるように期待する。

評価方法

レポート、グループ討議、出席状況から総合的に評価する。

教科書及び参考文献

必携

1. 森山美智子：ファミリーナーシングプラクティス、医学書院、2001（履修学生は必携）

2. 小林 奈美：グループワークで学ぶ家族看護論（第2版）カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ，医歯薬出版 2011（履修学生は必携）

参 考

1. 杉下知子編著：家族看護学入門、メヂカルフレンド社、2000
2. 鈴木和子他：家族看護学、日本看護協会、1995
3. 野嶋佐由美監訳：家族看護学、へるす出版、1993

*その他、適時、提示する。

オフィスアワー

講義日の16:10～18:00に教員の研究室まで適宜お越しく下さい。

看護と国際社会

担当教員

教 授	峠 哲 男	非常勤講師	近 藤 麻 理
教 授	祖父江 育子		(東邦大学教授)
教 授	内 藤 直 子	非常勤講師	柴 崎 三 郎
准 教 授	谷 本 公 重	非常勤講師	鎌 野 倫 加
助 教	片 山 陽 子		

授業概要

昨今の世界情勢は、アメリカ合衆国のプライム・サブプライム問題に端を発した世界経済危機が進行する中で、保健および医療を取り巻く状況は、発展途上国のみならず先進国においても大変厳しい状況にあることは、周知のことと思われる。このように、ある国や地域の問題は、世界の国や地域に対しても大変大きな影響を与えることは、世界のグローバル化としてとらえられるが、保健や医療においても、エイズやインフルエンザ、結核などの感染症の世界的蔓延、人口の爆発的増加など、世界的な視野に立ち、さらに環境、社会、文化、政治、経済問題などと関連させて、対策を立てないと解決しえない問題が山積している。

大学の授業を通して、地域に則した保健医療の推進に必要な知識や技術を習得すると同時に、国際的観点に立った知識や思考法をやしなうことは、これからの医療従事者にとって重要な課題の一つである。さらには、将来において世界保健機関（WHO）や国際協力機構（JICA）などにおいて世界の保健医療に寄与しうる人材を育成することは、看護系大学の責務の一つであるといえる。従って、この国際保健医療の授業においては、先進国並びに発展途上国の保健および医療の現状を提示し、国際保健医療における看護の役割や問題点について理解してもらい、さらにはこれからの国際保健医療における看護の果たすべき役割についても、レポート作成という作業を通して、考えを巡らせて行ければと考える。またこの授業が、国際保健医療に対する理解ならびに興味を深める一契機になってくれればと願っている。

一般目標

1. 世界の健康問題について理解する。
2. 国際保健医療における看護の役割について理解する。
3. 先進国での保健医療の現状と問題点について学習する。
4. 発展途上国での保健医療の現状と問題点について学習する。

行動目標

1. 国際保健医療での看護の役割について説明できる。
2. 世界の健康問題について、疫学や生態学等の視点から述べることができる。
3. 世界の健康問題について、社会、文化、政治、経済及び保健医療システムの関連から総合的に現状を評価できるように心掛ける。
4. 国際保健医療におけるこれからの看護の役割について、創造的に述べるができる。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 展 開 まとめと評価	1	ガイダンス	1. 授業の目的についての説明 2. 科目の展開や進め方についての説明 3. 学習方法や評価方法の説明	峠
	2		1. 英国における保健医療の現状と問題点	峠
	3		1. 世界の健康課題と国際機関の役割	近藤
	4		2. ジェンダー・貧困・HIV/AIDS と看護の取り組み	近藤
	5		1. バングラディッシュにおける国際保健活動	柴崎
	6		2. 国際保健活動の課題と解決策	柴崎
	7		1. 国際災害看護の現状	鎌野
	8		1. カナダにおける保健医療の現状と問題点	片山
	9		1. レポート作成 2. まとめと評価	峠

学習方法

WHO を中心とした国際保健医療機関の役割や、NPO などによる保健医療活動、諸外国の保健医療の現状について学ぶとともに、常に保健医療の問題点や看護の役割について考え、その対処方法についても考えを巡らせるようにしてもらいたい。また、必要があれば自由に教員に質問したり、図書館やインターネットによる検索も心掛けてもらいたい。

評価方法

出席とレポートによる評価。

教科書及び参考文献

1. 久間圭子, 序説国際看護学, 日本看護協会出版会, 2001
 2. 国際看護研究, 国際看護学入門, 1999
 3. 近藤克則, 「医療費抑制の時代」を超えて—イギリスの医療・福祉改革, 2005
 4. 近藤麻理, 知って考えて実践する国際看護, 医学書院, 2011
- その他、適時提示する。

オフィスアワー

16:00 ~ 18:00 に教員の研究室

看護クリティカルシンキング

担当教員

教授 清水裕子

授業概要

思考のスキルとして異文化の中で発達してきた批判的思考（Critical Thinking）は、複雑化する社会において人が十分に機能するために必須の能力である。物事に疑問を持ち、理解し、分析する批判的思考は、自分自身の思考と他者の思考を検討し、洗練していくことでもある。看護師は人々と関わることにより、他者に対する自己の思考の傾向や（枠組みや前提）に気づくとともに、人々のそれに気づくことにより、出来事をより広い視野から系統的に理解するのを助け、よりよい意思決定を導くことが出来る。すなわち、批判的思考は看護師の成長や看護の発展に必要不可欠な技術であるともいえる。本講義では批判的思考の本質を学ぶとともに、看護における批判的思考の意義、重要性、さらに、批判的思考のための基本となる態度と方法について学ぶ。

一般目標

1. 批判的思考の本質を学ぶとともに、看護における批判的思考の意義、重要性について理解する。
2. 他者と自らの思考の傾向とその影響を理解することをとおして、多様な看護の場面において批判的思考を用いるための基本となる姿勢・態度・方法を学ぶ。

行動目標

1. 批判的思考について説明できる。
2. 看護における批判的思考の意義・目的について説明できる。
3. クリティカルシンキングに必要な態度・方法について説明できる。
4. 批判的思考に影響する要因について説明できる。
5. 他者と自分の思考の傾向について批判的に思考できる。
6. 他者と自分との相互作用を批判的に思考しながら、課題に対する発展的・創造的な提言ができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
講義	1	批判的思考 (CT) とは	批判的思考 (CT) の本質とその意義・目的 批判的思考の影響要因・批判的思考の方法と技術	清水
講義	2	看護と批判的思考	看護における批判的思考の意義、重要性との適用・応用 思考のスタイル	清水
演習	3	看護場面と批判的思考 1	批判的思考を用いた看護場面の検討	清水
演習	4	看護場面と批判的思考 2	集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 1	清水
演習	5	相互作用による批判的思考	集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 2	清水
演習	6		集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 3	清水
演習	7		集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 4	清水
演習	8		課題学習の成果の発表・クラス討論	清水

学習方法

日常生活上の身近な体験、さらには経験した看護場면을題材に、批判的思考を用いた時とそうでない時の比較をとおして、体験的に批判的思考について学ぶ。よって自らや他者の思考を批判的に思考することを体験的に学ぶ課題学習、グループワーク形式を多用し、一方的な講義形式は行わない。よって、学生は本講義において特に主体的に学習に取り組む姿勢が要求され、評価の対象になる。

評価方法

クラスへの参加度（出席、課題への取り組み、発問に対する応答）および、課題レポートから、批判的思考の理解度と態度、到達レベルについて総合的に評価する。

教科書及び参考文献

(教科書)

Rosalinda Alfaro-LeFevre, CRITICAL THINKING IN NURSING Apractical Nursing; 江本愛子監訳：アルファロ看護場面のクリティカルシンキング, 医学書院, 1996.

(参考書)

E. B. ゼックミスタ, J. E. ジョンソン, ITP; 宮元博章他訳、あなたの思考をガイドする 40 の原則 入門編クリティカルシンキング, 北大路書房, 1998.

E. B. ゼックミスタ, J. E. ジョンソン, ITP; 宮元博章他訳、あなたの思考をガイドする 40 の原則 実践編クリティカルシンキング, 北大路書房, 1998.

Mary A. Miller, Dorothy E. Babcock, Critical Thinking Applied to Nursing; 深谷計子, 羽山由美子監訳, 看護にいかすクリティカルシンキング, 医学書院, 2002.

イザベル・ブリックス・マイヤーズ著, 園田由紀訳, MBTI タイプ入門第 6 版, Japan Psychologists Press Inc.

オフィスアワー

随時：清水研究室（3階 318 研究室）

看護研究ゼミナール

本年度休講

看護研究基礎論

担当教員

教 授	當 目 雅 代
准 教 授	谷 本 公 恵
授業協力者	香川大学図書館医学部分館

授業概要

看護学の知識体系を構築するために、研究による理論の開発と検証が必要である。看護研究は、看護援助のうえで生じる現象への新たな問題意識を持ち、その問題を解決していこうとするプロセスである。この問題意識の持ち方と解決方法の一連のプロセスについて学ぶ。

一般目標

1. 看護援助に対する現象の科学的根拠を明らかにし、法則性を見いだす能力を養う。
2. 現象の問題解決に向けて、科学的方法を用いて系統的な探求のプロセスを踏む能力を養う。
3. 文献検討を通してエビデンス・ベースド・ナーシングの実践力を養う。
4. 看護学の知識体系構築に向けての看護職者としての役割を理解する。
5. 看護研究を通して、倫理的課題を明確にできる能力を養う。
6. 研究成果を共有するためのプレゼンテーション能力を養う。

行動目標

1. 看護学領域における研究の意義・目的が説明できる。
2. 医学・看護学関連データベースにアクセスして、関心領域の文献を検索できる。
3. 研究の種類・方法および研究過程について説明できる。
4. 看護研究における倫理的配慮の重要性と内容について説明できる。
5. 研究計画書を作成できる。
6. 適切な方法でデータを収集し、分析できる。
7. 研究成果を既存の知識との関連づけて説明できる。
8. グループで研究ができ、成果をプレゼンテーションできる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
看護研究の概要	1	研究の意義と目的	研究とは 研究の種類 研究方法	當 目
	2	研究計画書	研究計画書作成方法	當 目
	3	文献検索法	医学・看護学データベースによる文献検索	香川大学図書 医学部分館
	4	文献検討	文献の読み方	谷 本

	5	研究の倫理	研究における倫理的配慮	谷 本
	6	質的研究	質的研究の方法	當 目
看護研究の プロセス	7	研究計画書作成	研究計画書作成 1	當 目
	8		研究計画書作成 2	當 目
	9	質問紙作成	質問紙作成 1	當 目
	10		質問紙作成 2	當 目
	11	プレゼンテーション技 法	図表作成方法、Power Point を用いたプレゼンテ ーション方法	谷 本
	12	データ入力	EXCEL でのデータ入力方法および実施	谷 本
	13	データ分析	SPSS でのデータ分析方法および実施	谷 本
	14	研究成果のまとめ	研究成果をまとめ	當目・谷本
	15	発表	研究成果のプレゼンテーション	當目・谷本

学習方法； 講義、自己学習、グループ学習、プレゼンテーション

評価方法； プレゼンテーション、出席状況、授業態度、取り組み方等により評価する。

教科書及び参考文献

必携：足立はるゑ：看護研究サポートブック、MCメディカ、2005

参考：

- ・ 松田光信・當目雅代：実践能力を磨く看護研究、KINPODO、2009
- ・ 福原俊一：リサーチクエッションの作り方、健康医療評価研究機構、2008
- ・ 加藤千恵子・石村貞夫 EXCEL で優しく学ぶアンケート調査、東京図書、2003
- ・ 酒井聡樹：これから論文を書く若者のために、共立出版、2002
- ・ Polit DF et al.、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法、医学書院、1994

オフィスアワー

随 時

看護研究（3年生）

担当教員

教 授	峠 哲 男	(コーディネーター)			
教 授	名 越 民 江	田 中 輝 和	内 藤 直 子	當 目 雅 代	
	清 水 裕 子	大 森 美 津 子	大 西 美 智 恵	松 井 妙 子	
准 教 授	筒 井 邦 彦	南 妙 子	谷 本 公 重	越 智 百 枝	
	越 田 美 穂 子				
講 師	金 正 貴 美				
助 教	松 岡 美 奈 子	西 村 美 穂	野 口 英 子	片 山 理 恵	
	栗 納 由 紀 子	栗 原 琴 乃	片 山 陽 子	小 笠 美 春	
	香 川 里 美				

授業概要

本科目では、看護に焦点を当てた学問知識を洗練し、看護の知識体系を他の学問と区別して、看護分野の専門職として責任と権限を持つことができるために、看護研究の方法を習得する。

一般目標

1. 倫理的配慮をしながら、テーマに沿った研究計画を立案し、実践できる。
2. 論文をまとめて、完成することができる。
3. 研究発表の方法が理解できる。

行動目標

1. 研究対象者への倫理的配慮ができる。
2. 研究目的に沿った研究方法を選択できる。
3. 研究計画を立案し研究活動をすることができる。
4. 文献検索と文献検討の結果を研究過程に活用することができる。
5. 研究協力者の必要性和依頼の仕方が説明できる。
6. データの解析、分析を適切な手法により実施できる。
7. 論文の書き方および発表の仕方がわかる。
8. 一連の看護研究活動における研究姿勢について自己評価できる。

授業内容

4年次 必修 2単位（60時間）

大 項 目	回	項 目	内 容	担 当 者
概 要	1	ガイダンス	1. 看護研究Ⅱの学習方法の説明 2. グループ編成 3. 抄録集作成担当係りの選出	峠

展 開	2	看護研究の実際	1. 文献レビュー	峠 田 中 名 越 當 目 清 水 大 森 内 藤 大 西 松 井 筒 井 南 谷 本 越 智 越 田 金 正 松 岡 西 村 片 山 (理) 片 山 (陽) 野 口 栗 納 栗 原 小 笠 香 川
	3		2. 研究計画書の作成	
	4		3. 方法の信頼性と妥当性を検討	
	5		4. 倫理面を検討	
	6		5. 研究対象の検討	
	7		6. 対象の同意書の検討	
	8		7. インタビューガイドの作成および質問紙の構成	
	9		8. 予備的研究の実施	
	10		9. 本研究の開始	
	11		10. データ収集	
	12		11. データ分析	
	13		12. 結果から図表作成	
	14		13. 論文作成	
	15		14. 抄録作成	
	16		15. 学会発表の意義と方法	
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			

学習方法

ガイダンスの後、各指導教員の指導により個人またはグループで研究に取り組む。また、研究成果である研究論文は適切に効果的に批判され、成果を蓄積するために、抄録集担当学生を決める。担当学生は、論文抄録集を製本し、指導教員に配布する。また、一部を看護学科事務に保管する。

評価方法

研究への取り組みおよび研究論文の内容に基づき研究指導担当単位の教員が評価する。

教科書及び参考文献

看護研究 I で使用した参考文献。研究指導担当教員が研究テーマに応じて適宜紹介する。

オフィスアワー

随時

13 教 職 科 目

担当教員

非常勤講師 中西美恵子（関西福祉大学看護学部 教授）

授業概要

学校保健は、学校という組織の中で学校教育の目的を達成するために行われる活動と関連しており、児童生徒等の健康の保持増進のためにとっても重要な分野である。

そこで、学校保健Ⅱでは、学校保健を担う養護教諭としての役割を理解する。そのため本科目では、学校教育の中で子どもの心や体やいのちを守り育てるという専門的な力量を身につけ、子どもの心身の健康課題に取り組んでいけるよう学習する。また、教育実践力を身につけるために教材づくり、模擬授業、授業検討会等を行う。

一般目標

1. 学校保健の重要性やしぐみについて学習し、学校保健・安全計画等についても考える。
2. 学校保健に関わっている人たちと養護教諭の連携を学習し、保護者や地域との連携の方法について考察する。
3. 学校保健の中で、日々行われる養護教諭の活動について学習する。
4. 健康に関する現代的課題を考え、養護教諭の求められている資質について考察する。
5. 児童生徒の心の健康について学習し、その上で養護教諭が行うヘルスカウンセリングの重要性や方法について学習する。
6. 保健学習や保健指導の方法を学習する。
7. 学校の危機管理の対応について学習する。

行動目標

1. 学校保健のしぐみについて説明でき、学校保健・安全計画（案）を作成できる。
2. 保護者や地域との連携について、また学校保健委員会について説明できる。
3. 学校保健の中で、日々行われる養護教諭の活動について説明できる。
4. 健康に関する現代的課題について説明できる。
5. 心の健康について理解し、具体的にヘルスカウンセリングを行うことができる。
6. 保健学習や保健指導を理解し、具体的に行うことができる。
7. 学校の危機管理について学習し、養護教諭としての対応について説明できる。

授業内容

3 年次 前期・自由 1 単位 (15 時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
学校保健のしくみ	1	学校保健のしくみと学校保健・安全計画	学校保健のしくみ、学校保健・安全計画の必要性、学校保健・安全計画の具体的な事例と作成の仕方	中西
連携	2	保護者・地域等との連携	学校医・学校薬剤師・学校歯科医との連携、保護者や地域との連携、ヘルスプロモーション、学校保健委員会	
健康問題	3	体と心の健康問題	保健室登校、いじめ、虐待、不登校などにおける養護教諭の役割 喫煙・飲酒・薬物乱用防止指導 性（エイズを含む）に関する指導	
健康相談	4	健康相談活動の基礎とすすめ方	健康相談活動の定義、心の健康問題の特質・観察・受け止め方・判断・対応の仕方、ヘルスカウンセリングのやり方、記録のとり方 ヘルスカウンセリングの実際（グループで実践）	
健康教育	6	小学校・中学校の保健学習と保健指導	小学校体育科、中学校保健体育科、高等学校保健体育科の保健領域における目標と内容等 小学校の保健指導の目標と内容および指導案の作成 中学校の保健指導の目標と内容及び指導案の作成 発問の仕方、板書の仕方、資料の使い方など グループ別模擬授業の実施と検討会① グループ別模擬授業の実施と検討会②	
危機管理	8	学校の危機管理	学校管理下の事故と災害、防止、災害報告の仕方など	

学習方法

教員が準備する授業資料をもとに講義・ディスカッション等を交ぜながら行う。

評価方法

出席状況、授業態度、課題学習、筆記試験により総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書 資料（適宜配布する）

参考文献 養護教諭養成研究グループ：養護活動の展開 ふくろう出版
出井美智子他：養護教諭のための学校保健 少年写真新聞社

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

養 護 原 論

担当教員

非常勤講師 中西美恵子（関西福祉大学看護学部 教授）
 三浦 恵美子（香川大学教育学部附属特別支援学校 養護教諭）

授業概要

養護教諭の職責や役割・機能について理解を深め、児童・生徒の健康の増進のための健康教育、健康管理について考究する。また、養護教諭としての実践力に必要な理論や基礎となる知識を学習し、養護教諭としての基礎的、応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で研究的な資質・力量を身につける。

一般目標

- 1 養護教諭の役割と機能を理解する。
- 2 養護教諭が学校に配置されることの必要性を理解する。
- 3 養護教諭として果たすべき健康課題、教育課題について学習する。

行動目標

- 1 養護教諭に必要な資質を育成する。
- 2 養護教諭の実践に必要な知識を習得し、養護実習での実践基盤とする。
- 3 養護教諭の活動課題を明確にする。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
1. 養護教諭の役割・機能	1	養護教諭の概念と役割	a) 養護教諭の本質と概念 b) 養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷 c) 教育に果たす養護教諭の役割	中西
	2	養護教諭の職務	a) 養護教諭に必要な資質能力 b) 養護教諭の教育 c) 学校保健に関わる教職員とその役割	中西
2. 学校保健と養護教諭	3	学校保健と養護教諭および養護教諭に必要な知識	a) 学校保健活動と養護教諭 b) 養護教諭の職務に必要な基礎知識	中西

3. 健康の保持 増進への養護	4	保健計画と運営	a) 養護教諭の職務推進 b) 保健室の経営と運営	中西
	5	保健計画と運営	a) 健康実態の把握と課題	中西
	6	養護教諭の執務の実際	a) 保健管理活動 b) 保健教育活動 c) 学校組織活動及び家庭・地域社会との連携	三浦
	7	養護教諭の活動と評価	a) 学校環境衛生活動と養護教諭 b) 食に関する指導と養護教諭 c) 文書作成の基本と広報活動 d) 養護教諭と学校安全活動 e) 養護教諭の活動の評価	中西

学習方法

小児看護学概論、小児援助論、地域看護学概論、学校保健 I を基礎とする。

評価方法

出席回数、受講態度、試験あるいはレポートで総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

三木とみ子編：養護概説，四訂，ぎょうせい，2005

参考書

森昭三：変革期の養護教諭，大修館書店，1999

大谷尚子：養護学概論，東山書房，1997

大谷尚子：養護学・序論，ジャパンシマニスト，2008

大谷尚子他：新養護学概論，東山書房，2009

飯野順子編：養護教諭のための特別支援教育ハンドブック，大修館書店，2007

藤田和也：養護教諭の教育実践の地平，東山書房，1999

藤井寿美子他：養護教諭のための看護学，東山書房，2006

杉浦守邦：養護教諭講座（1）養護概説，東山書房，1999

オフィスアワー

授業終了時

平成 20 年度以前入学生対象
授業科目

14 成人看護学

成人看護学実習

担当教員

教授	當目雅代	教授	清水裕子
講師	金正貴美	助教	野口英子
助教	小笠美春		

授業概要

成人看護学実習Ⅱ・Ⅲでは、臨床において成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、理論、知識、技術を適用して、成人各期にある患者とその家族を多面的、総合的に理解するとともに、対象とその家族の疾病・機能障害の経過別各期（急性期、慢性期、リハビリテーション期、終末期）の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者および人間としての成長・発達を促進する。

一般目標

1. 成人および疾病や機能障害の各期（急性期、慢性期、リハビリテーション期、終末期）にある対象個々とその家族を看護理論、看護モデルを活用して多面的、総合的に理解するとともに、その人らしさ（独自性）を尊重した個別的な看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。
2. 成人および疾病・機能障害の各期にある対象個々とその家族に対する自己や他者の看護体験を考察し、各々の見方・考え方を深める。
3. 保健医療チームの一員として患者とその家族の看護援助および看護管理に参加・協力し、保健医療チームにおいて看護が果たすべき役割を考察する。
4. 自己の看護者および人間としての成長・発達を客観的に捉えるとともに、さらなる成長・発達に向けて自己の課題を考察する。

行動目標

1. 対象個々の発達段階とその特性を踏まえ、現在の生活状況と発達課題の達成状況とともにその人らしさを明らかにできる。
2. 過去から現在、現在から近い将来への生活状況と発達課題の達成状況の変化を明らかにできる。
3. 生活状況の変化、発達課題達成上の変化、ならびにこれらの変化の可能性をもたらす要因を身体的（成長・発達と加齢）、精神心理的・社会経済的（発達・成熟と退行）視点から明らかにできる。
4. 成長・発達の促進、発達課題上の促進と回復、老化の予防およびその人らしさの尊重の視点から個別的援助ができる。

授業内容

4年次 必修 8単位（360時間）平成22年11月から平成23年7月

4年次生の詳細については、「2010年度から2011年度看護学実習の手引き-成人看護学実習の項」を参照

学習方法

第1週目：学内・病棟オリエンテーション、病棟実習での患者ケア、看護過程の展開

第2週目：病棟での患者ケア、病棟中間カンファレンス、個別指導、中間評価

第3週目：病棟実習での患者ケア、最終カンファレンス、個別指導、最終評価

評価方法

実習態度、日々の看護記録、看護過程の展開、ケースレポートなどを総合的に評価する。
また、急性期および慢性期評価表に基づいて学生・教員間で評価を共有する。

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

オフィスアワー

随時

15 老年看護学

老年看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授 大 森 美津子
助 教 西 村 美 穂

授業概要

老年看護学実習は、人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、老化や健康障害による問題を把握し、対象となる人の価値観を尊重した対応を習得することを目的とする。

本実習では、地域で生活をする高齢者の特徴と老化、健康レベルに応じた援助を考察する。

一般目標

1. 疾病や機能障害のある高齢者とその家族を、発達段階、老化現象、対象者の個別性等も踏まえて総合的に理解する。
2. 対象理解を行った上で対象の持つ問題を明らかにし、継続看護が行える基礎的能力を養う。

行動目標

1. 疾病や治療の概略を説明できる。
2. 対象者の発達段階について述べることができる。
3. 老化現象が対象者に及ぼしている影響について説明できる。
4. 在宅で療養生活を営む高齢者の状況について述べることができる。
5. 高齢者の在宅での生活や通院に伴う看護に関わる問題について述べることができる。
6. 疾病や機能障害のある高齢者を抱える家族の問題について述べることができる。
7. 対象者やその家族の特性を踏まえて、その個別性を尊重した援助について考えることができる。
8. 高齢者に対する医療・保健・福祉の連携について述べることができる。
9. 高齢者や家族の感染予防と安全対策について述べることができる。
10. 対象者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。
11. 老年観について述べることができる。

実習内容

(簡潔に記入して下さい)

授業内容

4年次 必修 1単位 (45時間)

学習方法

(簡潔に記入して下さい)

評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

1. 川島みどり 監訳：ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
 2. 久間圭子 訳：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 生活行為に基づくイギリスの看護、日本看護協会出版会、2006
 3. 久間圭子：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程、メディカ出版、2007
 4. 介護保険研究会：新しい介護保険制度Q&A 平成17年改正法の要点、中央法規出版、2006
 5. 山崎摩耶：新版 ケアマネジャーバイブル、日本看護協会出版会、2006
- その他、既習の看護学及び関連分野の教科書・推薦参考書。

オフィスアワー

前期・月曜日 16時20分～17時20分

16 小児看護学

小児看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授 ()
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 ()

授業概要

本実習は、小児と家族への基礎的看護実践能力と問題解決能力の育成を目的とする。小児の健康障害について科学的根拠に基づきアセスメントできる能力と看護診断能力を養い、健康障害が及ぼす小児とその家族に対する現在および将来の健康問題を包括的に理解する。さらに小児とその家族の発達段階や健康レベルに応じた適切な看護を計画・実践・評価できる基礎的知識・技術・態度を身につける。また、医療チームの一員としての小児看護の役割と責任についての理解を深める。

一般目標

1. 小児とその家族の健康障害による現在および将来の健康問題のアセスメントと看護診断について学ぶ。
2. 小児とその家族の健康障害に対する看護介入を計画・実践・評価する方法について学ぶ。
3. 医療チームの一員としての小児看護の役割を理解し、看護活動に協働する態度を習得する。

行動目標

Ⅱ 行動目標

1. 全体の行動

小児病棟・外来において行われる患児と家族への看護を通して、以下の目標を達成する。

- 1) 小児病棟と外来の役割と機能および看護活動の実際を理解する。
- 2) 健康障害を有する小児と家族の療養上の問題を理解し、小児と家族の発達課題の達成を促進するための看護の役割と援助活動を学ぶ。
- 3) 小児病棟において行われる小児看護技術の実際を学び、基礎的知識と応用技術の適合を図る。
- 4) 小児看護における感染防止の必要性を理解し、実践できる。
- 5) 小児の安全を守るために事故防止のための援助が実践できる。
- 6) 医療チームの一員として、協働して看護活動が実践できる。

2. アセスメント

- 1) 小児の成長発達を観察し、アセスメントできる。
- 2) 小児の健康障害の状況を疾患の病態生理、症状、治療方針から理解し、現在の問題および予測される問題をアセスメントできる。

- 3) 小児の注意すべき症状を観察し、アセスメントできる。
 - 4) 家族が抱えている問題を総合的に理解し、援助すべき問題をアセスメントできる。
 - 5) 小児の健康問題を適切に看護診断できる。
 - 6) 看護診断に基づいて適切な看護計画を立案できる。
3. 実践
- 1) 小児の発達段階や心理的特徴を理解し、その患児に応じたかかわりやコミュニケーションを工夫し、発達を促進するための適切な援助ができる。
 - 2) 立案した看護計画に基づいて安全や安楽性、プライバシーをふまえ、看護を実践できる。
 - 3) 小児の QOL やセルフケア能力を考慮した日常生活の援助ができる。
 - 4) 小児に適した遊びや生活指導を計画・実践できる。
4. 倫理的配慮
- 1) 小児や家族に対する倫理的配慮に基づいた看護が実践できる。
 - 2) 小児と家族の個人情報の保護について配慮できる。

授業内容

3・4年次 必修 2単位 (90時間)

実習方法

(簡潔に記入して下さい)

学習方法

(簡潔に記入して下さい)

評価方法

評価は実習到達度、記録類、態度・出席日数等により総合的に判断して評価する。

教科書及び参考文献

- 中野綾美：小児の発達と看護、メディカ出版
中野綾美：小児看護技術、メディカ出版
及川郁子監修：健康な子どもの看護、メヂカルフレンド
及川郁子監修：病と共に生きる子どもの看護、メヂカルフレンド
及川郁子監修：発達に障害のある子どもの看護、メヂカルフレンド
及川郁子監修：予後不良な子どもの看護、メヂカルフレンド

その他、小児看護学概論、小児援助論Ⅰ・Ⅱ等で示した資料や関連図書

17 母性看護学

母性看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授	内 藤 直 子
准 教 授	佐々木 睦 子
助 教	片 山 理 恵

授業概要

学生は、周産期にある女性および家族の看護を体験し、既習の母性看護学の知識・技術、並びに関連分野の知識を統合させ、母性の **well-being** がより望ましく **wellness** 型で発達段階へ移行するような看護実践力を学習する。

一般目標

1. リプロダクティブヘルスの観点から、周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけるために、対象の健康レベルの変化や、内的・外的刺激への適応レベルを **wellness** な視点からアセスメントする。
2. 母性看護学の意義や理論と、臨地での実習体験を統合するために、ロイ適応看護モデルと **wellness** 型看護診断に基づくマタニティ診断をクリティカルに用いて看護過程を展開し、効果的な看護介入を実践する。
3. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できる。

行動目標

1. 到達目標

- 1) 周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加する。
- 2) **wellness** な視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入をする。
- 3) 母子関係、および家族関係の成立状況や心理的変化を観察し、看護介入が実施できる。
- 4) 母子保健医療チームの一員として、母子保健の関連法規、および他職種の役割、他職種との相互連携について理解できる。
- 5) 受け持ち事例をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できる。

2. 各期別到達目標

1) 妊婦の看護

在宅妊婦及び胎児の健康上の問題を正しく理解し、妊娠によって起こる変化に対する妊婦・胎児の適応状況を理解する。

2) 産婦の看護

- (1) 分娩期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化(刺激)から、対象の適応状況を評価できる。
- (2) 産婦の看護の必要性を見だし、適応状態に合致した看護介入の方法が理解できる。
- (3) 産婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解できる。

3) 褥婦の看護

- (1) 産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化(刺激)から、対象の適応状況を考察する。
- (2) 褥婦の看護の必要性を見だし、その適応状態から、必要な援助方法を工夫し実施する。
- (3) 産褥期の心理社会状況を理解し、MFICU入院の褥婦と新生児、又はNICU入院の出生児との母子関係や家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を考察する。
- (4) 産褥期をとおして関わった他職種の役割、相互連携の重要性を理解する。

4) 新生児の看護

- (1) 新生児の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解する。
- (2) 新生児の看護の必要性を見だし、看護介入の方法を理解する。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位(90時間)

実習方法

(簡潔に記入して下さい)

学習方法

(簡潔に記入して下さい)

評価方法

出席状況、看護過程の理解度と展開状況、臨地実習への意欲などを総合して評価する。

教科書及び参考文献

母性看護学概論、母性援助論Ⅰ、母性援助論Ⅱで提示した、資料や参考書を効果的に活用していただきたい。関連図書や他領域の文献を参照することが望ましい。

オフィスアワー

実習期間中、毎日 16 : 00 ~ 17 : 00 の間に、適時教員研究室にお越してください。

18 地域看護学

地域看護学特論

担当教員

教授	大西 美智恵
教授	松井 妙子
准教授	越田 美穂子
学内講師	片山 陽子
教授	真鍋 芳樹 (アドミッションセンター)

授業概要

ライフサイクルに応じた保健活動や健康を支援する法律および政策や、個人・家族を対象とした保健指導のポイントを学ぶ。

一般目標

1. 各ライフサイクルにおける健康問題の特徴を理解する。
2. セルフケア能力が高まる保健指導を理解する。
3. 各ライフステージに多い健康障害を理解する。
4. 各ライフステージにおける保健指導に必要な疫学・統計について理解する。

行動目標

- 1) 生涯を通じた健康を支援する法および主な保健政策について説明できる。
- 2) 各ライフステージに多い健康障害について説明できる。
- 3) 保健指導に必要な疫学・統計について説明できる。

授業内容

4年次 後期・自由 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ライフサイクルに応じた保健指導の理論と実際	1	地域看護学 I, II 保健福祉行政論	1. 地域看護学の理念・目的・活動 2. 地域看護学の歴史 3. 保健福祉行政	大西
	2	母子保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	越田
	3	成人・高齢者 保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	越田

4	難病・障害者 保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	大 西
	災害時・感染症・結 核保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	松 井
5	在宅ケア・在宅看護	6.目的 7.方法 8.法的根拠 9.保健活動の動向 10.保健師の役割	片 山
6 7 8	疫学・保健統計領域	疫学の概念 疫学調査法 疾病の疫学 保健統 計調査	真 鍋

学習方法

講 義

15時間を2日で展開するので1日当たり講義時間が7.5時間となる。履修にあたり関連する既習科目を復習しておくことが望ましい。

評価方法

テストによる。

教科書及び参考文献

教科書

厚生統計協会編：国民衛生の動向 厚生統計協会、最新版

厚生統計協会編：国民福祉の動向、厚生統計協会、最新版

参考書

柳澤健一郎、他編：衛生行政大要、日本公衆衛生協会 最新版

門脇豊子・清水嘉与子・森山弘子編：看護法令要覧、日本看護協会出版会、最新版

医学書院：標準保健師講座1～3

中谷芳美他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

オフィスアワー

講義終了後2時間程度

担当教員

教授	大西 美智恵
教授	松井 妙子
准教授	越田 美穂子
助教	片山 陽子

授業概要

公的保健機関や、保健福祉施設での保健活動の実際を体験し、地域看護学で学習した地域の人々の健康な暮らしを支援するための理念を理解し、地域看護活動の技術を習得する。

さらに、地域保健活動における保健師の役割を理解する。

また、在宅療養者およびその家族への理解を深め、質の高い在宅ケアを継続していくために必要となる看護が実践できる基礎的能力を養う。さらに対象者への援助の展開をととして保健・医療・福祉の包括的支援の必要性と連携の実際について学ぶ。

一般目標

- 1) 地域保健活動の実践機関としての保健所および市・町保健センターの機能と地域保健活動の実際を理解する。
- 2) 個人・家族が生活している地域のヘルスニーズを理解するとともに、地域保健活動の展開方法を学ぶ。
- 3) 公衆衛生看護活動で用いられる援助方法を学ぶとともに人々の行動の変容やセルフケア能力の高まる援助について理解する。
- 4) 家族を単位とした健康問題の把握と、問題解決のための計画・実施・評価の過程を学ぶ。
- 5) 他機関で提供されている地域看護活動の実際を学ぶとともに、連携の必要性を理解する。
- 6) 地域の人々の健康を支えるメンバーの一員として、保健師の果たす役割を理解する。
- 7) 訪問看護活動を通して在宅療養者、およびその家族の生活を取り巻く環境と暮らし方や生き方に気づくことができる。
- 8) 在宅療養者およびその家族のケアニーズを把握し、生活実態やその人らしさを生かした訪問看護の必要性を理解できる。
- 9) 在宅療養者の健康問題の原因や程度・現在の状態から、ケアニーズを把握し、必要な看護・介護の内容が理解できる。
- 10) 訪問看護活動を通して在宅で行う看護技術の特徴と方法を理解できる。
- 11) 訪問看護活動を通して、保健・医療・福祉の連携の重要性を理解するとともに、その中での看護の役割を考えることができる。
- 12) 社会資源の活用状況・家族機能・家族の介護状態から、看護・介護が提供されている根拠が理解できる。

行動目標

- 1) 保健機関の機構・機能を理解できる。
- 2) 保健事業の概要を理解できる。
- 3) 保健活動の財政的基盤とマンパワーについて理解できる。
- 4) 保健活動における保健所と市町の役割と連携について理解できる。
- 5) 地域（管内及び受持ち地区）の特性を理解し、説明できる。
- 6) 地域（管内及び受持ち地区）におけるヘルスニーズのアセスメント・抽出ができ、その対策を立案することができる。
- 7) 保健師の行っている業務を理解し、説明できる。
- 8) 健康相談の方法と保健指導を理解し、説明できる。
- 9) 集団を対象とした健康診査の方法と保健指導について理解し、説明できる。
- 10) 集団を対象とした健康教育の方法と教育的技術について理解し、説明できる。
- 12) 小集団及び地区組織活動の現状と保健師の関わりについて理解できる。
- 13) 8) から 12) の保健指導の場面をとおして、健康行動の変容やセルフケア能力が高まる援助方法を理解できる。
- 14) 個人・家族を取り巻く状況を把握し、説明できる。
- 15) 個人・家族の看護上のニーズを把握し、訪問計画が作成できる。
- 16) 個人・家族と目標を共有しながら援助する過程が理解できる。
- 17) 個々の家庭に合った援助の方法を考えることができる。
- 18) 個々の家庭に合った資源の活用やケアシステムを考えることができる。
- 19) 地域の人々の健康を支えるメンバーの一員としての保健師の果たす役割を理解し、説明できる。
- 20) 訪問看護活動を通して在宅療養者、およびその家族の生活を取り巻く環境と暮らし方や生き方に気づき、説明することができる。
- 21) 在宅療養者およびその家族のケアニーズを把握し、生活実態やその人らしさを生かした訪問看護の必要性を理解し、説明できる。
- 22) 在宅療養者の健康問題の原因や程度・現在の状態から、ケアニーズを把握し、必要な看護・介護の内容を理解し、説明できる。
- 23) 訪問看護活動を通して在宅で行う看護技術の特徴と方法を理解できる。
- 24) 訪問看護活動を通して、保健・医療・福祉の連携の重要性を理解するとともに、その中での看護の役割を考え、理解することができる。
- 25) 訪問看護ステーションにおける在宅療養者へのケアの実際を学び、医療機関との連携の必要性について理解できる。
- 26) 社会資源の活用状況・家族機能・家族の介護状態から、看護・介護が提供されている根拠が理解できる。

評価方法

実習目標到達度を実習記録、実習態度、レポートなどを対象に総合的に評価する。

教科書及び参考文献

各授業で紹介した図書および資料

19 精神看護学

精神看護学実習Ⅱ

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

学内で講義や演習をとおして学んできた知識や技術を実習の場で適用し統合する。精神看護学実習Ⅱでは、対象を全体的に理解し、看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。さらに対象との関わりの中で自己を振り返る機会とする。

一般目標

- 1 対象を全体的に理解し、看護過程の展開を行う。
- 2 看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。
- 3 対象との関わりから自己を振り返る。
- 4 治療活動の理解とそこでの看護者の役割を学ぶ。

行動目標

- 1 精神保健医療上の問題が対象の日常生活や対人関係にどのように影響しているかを述べることができる。
- 2 対象の生活史・家族背景・社会的背景などを理解し、精神保健医療上の問題との関連が検討できる。
- 3 対人関係理論・セルフケア理論を用い、援助の視点を見いだすことができる。
- 4 看護師－患者関係をもとに対象と関わるができる。
- 5 対象との関わりの中で生じる自分の気持ちや自己の持つ価値観、対人傾向などを振り返ることができる。
- 6 病棟や施設で行われる治療的活動が対象にとってどのような意義があるか説明できる。
- 7 対象と関わる保健医療チームメンバーの役割を述べるができる。
- 8 保健医療チームメンバーと協調しながら実習ができる。
- 9 毎日のカンファレンスに積極的に参加し、自己や他者の体験を共有できる。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位（90時間）

2週間の病棟実習を行う。受け持ち患者の状況に応じて、施設見学を行う。実習方法、内容などについては後日提示する。

実習方法

病棟実習、施設見学、カンファレンス、自己学習を組み合わせで行う。これまでの講義や演習、実習を通して学んできた内容を相互関連させて対象の理解や援助に生かしていく。

評価方法

実習状況、実習記録、事後レポート、カンファレンスへの参加状況、出席状況などにより評価する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法―
- 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

参考図書は適宜紹介する。

20 看護管理 ・ 教育学

	7	法的責任とリーダーシップ	看護管理における法的責任とリーダーシップ	非常勤 講師
	8	倫理的諸問題	医療・看護管理における倫理的諸問題	非常勤 講師

学習方法

講義およびグループ討議

評価方法

出席状況、レポート、筆記試験等による総合評価

教科書及び参考文献

・系統看護学講座、統合分野 看護管理、医療安全、 医学書院

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階517研究室）

21 総合看護学

看護クリティカルシンキングⅡ

担当教員	地域看護学	教授	松井 妙子
	地域看護学	教授	大西 美智恵
	地域看護学	准教授	越田 美穂子
	精神看護学	准教授	越智 百恵
	地域看護学	学内講師	片山 陽子

授業概要

今年度は、地域看護学と精神看護学が担当する。本科目では、看護クリティカルシンキングⅠで学んだ批判的思考の基本となる態度と方法を応用して、看護に関する疑問、問題に感じた場面・状況・事柄を熟考し、クリティカルシンキング能力を高めることを目的としている。多様な情報を科学的根拠や理論に基づいて整理するために、クリティカルシンキングを活用して看護への理解を深めることが期待される。

一般目標

多様な看護の対象によりよい看護を提言・提供するために、学生個々の関心のある看護領域における課題を追究し、クリティカルシンキング能力を養う。

行動目標

1. クリティカルシンキングによって看護の課題を明らかにし、課題達成のための目標、方法を計画できる。
2. 課題を達成するために、クリティカルシンキングによって必要な知識を明らかにし、それらの知識を収集し、活用できる。
3. 信頼性の高い情報を入手し活用できるために、エビデンス・ベースド・ナーシングについて学習する。
4. クリティークするテーマ・課題についてのグループ討議を通して、自分と他者の意見の相違やその要因を述べることができる。
5. 学習の全過程を通して、自分の思考の傾向・パターンに気づき、クリティカルに思考するための自己の課題を述べることができる。

授業内容

4年次 後期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
導入	1	ガイダンス	各看護学領域における看護クリティカルシンキングの進め方と計画	担当教員
	2		臨床実習での場面を想起し、テーマを考える	
実践	3	クリティカルシンキングの実践1	テーマに沿って文献を収集する	担当教員
	4		テーマに沿って文献を検討し、クリティカルシンキングする。	
	5	クリティカルシンキングの実践2	発表に向けてクリティカルシンキングをまとめる。	担当教員
	6			
	7	統合	発表	担当教員
	8			

学習方法

ガイダンスの後、自分の関心のある内容に基づいて各看護学領域を選択し、選択した看護学領域の教員の指導の元に、各自がクリティカルシンキングのための演習に取り組む。ガイダンスなど、詳しい日程については掲示する。講義、学生の主体的学習、グループ学習、レポートなど。

授業の性格上、1教員10名程度を担当するよう精神看護学と地域看護学とで人数調整を行う場合がある。

評価方法

グループ討議や討議における意図的、目標指向的思考に基づく討議の参加度と貢献度、ならびに自己評価などによる目標達成度などから総合的に評価する。

参考文献

看護クリティカルシンキング I で使用した参考文献。その他、ガイダンス時に提示する。

オフィスアワー

授業終了後、1時間

看護研究Ⅱ

担当教員

教授	大西美智恵 (コーディネーター)				
教授	名越民江	峠哲男	田中輝和	内藤直子	
	松井妙子	大森美津子	清水裕子		
准教授	筒井邦彦	南妙子	越田美穂子	谷本公重	
	越智百枝				
講師	金正貴美				
講師(学内)	片山陽子				
助教	松岡美奈子	粟納由紀子	香川里美	野口英子	
	小笠美春	西村美穂	栗原琴乃	片山理恵	

授業概要

看護実践の基礎となる知識体系を発展させて、看護哲学や看護理論あるいは看護の知識体系に基づき、既存の知識を確認したり洗練させたり、あるいは新しい知識を生み出す看護研究の基礎的な能力を養うための考え方や展開方法を修得する。

一般目標

1. 倫理的配慮をしながら、テーマに沿った研究計画を立案し、実践できる。
2. 論文をまとめて、完成することができる。
3. 研究発表の方法が理解できる。

行動目標

1. 適切にテーマを絞り込むことができる。
2. 研究目的に沿った研究方法を選択できる。
3. 研究計画を立案し研究活動をすることができる。
4. 文献検索と文献検討の結果を研究過程に活用することができる。
5. 研究対象者への倫理的配慮ができる。
6. 研究協力者の必要性和依頼の仕方が説明できる。
7. データの解析、分析を適切な手法により実施できる。
8. 論文の書き方および発表の仕方がわかる。
9. 一連の看護研究活動における研究姿勢について自己評価できる。

授業内容

4年次 必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
概要	1	ガイダンス	1. 看護研究Ⅱの学習方法の説明 2. グループ編成 3. 抄録集作成担当係りの選出	大西
展開	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	看護研究の実際	1. 文献レビュー 2. 研究計画書の作成 3. 方法の信頼性と妥当性を検討 4. 倫理面を検討 5. 研究対象の検討 6. 対象の同意書の検討 7. インタビューガイドの作成および質問紙の構成 8. 予備的研究の実施 9. 本研究の開始 10. データ収集 11. データ分析 12. 結果から図表作成 13. 論文作成 14. 抄録作成 15. 学会発表の意義と方法	峠田中 名越 當目 大森 内藤 松井 清水 筒井 南 谷本 越智 越田 金正 片山 ^陽 松岡 西村 片山 ^理 野口 栗納 栗原 小笠 香川

学習方法

ガイダンスの後、各指導教員の指導により個人またはグループで研究に取り組む。また、研究成果である研究論文は適切に効果的に批判され、成果を蓄積するために、抄録集担当学生を決める。担当学生は、論文抄録集を製本し、指導教員に配布する。また、一部を看護学科事務に保管する。

評価方法

研究への取り組みおよび研究論文の内容に基づき研究指導担当単位の教員が評価する。

教科書及び参考文献

看護研究Ⅰで使用した参考文献。研究指導担当教員が研究テーマに応じて適宜紹介する。

オフィスアワー

随時

担当教員名

教 授 田 中 輝 和
准 教 授 越 田 美穂子

授業概要

最新の看護領域の研究を理解できるように、和文または英文の研究論文の読み方、研究的視点での批判・批評の意義とその方法を学習する。和文の講読は原著論文の批判的読み方を講義する。その後、個人で関心のある和文を量的研究、質的研究から1つずつ選択し、批判的に読み解く。英文の講読は、前半は、グループに分かれて各グループ別に興味のある英語論文をインターネットの検索システムを通じて取得し、翻訳を行い、次回の授業において翻訳内容についてグループごとに発表を行う。翻訳の仕方、論文内容の理解度について指導教員からの助言、指導を受ける。後半では看護関連の質的研究、量的研究に関する英語論文を読むことで、看護理論、概念の操作的定義、概念枠組み、統計法などについて学びを深め、看護学の研究手法やパラダイムへの理解を進める。

一般目標

研究論文の構造の理解に基づき、論文に対する基礎的な知識の習得を通して批判・批評的に分析し、講読内容をまとめ、発表および討論できる能力を養う。英文では、辞書を用いての翻訳に慣れると共に、看護研究に関連する英単語、論文の表現方法や記述スタイルについての知識を深める。

行動目標

1. 看護における関心領域の研究論文をインターネット（医学系データベース）を使って検索することができる。
2. 研究論文の一般的な構造（はじめに、研究方法、結果、考察、結論）が分かる。
3. 辞書を用いて看護関連の英語論文の翻訳ができる。
4. 英語論文の内容について、要点をまとめて発表ができる。
5. 看護関心領域の文献を批判・批評的に分析し、発表できる。
6. 看護学の研究手法について理解できる。

授業内容

4年次 後期・選択 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
原著論文講読の方法	1	ガイダンス	講義の目的と概要、評価方法について説明し、グループ分けを行う。 グループに分かれて発表論文の検索を行う。 原著論文の批判的読み方について	越田
	2	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 1	越田
	3	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 2	越田
	4	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 3	越田
	5	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 1	田中
	6	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 2	田中
	7	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 3	田中
	8	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 4	田中

学習方法

1. 自己学習を行い、レポートを作成する。
2. 英文論文は、グループ単位で英文を翻訳し、次回の授業で内容について日本語で発表を行なう。
翻訳や論文内容について教員から助言、補足を受ける。
3. 発表においては、なるべく質問や批評を行うように促す。

評価方法

1. 出席と授業の準備、参加態度などにより総合的に評価する。
2. 和文論文は個人で、英文論文はグループでレポートを提出する。

教科書及び参考文献

1. これから論文を書く若者のために 増補版、共立出版、酒井聡樹著（2006）
 2. 基本医学英語のマスター 改訂2版、金芳堂、横井川泰弘著（2003）
 3. 研究社ニューカレッジ英和辞典
 4. 南山堂英和医学辞典
- その他、適時資料を提示する。

オフィスアワー

田中 : 毎週月曜日 午後3-5時
越田 : 随時

22 教 職 科 目

養護実習

担当教員

教授	大西美智恵
教授	名越民江
准教授	越田美穂子
助教	香川里美
助教	野口英子

授業概要

児童生徒の健康の保持増進のための、保健教育および保健管理の実際を体験し、児童生徒の心身の成長・発達や健康維持および健康上の課題に対する指導や支援のあり方について理解する。そのために、学校教育全体の組織、運営を理解するとともに、学校保健安全計画の実践に参加し、学校保健安全活動における養護教諭の役割と機能、活動内容および方法を学習する。

さらに、実習経験に基づいて養護教諭としての自覚を高め、教育者としての倫理観や人間性を学ぶ。

一般目標

1. 成長・発達過程にある児童・生徒の特性や学校生活について学ぶ。
2. 学校保健安全活動における養護教諭の役割について学ぶ。
3. 保健室の管理・運営および機能について学ぶ
4. 児童生徒への保健教育について学ぶ。
5. 学校保健全般に関わる組織・運営・計画について学ぶ。
6. 学校保健安全活動と校内および地域の社会資源との連携を学ぶ。

行動目標

1. 児童生徒と積極的に触れ合い、関わりを持つことで児童生徒を理解できる。
2. 一日・一週間・学期および年単位での児童生徒の健康な学校生活を理解できる。
3. 児童生徒が快適な学校生活を送るための学校環境衛生・安全点検の具体について理解できる。
4. 定期（臨時）の健康診断の結果に基づく、疾病の予防処置や適切な措置について理解できる。
5. 感染症や集団食中毒の予防や早期発見、適切な対応と事後処理について理解できる。
6. 養護教諭の一日、一週間の動きを理解できる。
7. 学校の実態に即した保健室経営案の立案・教職員への説明および評価について理解できる。
8. 保健室の環境整備と、薬品や衛生材料の保管について理解できる。
9. 救急処置の実際や対応、事後処理および救急体制について理解できる。
10. 保健室における健康相談活動の特徴と方法および事後処理について理解できる。 1
11. 望ましい生活習慣の育成と継続のための支援方法について理解できる。
12. 養護教諭の専門性を生かした保健学習の授業を実施できる。
13. 学校教育全体の組織・運営のあり方について理解できる。

14. 学校保健安全計画の企画・運営・評価について理解できる。
15. 校内の運営組織との連携について理解できる。
16. 児童生徒の保護者との連携方法について理解できる。
17. 地域の関係諸機関の活用方法や連携について理解できる。

実習方法

「養護実習」要項を参照

学習方法

「養護実習」要項を参照

評価方法

実習生の実習活動の内容全般にわたって、総合的に成績を評価する。

教科書及び参考文献

各授業で紹介した図書および資料

年間時間割カレンダー

【注意！】

これらは、平成 23 年 3 月 4 日(金)現在で決定している内容です。掲載されている以外にも時間変更される場合がありますので、各自必ず掲示板を確認してください。

平成23年度 講義・実習時間割 1年次生

1学期

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
4月6日 水	定期健康診断				
4月11日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月13日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
4月18日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月20日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	看護学概論 (名越) 臨2, 209 ≪三大学連携授業≫	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
4月25日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月27日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	看護学概論 (名越) 臨2, 209 ≪三大学連携授業≫	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
5月2日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月4日 水	みどりの日				
5月9日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月11日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	看護学概論 (名越) 臨2, 209 ≪三大学連携授業≫	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
5月16日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月18日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	看護学概論 (名越) 臨2, 209 ≪三大学連携授業≫	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
5月23日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月25日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
5月30日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月1日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
6月6日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月8日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
6月13日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月15日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
6月20日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月22日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
6月27日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月29日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
7月4日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月6日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
7月11日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月13日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
7月18日 月	海の日				
7月20日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
7月25日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月27日 水	教養ゼミナール (峠, 大西他) 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 臨2, 209	全学共通科目 学問基礎科目 「情報科学A」 (筒井・大西(平), 他) マルチ	
8月1日 月	第1学期末試験				
8月3日 水	"				

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

9月20日 火	基礎看護学早期体験実習
9月21日 水	基礎看護学早期体験実習
9月22日 木	基礎看護学早期体験実習
9月26日 月	基礎看護学早期体験実習

2学期

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
10月3日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		成人看護学概論 (清水) 209
10月5日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月10日 月	体育の日				
10月12日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月17日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		成人看護学概論 (清水) 209
10月19日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月24日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		成人看護学概論 (清水) 209
10月26日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月31日 月	香大祭(11月1日へ振替)→香大祭(臨時休業)				
月曜日振替 11月1日 火		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		成人看護学概論 (清水) 209
11月2日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月7日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月9日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月14日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月16日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月21日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月23日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井,他) 209	形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月28日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月30日 水		薬剤療養学 (筒井,他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
12月5日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠,筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	基礎保健学 (大西) 209
12月7日 水		薬剤療養学 (筒井,他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
12月12日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	基礎保健学 (大西) 209
12月14日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
12月19日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	基礎保健学 (大西) 209
金曜日振替 12月21日 水					
1月11日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
1月16日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		基礎保健学 (大西) 209
1月18日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
1月23日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		基礎保健学 (大西) 209
1月25日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
1月30日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		基礎保健学 (大西) 209
2月1日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
2月6日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		基礎保健学 (大西) 209
2月8日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209	基本援助技術論 (南) 209	
2月13日 月	第2学期末試験				
2月15日 水	"				
2月20日 月	第2学期末 授業補講・試験予備日				
2月22日 水	"				

平成23年度 講義・実習時間割 2年次生

前期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月4日 月					
4月5日 火					
4月6日 水	授業ガイダンス				
4月7日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
4月8日 金	基礎看護学方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	定期健康診断 (午後休講)		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月11日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
4月12日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月13日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當日) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月14日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
4月15日 金	基礎看護学方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月18日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
4月19日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月20日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當日) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月21日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
4月22日 金	基礎看護学方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月25日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
4月26日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月27日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月28日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
4月29日 金	昭和の日				

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月2日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
5月3日 火	憲法記念日				
5月4日 水	みどりの日				
5月5日 木	こどもの日				
5月6日 金	基礎看護学方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月9日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
5月10日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月11日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月12日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
5月13日 金	基礎看護学方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月16日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
5月17日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月18日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月19日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
5月20日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月23日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
5月24日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月25日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月26日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 209
5月27日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月30日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
5月31日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
6月1日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
6月2日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	小児看護学概論 (祖父江) 209
6月3日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月6日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
6月7日 火	生活援助技術論 (南) 209	生活援助技術論 (南) 209	微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
6月8日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	小児看護学概論 (祖父江) 301	成人急性期援助論 (當目) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
6月9日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
6月10日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月13日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
6月14日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
6月15日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月16日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
6月17日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月20日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
6月21日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
6月22日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月23日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
6月24日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月27日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
6月28日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
6月29日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月30日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
7月1日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月4日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
7月5日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
7月6日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月7日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
7月8日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月11日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
7月12日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
7月13日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月14日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
7月15日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
7月18日 月	海の日				
7月19日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
7月20日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月21日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	
7月22日 金	基礎看護方法論 (名越, 他) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
7月25日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
7月26日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209	
7月27日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井, 他) 209		成人急性期援助論 (當目) 301	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月28日 木	第一学期末試験				
7月29日 金	第一学期末試験				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
8月1日 月	第一学期末試験				
8月2日 火	第一学期末試験				
8月3日 水	第一学期末試験				
8月4日 木	看護とコミュニケーション				
8月5日 金	看護とコミュニケーション				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月5日 月	基礎看護学実習				
9月6日 火	基礎看護学実習				
9月7日 水	基礎看護学実習				
9月8日 木	基礎看護学実習				
9月9日 金	基礎看護学実習				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月12日 月	基礎看護学実習				
9月13日 火	基礎看護学実習				
9月14日 水	基礎看護学実習				
9月15日 木	基礎看護学実習				
9月16日 金	基礎看護学実習				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月19日 月	敬老の日				
9月20日 火	補講期間				
9月21日 水	社会福祉・社会保障論				
9月22日 木	社会福祉・社会保障論				
9月23日 金	秋分の日				

第2学期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月26日 月	社会福祉・社会保障論				
9月27日 火	社会福祉・社会保障論				
9月28日 水	社会福祉・社会保障論				
9月29日 木	社会福祉・社会保障論				
9月30日 金	社会福祉・社会保障論				

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月3日 月		基礎看護技術論 (南) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
10月4日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
10月5日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月6日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
10月7日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Wiley・長井)209,301,305	医学部祭 (午後休講)		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月10日 月	体育の日				
10月11日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
10月12日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月13日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
10月14日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月17日 月		基礎看護技術論 (南) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
10月18日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
10月19日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月20日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
10月21日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月24日 月		基礎看護技術論 (南) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
10月25日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
10月26日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月27日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
10月28日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月31日 月		基礎看護技術論 (南) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	母性疾病論 (秦, 内藤) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
11月1日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
11月2日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月3日 木	文化の日				
11月4日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月7日 月		基礎看護技術論 (南) 305			小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
11月8日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
11月9日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月10日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
11月11日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月14日 月		基礎看護技術論 (南) 305			小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
11月15日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
11月16日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月17日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
11月18日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月21日 月		基礎看護技術論 (南) 305			小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305
11月22日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
11月23日 水	勤労感謝の日				
11月24日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
11月25日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	推薦入試準備		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月28日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
11月29日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
11月30日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
12月1日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
12月2日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月5日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
12月6日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
12月7日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
12月8日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
12月9日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月12日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
12月13日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
12月14日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
12月15日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
12月16日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月19日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
12月20日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
金曜日振替 12月21日 水		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	
12月22日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
12月23日 金	天皇誕生日				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月2日 月	冬期休業→冬季休業				
1月3日 火	"				
1月4日 水	"				
1月5日 木	"				
1月6日 金	"				

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月9日 月	成人の日				
金曜日振替 1月10日 火		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (当日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	
1月11日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
1月12日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
1月13日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	センター試験準備		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月16日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
1月17日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
1月18日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
1月19日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
1月20日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (当日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月23日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
1月24日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
1月25日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下 ※藤本, ※馬場) 301		
1月26日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~IV時限)・全学共通科目開講日)				
1月27日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)209,301,305	成人リハビリテーション期 援助論 (当日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月30日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	基礎保健学 (大西) 305
1月31日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209		
2月1日 水	補講期間				
2月2日 木	補講期間				
2月3日 金	補講期間				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月6日 月	補講期間				
2月7日 火	補講期間				
2月8日 水	補講期間				
2月9日 木	補講期間 (第2学期末試験)				
2月10日 金	補講期間 (第2学期末試験)				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月13日 月	補講期間 (第2学期末試験)				
2月14日 火	補講期間 (第2学期末試験)				
2月15日 水	補講期間 (第2学期末試験)				
2月16日 木	補講期間 (第2学期末 授業補講・試験予備日)				
2月17日 金	補講期間 (第2学期末 授業補講・試験予備日)				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月20日 月	補講期間（第2学期末 授業補講・試験予備日）				
2月21日 火	補講期間（第3学期末 授業補講・試験予備日）				
2月22日 水	補講期間（第4学期末 授業補講・試験予備日）				
2月23日 木	補講期間				
2月24日 金	補講期間		前期入試準備		

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月27日 月	補講期間				
2月28日 火	補講期間				
2月29日 水	補講期間				
3月1日 木	補講期間				
3月2日 金	補講期間				

第23週

23	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月5日 月	補講期間				
3月6日 火	補講期間				
3月7日 水	補講期間				
3月8日 木	補講期間				
3月9日 金	補講期間				

平成23年度 講義・実習時間割 3年次生

前期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月4日 月					
4月5日 火					
4月6日 水			授業ガイダンス	授業ガイダンス	
4月7日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
4月8日 金	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301.303.305		定期健康診断(午後休講)	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第1週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月11日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
4月12日 火	公衆衛生学 (※加藤)				
4月13日 水	公衆衛生学 (※加藤)				
4月14日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
4月15日 金	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301.303.305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第2週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月18日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
4月19日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305.マルチ	疫学 (※真鍋) 305.マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
4月20日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
4月21日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
4月22日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301.303.305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第3週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月25日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
4月26日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋) 305, マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
4月27日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
4月28日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
4月29日 金	昭和の日				

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月2日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
5月3日 火	憲法記念日				
5月4日 水	みどりの日				
5月5日 木	こどもの日				
5月6日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習III」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月9日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
5月10日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋) 305, マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
5月11日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
5月12日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
5月13日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習III」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月16日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
5月17日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
5月18日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
5月19日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
5月20日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月23日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
5月24日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
5月25日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
5月26日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
5月27日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月30日 月			在宅援助論 (松井) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
5月31日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
6月1日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
6月2日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
6月3日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	看護と国際社会 (峠, 祖父江, 他) 301	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月6日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
6月7日 火	産業保健・看護論 (※浅川, ※脇谷, 他) 305	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋) 305, マルチ	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305	
6月8日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305	看護クリティカルシンキング (清水) 305		
6月9日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
6月10日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月13日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
6月14日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305, マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋) 305, マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健I (松井) 305
6月15日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
6月16日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
6月17日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月20日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
6月21日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305, マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305, マルチ	疫学 (※真鍋) 305, マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健I (松井) 305
6月22日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
6月23日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
6月24日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月27日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
6月28日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
6月29日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
6月30日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
7月1日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健 II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月4日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
7月5日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
7月6日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
7月7日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
7月8日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健 II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月11日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス(Willey) 大B
7月12日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
7月13日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
7月14日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
7月15日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健 II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月18日 月	海の日				
7月19日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
7月20日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
7月21日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 (大西, ※丸山, 他) 301	母性援助論 (内藤, 他) 301
7月22日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW;演習IIN」 (Willey・長井)301,303,305	看護研究基礎論 (當日, 谷本) 301	学校保健 II (※中西) 303	養護原論 (※中西) 303

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月25日 月			成人看護学演習 (清水, 當日, 金正) 305		
7月26日 火	保健統計論・疫学 (※真鍋) 305,マルチ	保健統計論 (※真鍋) 305,マルチ	疫学 (※真鍋) 305,マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
7月27日 水	地域ケースワーク論 (片山陽, 越田) 305	母性保健対象論 (内藤, 他) 305			
7月28日 木	第一学期末試験				
7月29日 金	第一学期末試験				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
8月29日 月	夏季休業				
8月30日 火	夏季休業				
8月31日 水	夏季休業				
9月1日 木	補講期間				
9月2日 金	補講期間				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月5日 月	補講期間				
9月6日 火	補講期間				
9月7日 水	補講期間				
9月8日 木	補講期間				
9月9日 金	補講期間				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月12日 月	補講期間				
9月13日 火	補講期間				
9月14日 水	補講期間				
9月15日 木	補講期間				
9月16日 金	補講期間				

第4週					
	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月19日 月	敬老の日				
9月20日 火	補講期間				
9月21日 水	補講期間				
9月22日 木	補講期間				
9月23日 金	秋分の日				

後期 第4週					
	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月26日 月	補講期間				
9月27日 火	補講期間				
9月28日 水	補講期間				
9月29日 木	補講期間				
9月30日 金	補講期間				

第2学期 第1週					
I	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月3日 月	臨地実習				
10月4日 火	臨地実習				
10月5日 水	臨地実習				
10月6日 木	臨地実習				
10月7日 金	実習		医学部祭(午後休講)		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月10日 月	体育の日				
10月11日 火	臨地実習				
10月12日 水	臨地実習				
10月13日 木	臨地実習				
10月14日 金	臨地実習				

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月17日 月	臨地実習				
10月18日 火	臨地実習				
10月19日 水	臨地実習				
10月20日 木	臨地実習				
10月21日 金	臨地実習				

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月24日 月	臨地実習				
10月25日 火	臨地実習				
10月26日 水	臨地実習				
10月27日 木	臨地実習				
10月28日 金	臨地実習				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月31日 月	臨地実習				
11月1日 火	臨地実習				
11月2日 水	臨地実習				
11月3日 木	文化の日				
11月4日 金	臨地実習				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月7日 月	臨地実習				
11月8日 火	臨地実習				
11月9日 水	臨地実習				
11月10日 木			認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア
11月11日 金	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション		

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月14日 月	臨地実習				
11月15日 火	臨地実習				
11月16日 水	臨地実習				
11月17日 木			認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア
11月18日 金	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月21日 月	臨地実習				
11月22日 火	臨地実習				
11月23日 水	勤労感謝の日				
11月24日 木			認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア	認知症高齢者のケア
11月25日 金	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション	精神障害者の リハビリテーション		

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月28日 月	臨地実習				
11月29日 火	臨地実習				
11月30日 水	臨地実習				
12月1日 木	臨地実習				
12月2日 金	臨地実習				

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月5日 月	臨地実習				
12月6日 火	臨地実習				
12月7日 水	臨地実習				
12月8日 木	臨地実習				
12月9日 金	臨地実習				

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月12日 月	臨地実習				
12月13日 火	臨地実習				
12月14日 水	臨地実習				
12月15日 木	臨地実習				
12月16日 金	臨地実習				

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月19日 月	臨地実習				
12月20日 火	臨地実習				
金曜日振替 12月21日 水	臨地実習				
12月22日 木	臨地実習				
12月23日 金	天皇誕生日				

(第3学期)

第1週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月2日 月	冬季休業				
1月3日 火	冬季休業				
1月4日 水	冬季休業				
1月5日 木	冬季休業				
1月6日 金	冬季休業				

第1週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月9日 月	成人の日				
金曜日振替 1月10日 火	臨地実習				
1月11日 水	臨地実習				
1月12日 木	臨地実習				
1月13日 金	臨地実習		センター試験準備		

第2週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月16日 月	臨地実習 看護研究				
1月17日 火	臨地実習 看護研究				
1月18日 水	臨地実習 看護研究				
1月19日 木	臨地実習 看護研究				
1月20日 金	臨地実習 看護研究				

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月23日 月	臨地実習 看護研究				
1月24日 火	臨地実習 看護研究				
1月25日 水	臨地実習 看護研究				
1月26日 木	臨地実習 看護研究				
1月27日 金	臨地実習 看護研究				

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月30日 月	臨地実習 看護研究				
1月31日 火	臨地実習 看護研究				
2月1日 水	臨地実習 看護研究				
2月2日 木	臨地実習 看護研究				
2月3日 金	臨地実習 看護研究				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月6日 月	臨地実習 看護研究				
2月7日 火	臨地実習 看護研究				
2月8日 水	臨地実習 看護研究				
2月9日 木	臨地実習 看護研究				
2月10日 金	臨地実習 看護研究				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月13日 月	臨地実習				
2月14日 火	臨地実習				
2月15日 水	臨地実習				
2月16日 木	臨地実習				
2月17日 金	臨地実習				

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月20日 月	臨地実習				
2月21日 火	臨地実習				
2月22日 水	臨地実習				
2月23日 木	臨地実習				
2月24日 金	臨地実習		前期入試準備		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月27日 月	補講期間				
2月28日 火	補講期間				
2月29日 水	補講期間				
3月1日 木	補講期間				
3月2日 金	補講期間				

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
3月5日 月	補講期間				
3月6日 火	補講期間				
3月7日 水	補講期間				
3月8日 木	補講期間				
3月9日 金	補講期間				

平成23年度 講義・実習時間割 4年次生

前期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月4日 月					
4月5日 火					
4月6日 水	授業ガイダンス				
4月7日 木	臨地実習				
4月8日 金	臨地実習		定期健康診断（午後休講）		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月11日 月	臨地実習				
4月12日 火	臨地実習				
4月13日 水	臨地実習				
4月14日 木	臨地実習				
4月15日 金	臨地実習				

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月18日 月	臨地実習				
4月19日 火	臨地実習				
4月20日 水	臨地実習				
4月21日 木	臨地実習				
4月22日 金	臨地実習				

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月25日 月	臨地実習				
4月26日 火	臨地実習				
4月27日 水	臨地実習				
4月28日 木	臨地実習				
4月29日 金	昭和の日				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月2日 月	臨地実習				
5月3日 火	憲法記念日				
5月4日 水	みどりの日				
5月5日 木	こどもの日				
5月6日 金	臨地実習				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月9日 月	臨地実習				
5月10日 火	臨地実習				
5月11日 水	臨地実習				
5月12日 木	臨地実習				
5月13日 金	臨地実習				

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月16日 月	臨地実習				
5月17日 火	臨地実習				
5月18日 水	臨地実習				
5月19日 木	臨地実習				
5月20日 金	臨地実習				

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月23日 月	臨地実習				
5月24日 火	臨地実習				
5月25日 水	臨地実習				
5月26日 木	臨地実習				
5月27日 金	臨地実習				

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月30日 月	臨地実習				
5月31日 火	臨地実習				
6月1日 水	臨地実習				
6月2日 木	臨地実習				
6月3日 金	臨地実習				

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月6日 月	臨地実習				
6月7日 火	臨地実習				
6月8日 水	臨地実習				
6月9日 木	臨地実習				
6月10日 金	臨地実習				

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月13日 月	臨地実習				
6月14日 火	臨地実習				
6月15日 水	臨地実習				
6月16日 木	臨地実習				
6月17日 金	臨地実習				

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月20日 月	臨地実習				
6月21日 火	臨地実習				
6月22日 水	臨地実習				
6月23日 木	臨地実習				
6月24日 金	臨地実習				

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月27日 月	臨地実習				
6月28日 火	臨地実習				
6月29日 水	臨地実習				
6月30日 木	臨地実習				
7月1日 金	臨地実習				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月4日 月	臨地実習				
7月5日 火	臨地実習				
7月6日 水	臨地実習				
7月7日 木	臨地実習				
7月8日 金	臨地実習				

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月11日 月	臨地実習				
7月12日 火	臨地実習				
7月13日 水	臨地実習				
7月14日 木	臨地実習				
7月15日 金	臨地実習				

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月18日 月	海の日				
7月19日 火	臨地実習				
7月20日 水	臨地実習				
7月21日 木	臨地実習				
7月22日 金	臨地実習				

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月25日 月	臨地実習				
7月26日 火	臨地実習				
7月27日 水	臨地実習				
7月28日 木	臨地実習				
7月29日 金	臨地実習				

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
8月29日 月					
8月30日 火					
8月31日 水					
9月1日 木	補講				
9月2日 金	補講				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月5日 月	補講				
9月6日 火	補講				
9月7日 水	補講				
9月8日 木	補講				
9月9日 金	補講				

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月3日 月	看護研究Ⅱ				
10月4日 火					
10月5日 水					
10月6日 木					
10月7日 金					

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月10日 月	体育の日				
10月11日 火					
10月12日 水					
10月13日 木					
10月14日 金					

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月17日 月	看護研究Ⅱ				
10月18日 火					
10月19日 水					
10月20日 木					
10月21日 金					

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月24日 月	看護研究Ⅱ				
10月25日 火					
10月26日 水					
10月27日 木					
10月28日 金					

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月31日 月	看護研究Ⅱ				
11月1日 火					
11月2日 水					
11月3日 木	文化の日				
11月4日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月7日 月					
11月8日 火			看護クリティカルシンキング (精神) (越智) 301		
11月9日 水					
11月10日 木		看護クリティカルシンキング (地域) (大西, 松井, 他) 301		原著講読 (田中, 越田) 301	
11月11日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月14日 月					
11月15日 火			看護クリティカルシンキング (精神) (越智) 301		
11月16日 水					
11月17日 木		看護クリティカルシンキング (地域) (大西, 松井, 他) 301		原著講読 (田中, 越田) 301	
11月18日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月21日 月					
11月22日 火	看護管理学	看護管理学	看護クリティカルシンキング (精神) (越智) 301		
11月23日 水	勤労感謝の日				
11月24日 木	看護管理学	看護管理学	看護管理学	看護管理学	
11月25日 金			推薦入試準備		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月28日 月					
11月29日 火		看護管理学	看護管理学	看護管理学	
11月30日 水					
12月1日 木		看護クリティカルシンキング (地域) (大西, 松井, 他) 301		原著講読 (田中, 越田) 301	
12月2日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月5日 月					
12月6日 火					
12月7日 水					
12月8日 木				原著講読 (田中, 越田) 301	
12月9日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月12日 月	地域看護学特論				
12月13日 火	地域看護学特論				
12月14日 水	地域看護学特論				
12月15日 木	地域看護学特論			原著講読 (田中, 越田) 301	地域看護学特論
12月16日 金	地域看護学特論				

地域看護学特論の講義時間については別途掲示

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月19日 月					
12月20日 火					
金曜日振替 12月21日 水					
12月22日 木	天皇誕生日				
12月23日 金					

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月2日 月	冬季休業				
1月3日 火	"				
1月4日 水	"				
1月5日 木	"				
1月6日 金	"				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月9日 月	成人の日				
金曜日振替 1月10日 火					
1月11日 水					
1月12日 木					
1月13日 金			センター試験準備		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月16日 月					
1月17日 火					
1月18日 水					
1月19日 木					
1月20日 金					

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月23日 月					
1月24日 火					
1月25日 水					
1月26日 木					
1月27日 金					

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月30日 月					
1月31日 火					
2月1日 水					
2月2日 木					
2月3日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月6日 月					
2月7日 火					
2月8日 水					
2月9日 木					
2月10日 金					

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月13日 月					
2月14日 火					
2月15日 水					
2月16日 木					
2月17日 金					

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月20日 月					
2月21日 火					
2月22日 水					
2月23日 木					
2月24日 金			前期入試準備		